

マンガ大賞
Cartoon grand prize

2010 マンガ読みが選ぶ 2009 年の一推 !!

マンガ大賞
Cartoon grand prize

THE RECOMMENDATION IN 2009
CHOOSEN BY MANGA READERS

2010

マンガ大賞 2010 決定！

ノミネート 10 作品を含む、全投票作品の

選考員コメント掲載！

マンガ大賞 2010 大賞受賞作品

コミックビーム / エンターブレイン

「テルマエ・ロマエ」 ヤマザキマリ

選考員コメント

一次選考

- 古代ローマと現代日本との共通点を見出しタイムスリップコメディとするモチーフながらも、「風呂」というテーマに拍子抜け。しかしこの意外性が、真似のできない作品に。実直でローマ人としての誇りに満ちた主人公が、現代日本の気さくなおじさんおばさんに囲まれながらも、驚きや発見に打ちのめされていく姿がまた滑稽。シャワー派だが風呂につかりたくなる。温泉行きたい。

ひょうたん書店 西田本店 / 筒口 征洋

- もうこれは読まないと判らない面白さがありますよね。テーマが秀逸です。今後のネタ出しが不安ではありますが…。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

- 一発アイデアかと思いきや、まさかのコミックス化！バカバカしいことを大マジメにやる主人公を見ているだけで楽しい

COMIC ZIN コミックバイヤー / 塚本 浩司

- 素朴で親かな「平たい顔族」と、生真面目なローマ人との噛みあうようで噛みあってない、逆に噛みあってないようで噛みあってる会話や、現代でのルシウスのリアクションがいちいち衝撃的すぎます！フルーツ牛乳を飲んだときの表情ったら！絵柄の好き嫌いや表紙の買いにくさで敬遠されていてはもったいない！

伊吉書院 類家店 / 中村 深雪

- 怪作！（笑）まじめな天然には勝てないわ～というか、おいおいそれは丸バクリだろう！という主人公の難問解決法に爆笑です。

啓文堂書店 吉祥寺店 / 山川 美香

- ハマる人続出！まずは読んでみてください日本の風呂と古代ローマ人がこんな形で漫画になるとは。生真面目な堀の深いローマ人の驚く表情がこれでもか！ってぐらい連続でどっぷり笑えます。日本の風呂の素晴らしさも味わえます

有隣堂 / 徳永 あけみ

- これは読んで正直やられた！と思った作品。人に勧められ、表紙を見て変態漫画か？と思った自分。読んでごめんなさい！と思わず誤ってしまいました。全く新しいジャンル誕生と嬉しく思い、こんなマンガ読んだことなかったので新鮮な感じで読むことが出来、とても面白かったです。古代ローマと現代風呂。古代ローマ人の感覚が分かって楽しめました。

三省堂書店海老名店・嘱託社員 / 近西 良昌

- なぜか現代日本の風呂にタイムスリップしまくるローマの浴場設計技師。彼の真剣さがほっこりとした笑いを誘う。

書評系ブログ「yama-gat site」管理人 / yama-gat

- 風呂マンガっていったい！？誰も思いつかないようなテーマでここまで描くとは・・・！しかも1巻って！？2巻目でのん！？2009年一番驚いたマンガです！

あゆみ books 小石川店 / 土屋 修一

-
- 風呂の魅力を知る全ての人におすすめします！古代ローマ人が現代の日本に来てしまうという設定を、最大限活かして笑わせてくれます。普段当たり前に入っている風呂、こうあるべきと信じて疑わない温泉の魅力を、ここまで新鮮に表現してくれるとは。そんでもって主人公がローマ人であるというプライドと、日本の風呂の工夫をそのまま自分の仕事とすることに対する後ろめたさのせめぎ合いに、小市民的な共感を感じて余計面白い。もっと風呂や温泉の存在に感謝しよう、と思いました…。

フリー WEB デザイナー / 河本 知香

- 1話で十分かと思いきや、なんと連載、しかも1巻と銘打たれてる…！その心意気を買いました。発想に脱帽。面白いです。まさに、読むなら「今」しかない。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中 香織

- 古代ローマ人と現代日本人（平たい顔の種族）は、お風呂でつながっています。年末にやってきたおそろべし存在。1回手にとってしまったら次の誰かに伝えないと気がすまない、インフルエンザ的な威力を持っている。いたって真面目に現代日本の物と対面し葛藤する古代ローマ人が笑いを誘う。一発やとなるかどうかはこれからの展開次第…。

三省堂書店 神保町本店 / 赤坂 真実

マンガ大賞
Cartoon grand prize
2010 マンガ読みが選ぶ 2009 年の一推 !!

二次選考

- 遙か時空を超えてつながるおフロへの愛。フロ愛。やっぱり肌と肌のフロ愛は大切です。

朝日新聞記者 / 小原 篤

- 一番突拍子もなかったのが1位に推します。これ、毎回お話を考えるのが本当に大変だ、と思います。説明のくどい感じもなく、全く違う2つの時代を組み合わせさせてみせるすごさに脱帽です。どの話も私の想像力を上回ってくるので、とても楽しいです。

会社員 / 林 礼春

- 描画力の確かさと視点の面白さがあります。この作品も老若男女問わず、楽しんでもらえると思います。今後の展開が楽しみです。

会社経営者 / 小野 ゆうこ

- テーマが風呂というのが真新しいが、それに加えて古代ローマ人が主人公で風呂を通じて現代の日本にタイムスリップしてくるという展開が斬新。タイムスリップして、日本の風呂を学び、古代に帰ってその日本風呂を活かす。至ってこの古代ローマ人が真面目に風呂を研究しているのが面白い。まだ1巻と出たばかりのコミックですが、最近の新刊の中では一番心に残った作品。

三省堂書店 海老名店 / 近西 良昌

- 風呂に入りゃ貴族も奴隷もみんな裸で一緒だね。風呂（だけ）と言う究極にセグメントされた世界で繰り広げられる、時空を超えた壮大でどうでもイイこの漫画。風呂上りにフルーツ牛乳の飲みながら飲むのが最高です。大推薦。

クリエイティブディレクター / NORISHIROCKS(hide2)

- 日本と古代ローマにこんな共通点があったなんて知らなかった…。学が無いからそうってしまったのかもかもしれませんが、初見の時に素直に浮かんだ言葉がこれでした。紀元前と現代を、風呂場で繋げてしまう発想は今まで誰も考えつかなかったのではないかと思います。この作品は風呂の逆ルネサンスとも言うべきモノではないでしょうか？主人公ルシウスが真面目に風呂について取り組んでいるだけに、逆に笑えてしまう部分もあり読み所もバッチリ押さえていますね。インパクトやアイディア等も含めて一位にしました。

まんが王八王子店 / 日吉 雄

- 日本のさまざまな文化に対して生真面目に繰り返されるルシウスのリアクションに笑わされながら、ページをめくる手が止まりませんでした。単行本1冊で、いや、ほんの数ページ、もっと言うならたったの数コマで、こんなにも人を惹きつけるコミックもなかなか無いと思います。「表紙だけでは何の漫画なんだかわからないけど、読んでみたらこんなに面白かった！」という、おトク感もいっぱいです！

伊吉書院 類家店 / 中村 深雪

- 読切の時から気になっていたのですが、まさかコミックスまでまとまるとは！ 正直ビックリ箱のようなネタだと思っていたので、失礼ながら続くとは思えなかったのですが、毎回毎回こちらの斜め上に行く展開で楽しませていただきました。店頭でいろんな方に薦めたり、読んだよという話を伺うのですが、非常に幅の広い読者層というか、結構年配の方も読んで、楽しんでいるのがびっくりであり、嬉しかったです。

COMIC ZIN コミックバイヤー / 塚本 浩司

- きゅーっときた！大旋風ですね。月刊連載化は一読者としては毎月読めて嬉しい限り。「テルマエ」（風呂）まわりにこだわってどこまでいけるか……。まだまだ楽しみです。

往来堂書店 / 三木 雄太

- これぞバカ知！ すべての風呂はローマに通ず。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店コミック担当 / 山本さとみ

- 一体何なんだ、この衝撃は！？ストーリーの展開は毎回同じなのに、思わず含み笑いを誘う。この含み笑いがジャブのように後から後から効いてくる。現代日本と古代ローマ、時代と場所が違えど人間の欲求を追求する姿をリズムカルに描かれた展開がつつい癖になってしまっていて止められなくなるんです。所謂一つの「病み付き」というやつですね。

HMV リバーウォーク北九州 チームリーダー / 阿部 大介

- どう評価していいのか難しい…とにかく衝撃的すぎて!! テーマ勝ちだよ! これは!

あゆみ books 小石川店 / 土屋 修一

- 久しぶりにマンガをジャケ買いしようと思った。「古代ローマ人が現在の日本のお風呂限定でタイムスリップ」という難解な前評判を聞いても、実際に読むまで作品の構造が理解できなかったが、読んで納得。銭湯・露天風呂・シャワー等という日常的に接している文化の素晴らしさを再発見するとともに、日本人のお風呂に対する並々ならぬ思いは洋の東西も時空も軽く超えると思った。同時に、2000 年前のローマ人たちがいやに身近に感じられる。この伝統が欧米人に受け継がれていたら、露天風呂での先進国サミットとか盛り上がっただろうに。残念でならない。続きが無事でますように…。

国分寺市議会議員 / 三葛 敦志

- 風呂好きなので。

文筆業 / 海猫沢 めろん

- なんとんでも「こんな作品もあったんだ!」という驚きにあふれているところがいい。この大賞がなければ、読むチャンスがなかったかもしれない。それに古代ローマの文明を知ることできるし。なにより古代ローマと日本の現在を比較して、日本のあり方が見えてくるのも面白い。

おたく史研究・腐男子 / 吉本 たいまつ

- 不意打ちだが、候補作の中で一番笑った。古代ローマ人が現代日本の風呂にタイムスリップするという、宴席での与太話のようなアイデアを真面目な絵でマンガにした作者(と、それを許した編集者)に脱帽します。日本側キャラを立てず、ルシウス視点で押し通したのもすばらしい。マンガって本当に何でもできるんだな—と思った。

中央公論新社 雑誌・書籍編集局次長 / 石田 汗太

- この発想は素晴らしい。次巻もこの勢い(面白さ)が持続するかに期待したい。

Amazon.co.jp Books エディター / 原田 圭

- 今年一のインパクトがあったマンガ。そして、周りに一番勧めたマンガでした。「古代ローマの設計技師、現代日本にタイムスリップ(※ただし風呂限定)」この斬新な設定と、展開のベタさにニヤニヤが止まりません! 全盛期の「ごっつええ感じ」のコントを見ている感じと言えば伝わりやすいでしょうか。また、突拍子も無い設定を破綻させることなく第1巻の5話を書き終え、さらに今後も続いていくところに、作者の「古代ローマ愛」、「風呂愛」を感じます。

フルハウス八戸ノ里店 店長 / 佐藤 誠

- 風呂マンガ、しかも古代ローマと現代日本という普通考えつかないアイデアを支持したい。そして、出てくる風呂が超気持ち良さそうで。多くの日本人が理解できると思う。

公務員 / 東くるみ

- 風呂ってやっぱりいいもんだと再確認、銭湯で風呂上がりに飲んだフルーツ牛乳が懐かしいです。とりあえずひとつ風呂浴びて、ビールをキューっとやれる現代日本の入浴事情がどれだけ恵まれているかがわかりました。いろんな人におすすめしたくなるマンガです。

教師 / 持丸宏司

- この漫画の魅力はなんといっても主人公のルシウスさん。ルシウスさんの驚愕する姿はとても可愛いくて次はいったい何に出会って驚くのか楽しみになってくる。でも、単なるギャク漫画ではなく日本の風呂の素晴らしさがそれとなく描かれていていろんな味わいが楽しめる作品です

有隣堂 / 徳永 あけみ

- これを考えたのはすごい！風呂限定で日本と古代ローマをタイムスリップ！これを描きましょう！となった経緯もぜひしりたいところです。ははは、とつい声に出して笑ってしまいます。特に食べたり飲んだりする時の顔！

恵文社バンビオ店 店長 / 宮川 元良

- 風呂ネタマンガとしては最高峰。

ブロガー / サイトウ マサトク

- 一次選考でスルーしてしまった自分のチキンぶりが恥ずかしいです。コレが大賞取ったらいかにインディーズなマンガ賞って感じでええんやないかというのはなはだ適当な理由で選んでみたり。

ヴィレッジヴァンガード町田 店長 / 大山 敏樹

- 悔しいけど、ヤラレマシタ。おもしろいです。

凸版印刷株式会社 / 紺野 慎一

- 今までにないテーマという斬新さとインパクトも自分の評価に無意識に入っていると思うので、今後続巻がこれ以上に面白いかどうかというのはとりあえずおいておいて……。本当に笑わせていただきました！！まず、表紙。美術品として慣れ親しんでいるとはいえ、股間が丸出しでしょ！びっくり！帯を読んでも内容がさっぱりイメージできない。でも、タオルの赤の映えた具合とか、カバーデザインはかなりツボ。まあ、とりあえず買って読もうやとページめくってみたら、できたのはローマ帝国、主人公は堅物のローマ人、ルシウス。うう〜ん。暗記が苦手で、日本史、世界史ともに学校の授業ではあんまりいい思い出がない自分には、「このマンガ、苦手かも…」とめくっていく…。そして数ページ進むとそこは日本の銭湯でした。何言ってるの？と思われそうですが、本当にそうなんです。日本の銭湯にワープしちゃったんです。突然のことに驚きつつも、冷静に銭湯を分析していくルシウス。自分たちが、当たり前と思っているものを、何も知らないルシウスがどんな風にとらえているのか。そのとらえ方が面白くて、面白くて。些細なものも、やや哲学的に分析しているので文字は多めですが、苦なく読みました。話と話の間に、ローマのフロに関する解説もあったり。ああ、こういう歴史の授業だったら好きになってたかもなあ。あと、自分のなかで高評価なのは、ワープした先で出会う、平たい顔族（日本人）のキャラクター。みんな、すげ〜いい人。突然あらわれた、言葉の通じない外国人になにかと世話を焼く。優しい…。でも、よく考えると「ぬくぬく」とか「ぽかぽか」って一番争いからかけ離れている言葉かもなあ。ラブアンドピース。フロは世界を救う。

鳥取県 米子高校 美術部 & マンガ研究部顧問 / 佐川 由加里

- ローマ人の自分達がこの世で一番優れている民族だという自負がこれでもかと崩される様子がとても面白い。本人が真面目なだけに。現代の日本では当たり前な事が、外国の人の目から見るとこう見えるのかと改めて再認識出来、幅広い世代の共感も得られる作品。

啓文堂書店 府中店 / 山本 仁美

- 風呂限定タイムスリップなんて！！マンガを風呂で読んじゃう、俺好みのふざけたマンガですが、こんなバカらしくて面白いマンガは他にない。マンガ大賞はこういうばかげた素晴らしいマンガに出合えるから最高だ。マンガ大賞が薦めたいマンガとの出会いを促進する稀有な大賞であるからして、自分が受けた楽しいショックに皆さんも是非、出会っていただきましょう。

フリープロデューサー / 小林 智之

- 誇り高い、まっぴりだか。どんなときでも誇り高いようとする古代ローマの風呂技師が、現代日本の風呂にタイムスリップしてきて、湯上がりのフルーツ牛乳に感動する物語。……いまで伝わるかな。ともあれ、絶対に、世界人類すべての中で、ヤマザキマリさんしか思いつかなかった奇想でしょう。いわば、イチゴ大福みたいな。読んでみて、初めてわかる面白さ。インパクトの一方で、ローマの風呂についての知識と、「笑える」ってことについては妥協がないこと、この上ないです。次の、「デトロイト・メタル・シティ」「聖☆おにいさん」です。平たい顔で、よかった…！

ニッポン放送アナウンサー / 吉田 尚記

- お風呂が巻き起こすタイムパラドックス漫画!? コミックの表紙も好き。

ミュージシャン / TA-SHI

- 入れないのも嘘だけど、1位になったら驚くわーという風呂マンガ。いや、大好きです。大好きだけど、笑えるけれど、でも1位…じゃない気がするけど、やっぱり面白い。困ったなあ。

ジュンク堂書店 池袋本店 / 田中 香織

- 趣味的な作品が思わぬポピュラリティーを獲得してしまった一例であろうが、やはりこの作品には微笑まざるをえない。

書評系ブログ「yama-gat site」管理人 / yama-gat

- このマンガは単純に面白い！とにかく、表紙からは想像もつかない内容。まさか、古代の西洋人が日本の風呂にタイムスリップしてしまうとは！しかも、毎回ネタが変わるかと思いきや「また風呂！」と思ってやられてしまった。お風呂だけで、こんなに内容が濃く、笑わせてくれたマンガは初めて。日本の風呂は偉大なんと思い、ついつい、銭湯に行きたくなってしまった。

フリーデザイナー / 平沼 寛史

- 『風呂+ローマ=ギャグ』の天才的な発想に一票！

漫画全巻ドットコム / 安藤 拓郎

- みんなお風呂が大好きなんですよ。発売タイミングもばっちりで大賞を取るなら今しかないと思います。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

- まさかの銭湯ネタ。しかも、現代日本と古代ローマ。いやー、やりすぎなはずなのに妙にしっくりくる。すごい面白かったです。シュールな感じがドツボにはまりました。一番良かったのはフルーツ牛乳を明けう時の「スッポン」って音。あれに拘るのを漫画で書くこと事態も、よくやるなーと。今後の展開は気になりますが、早くバシッと終わって欲しい！！

DJ/DJ RANUMA

- まさかのローマと日本の風呂コラボマンガ。すごい好きです。やーあれですよ！ローマ人の物語の隣に置きたいです(笑)

書店員 啓文堂書店吉祥寺店 / 山川 美香

- 一発屋の予感！来年はノミネートされないだろう。それだけに、今年ぜひ受賞してほしい作品。『聖☆おにいさん』的な、誰でも楽しめるギャグマンガ。下町育ちのわたしは、銭湯大好きなので、それだけでも惹かれた。日本人のお風呂文化がローマ人に通じている！という発想が面白い。『あれよんだ?』『あの、ウォシュレットのシーン、最高だったよね!』と、みんなでわいわい語り合ったり、クチコミで広がっていく作品。

三省堂書店 神保町本店 / 赤坂 真実

- ちょっとヘンテコで知識もついて何度も読み返す、持っていて嬉しいマンガ。大事にしたいです。

ブックファースト / 林 香公子

- ダントツに面白い！久しぶりに腹がいたくなるまで一人で笑いました。なんというか、完全にやられました。感情の揺れ幅という点では今回の中で間違いなく一番ですが、まだ1巻で今後の展開がいろんな意味で気になるので、2位に選びました。

フリー WEB デザイナー / 河本 知香

マンガ大賞 2010 ノミネート作品

モーニング / 講談社

「宇宙兄弟」 小山 宙 哉

選考員コメント

一次選考

- 今回がラストチャンス！この面白さは反則。絶対に勝て！！←迷惑(笑)

書店員 啓文堂書店吉祥寺店 / 山川 美香

- 今一番バランス良く面白い漫画だと思います。

PENICILLIN(vo)/HAKUEI

- 読者を飽きさせない展開と面白さは群を抜いていると感じます。宇宙というのは、自分とはまだ関係のない場所と思っていたけれど、この宇宙兄弟を読むと自然と宇宙を身近に感じふと空を月を見たくなる。宇宙飛行士の試験もリアルでとても楽しめました。ちょうど8巻。マンガ大賞を受賞してもよい作品だと思います。

三省堂書店 海老名店 / 近西 良昌

- 主人公のムッタがとても魅力的。一見風変わりだけど、全てをいい方向に転がしてしまう運さえも味方にするひきの強さ。宇宙飛行士試験にのぞむメンバーとの交流、その過程も丁寧に描かれていて引き込まれる。宇宙に憧れる気持ちが高まる、読んでいてとてもワクワクする漫画。

啓文堂書店 府中店 / 山本 仁美

- 「普通の人が、宇宙に行く。」この二つの言葉の間には、ひろーい、隔たりがある。でも、その二つの言葉の間を、小山宙哉の徹頭徹尾嘘のない想像力が、埋めてくれている。ちょうどこの8巻までで、普通の人が宇宙飛行士になるまでの物語がひとつ完結し、普通の人が宇宙に行く物語が、語られ始める。登場 人物たちが決めるところ決めるときの日常の美しさ、「できうる限りの努力」ってことの本当の価値に、何回、涙ぐんだか。どこまでも、オススメです。

ニッポン放送アナウンサー / 吉田 尚記

- 漫画を読んでてハラハラしたり、嬉しくなったり、笑いながら泣きそうになりました。読めば読むほど好きになる魅力がたまりません。

教師 / 持丸 宏司

- 昨年に続いて順調に面白かったので、今年も推薦させていただきます。宇宙飛行士を目指す兄の六太と、六太より一足早く宇宙飛行士となり月を目指す弟の日々人の物語。序盤はお兄ちゃんのエピソードがほとんどでしたが、話が進むに連れ日々人の活躍も多くなってきました。今後は兄弟の運命がどう絡んでいくのか期待です。

フルハウス八戸ノ里店 店長 / 佐藤 誠

- ノミネートできる作品が、既刊が8巻までの作品と言う事なので、今回がラストチャンスの「宇宙兄弟」。もうすでに人気作品だという声もあると思いますが、まだまだもっともっとたくさんの人に読んでもらいたい作品なので、あと一押ししたいと思います。韓国でも、昨年「宇宙兄弟」が発売されました。もちろん、大きくコーナー展開したのですが、買って帰ってくださるたくさんのお客様から、「面白い作品を紹介してくれて、本当にありがとう」とたくさんの人から声をかけられました。たくさんの人に読んでもらいたいです。

COMICCOZZLE(韓国) 店長 / 野田 真人

- 夢を現実にする男が身近に感じられ、わたしも頑張ろ〜！と素直に思える作品。

会社経営者 / 小野 ゆうこ

二次選考

- 10 歳になる娘から 68 歳になる父まで世代の違いを考えずに読んでもらえる作品だと思うので 1 位に推薦します。

会社経営者 / 小野 ゆうこ

- 巻を追う毎に面白くなる展開、そして読み手を飽きさせないストーリーが魅力です。宇宙飛行士という普段身近に感じる事のない世界と話題ですが、「宇宙兄弟」を読むと“宇宙”がそして“宇宙飛行士”が、さらにそれを目指している人達がとても身近に感じ興味が湧いてきます。主人公がきっと宇宙飛行士になって、宇宙に羽ばたく日が来るのだろーと思いつつ、そこに至るまでの頑張りや仲間との信頼関係と成長を応援しながら読みたい漫画です。元気が出る漫画です。

三省堂書店 海老名店 / 近西 良昌

- 閉塞感漂うこの時代に、兄弟で宇宙に挑戦するストーリーは爽快さ抜群！さあ、がんばろう！明日への活力が湧いてきます。

本と文具ツモリ / 津守 晋祐

- 昨年度のノミネート作品として出会って、すぐに自分の大好きな作品になりました。同じように 1 年前のノミネートがきっかけでこの作品を読んだ方々もきっと同じ思いで、この熱くてまっすぐな南波兄弟を見守ってきたのではないのでしょうか。去年は惜しくも 2 位でしたが、この 1 年の間にストーリーはどんどん進行し、相変わらずキャラクターたちは魅力的で、ますます目が話せない展開になっています。今年こそ大賞をとって、もっともっとたくさんの方にこの作品を手にとっていただきたいです。そして、いつか南波兄弟がそろって宇宙に行くときをみんなで待ちましょう！

伊吉書院 類家店 / 中村 深雪

- 今回、ノミネートされた作品の中で、もうこの作品しかありません。一人でも多くの人に手に取ってもらいたい気持ちでいっぱいです。そして、この作品は青年漫画ですが、その枠を越えてたくさんのお子さんにも目をキラキラさせて読んでもらえたら嬉しいです！昨年のコメントで私は「まだまだ度胸星を超えられてない」なんて生意気なコメントを出しましたが、今では私が一番好きな宇宙飛行士の漫画になりました！！！！近い将来、僕は、私は、「宇宙兄弟」を読んだから、宇宙飛行士になろうと思った！って、言うコメントが飛び交っているかもしれませんね。本当、たくさんの方に読んでもらいたいです！！！！！！

マンガ読みが選ぶ 2010 年の推し COMIC COZZLE (韓国) 店長 / 野田 真人

- 20 年前に「宇宙兄弟」に出会っていたならば、僕をはじめクラスのほとんどの男子が間違えなく卒業文集に「夢は宇宙飛行士」と書いていただろう ああ～「宇宙兄弟」に出会えて本当に良かった 30 を過ぎたこの僕に夢をありがとう

HMV リバーウォーク北九州 チームリーダー / 阿部 大介

- 前回で 1 位にずっと推していたので今回は敢えて 1 次選考から外した作品。ですが、今回のノミネート作品の中ではやはりぶっちぎりでマイベストでした！前回の時は宇宙への憧れと夢を持ち続けることの大切さが胸を打ったのですが、今はそこに宇宙の持つ『残酷さ』と『リアリティ』が加わり、さらに展開から目が離せなくなりました。それよりもなによりも、単行本の切れ目の見事さ…ズルいよ、あれは（笑）

芳進堂 ラムラ店 コミック担当 / 川崎 一利

- 絵もストーリーもキャラクターも文句なしです。主人公がまだ宇宙に行っていないのにこの面白さはヤバイです。今後が楽しみ過ぎです。

PENICILLIN(vo)/HAKUEI

- 8 巻に突入して、ますますアツい展開！主人公はじめ、登場人物のキャラクターを、過去現在絡め丁寧に描いていて、彼らがともに宇宙を目指す姿にグッときたり、元気をもらえたりします。イッキよみするならこのタイミング！

恵文社バンビオ店 文芸書 文庫担当 / 大瀧 彩子

- 面白いマンガはいっぱいある。でも 2010 年、大賞になってほしい、漫画読みだけでなく、漫画を普段読まない人にもオススメしたい作品といたらこの『宇宙兄弟』！宇宙飛行士になるための試験は初めて知る事ばかり。でも何より魅力は出てくる人の気持ち。みんなグッとくる熱い気持ちを持つてる主人公だけではなく、その試験に挑む一人一人に愛情をもって描いていて、読んでいる方もいろんな人に感情移入してしまう。そのせいか宇宙飛行士の合格発表、誰が残るか予想出来なかった…そして発表の時、泣きながらガッツポーズ出ちゃったよ！1人で…熱くなれます！

バイオリニスト / 佐藤 帆乃佳

- ムッタがイケメンじゃないところが素敵で好きです。一步一步、宇宙飛行士になる夢に近づいていくお兄ちゃんの姿を、たくさんの人に読んでもらいたい！

主婦 / 紺野 泉

- うん、文句無し。断然です！

凸版印刷株式会社 / 紺野 慎一

- 一見冴えない主人公ムッタがとにかく魅力的。見栄をはったり、いきあたりばったりな行動をするもののなんでしょう（してしまう？）強運の持ち主。宇宙飛行士試験での人間関係、ムッタの行動、言動によって育まれるものはとても大きい。時折挟まれる笑いが心地好い。宇宙への憧れを思い出させてくれる読んでいてワクワクする作品。

啓文堂書店 府中店 / 山本 仁美

- 素晴らしい人生漫画です。読めばわかる。

音楽プロダクションマネージャー / 樋口 健

- 「がんばる」が、嘘じゃない。「がんばる」って、マンガの中ではもうほとんど超能力、がんばれば、なんでもかなってしまう。でも、我々の世界と緩やかにつながっているこのマンガの中で、宇宙飛行士を目指す社会人である登場人物たちは、いろいろな生活や事情を抱えて、「がんばって」いる。「がんばる」というのは、自分の立場をすべて受け入れて、ほんのちょっと、理想に近づくために行動すること。そして、そのがんばった結果は、成功のときも不成功でも、受け入れなくちゃいけない。その受け入れシーンが、成功のときも不成功のときも、全部泣き所です。でも、その涙は全部、嬉し涙と感動の涙。ポジティブな涙。このストーリーを、宇宙開発にまつわるびっくり面白知識をさりげなく感じながら、読める。最高です。今年、ダントツでした。気持ちの上で、一番応援したいマンガです。

ニッポン放送アナウンサー / 吉田 尚記

- 「誰にでも」薦められるマンガを選ぶとしたら、今年はこの作品が一番だった。うん、やっぱり面白い！夢を見ること、叶えること。全てがうまくいくことはないと既に知ってしまった身であっても、その物語には胸が躍る。嫌なことも辛いことも、叶わぬ夢も理想も現実もあるけれど、でも、夢を見るのをやめてしまったら、次の一步はどこへ踏み出すというのだろうか？どこか間抜けで憎めない、そして嘘がない六太の存在は、見ているだけでも笑みがこぼれる。少し元気がない時、先を見るのが嫌になってしまった時、そんな時に読んでみてほしい。読み終わった後、きっと足を踏み出したくなっているはず。心が、踊っているはず。ぜひ、読んでみてください。

ジュンク堂書店 池袋本店 / 田中 香織

- 重すぎず軽すぎない人間省察で描かれる骨太のストーリーにはいつも引き込まれる。ついに舞台（の一部）が宇宙となり、佳境を迎えるこれからがさらに楽しみ。

書評系ブログ「yama-gat site」管理人 / yama-gat

- 総合的に見ると、やっぱり一番面白かったです。これまでも面白いし、これからもワクワクするような予感が期待が膨らみます。ストーリーもシンプルでかつ重みがある。本当に喜怒哀楽の表現がしっかりしていて、一つ一つの感動が綺麗に共感できます。この先、兄が宇宙に行く日がくるのか。それまでのプロセスに人一倍期待しています。文句なしの一番でした。

DJ/DJ RANUMA

- 実は2位の作品も同率首位にしたかったくらい面白いのですが、今年はどうしても宇宙兄弟を押したかったのです。展開が今もっとも読めないマンガです。宇宙ではなにが起こるか分からないですからね！

書店員 啓文堂書店吉祥寺店 / 山川 美香

- 宇宙兄弟は、マンガらしいマンガだと思う。夢に向かって、挫折しながらも突き進んでいく。その熱さが、たまらなく好き。やっぱり、1位に選ぶ作品は、読む人を選んでほしくない。この作品は、そういった意味でも自信をもって推薦できる。大体の作品は、ある程度巻数が増えたと落ち着いてきてしまうもの。しかし、この作品は話が進むごとにどんどんおもしろくなっていく。あらためて読み返してみて、いい作品だなーと実感した。

三省堂書店 神保町本店 / 赤坂 真実

- 去年一気に読んで、今絶好調だな！と思いましたが、その後もテンション落とさず毎週楽しませてくれるマンガです。テルマエとどちらにするか最後まで悩みましたが、8巻というボリューム、手にとるなら今かな、ということで、こちらを選びました。厚みのある、丁寧なマンガです。誰にでもオススメできると思いますし、知名度あると思ったら意外と読んでない人もいるので、この機会に大賞をとってほしいな。

フリー WEB デザイナー / 河本 知香

- 去年も面白く、今年も面白く読みました。大賞でもおかしくありません。はい。

株式会社ネビュラプロジェクト プロモーション・ディヴィジョン / 小森 和博

- 昨年度に続いての第2次選考ノミネートであるが、その後1年間の連載を追いかけてみて、作品のクオリティやテンションが全く落ちていないのが素晴らしい。タイトル通り、“兄弟”という関係性にスポットが当たる物語展開も良かった。

Web サイト「最後通牒」管理人 / 高嶺 おろし

- ページをめくっていくと、そうあって欲しい運命や人物に出会えるので嬉しくなります。巻を追うごとに好きになりました。ぜひ沢山の手にとって欲しいマンガです。

教師 / 持丸宏司

- 六太と日々人の何だかんだ言ってもしっかりと繋がっている絆が好き。そして六太のひねくれ感もなんだか気持ちに共感できて好き。夢は何歳からでも追い始められるし頑張れる気にさせてくれるマンガ。願わくばせりかさんと六太の恋模様の話もよませてくださいー！！

フリーカメラマン / 平沼 久奈

- たまに実はギャグマンガなのでは？と思ってしまうことも在る、とても日常的でマンガ非日常的なマンガです。

デザイナー / 佐藤 優

- むっちゃんガンバレ！！と応援したくなるそして8巻の終わり・・・続きが気になって本誌まで読んでしまいました。

(株)成田本店とわだ店 主査 / 安田 幸

- 前回2位の实力は本物だ！やはり面白いよ！宇宙兄弟は！

あゆみ books 小石川店 / 土屋 修一

- 宇宙飛行士を目指すある兄弟の壮大な物語、を登場人物たちのあたたかさで語る作品。そのあたたかさに何度もうぐつときた。泣きそうになった。幼い頃に見たUFO(?)から、弟は弟なりに、兄は兄なりに宇宙を目指す。成功・挫折・ふとした転機・捨てられない夢・兄としてのプライド・弟としての気遣い。それらに織りなされる物語に、文字通り一喜一憂させられ、理不尽さにとともに憤りを感じる。そうして、ごく親しい人が宇宙飛行士を目指しているかのような錯覚にとらわれていく。以前、宇宙飛行士の向井千秋さんが講演で夢に向かって頑張ることを強調していた。宇宙は、まさに見果てぬ夢。ひたむきに頑張る兄弟から、全ての読者が勇気をもらえると確信する。

国分寺市議会議員 / 三葛 敦志

-
- アツい作品だろうなと思ったらやっぱりアツい作品でした。でもそこが好き。一冊ずつ読むと冗長な気がするのですが、どばーっとまとめて一気に読みするのをオススメします。

元書店員 (三省堂書店経済産業省売店勤務) / 畑中 瀬路奈

- 去年はマンガ大賞POP職人、久保さんがPOPに「たぶん初！宇宙への就活マンガ」と書いたが実際に我々にとっては「再就職マンガ」なのである。再就職の先にオットロしいほどの困難と、無限の可能性があるなんて、おいおい出来すぎだろう。マンガ大賞のノミネートを毎年見ていると思うけど、大人なマンガが多いんです。正確には不況があろうが、人間関係になやんでいようが、ヒキコモリだろうが、ニートだろうが、夢追っちゃってようが、もがいてそれを楽しんで、強い登場人物、なんと多いことか。宇宙兄弟。実写化不能。V i v a宇宙への再就職。

フリープロデューサー / 小林 智之

マンガ大賞

Cartoon grand prize

2010

マンガ読みが選ぶ 2009 年の一推 !!

マンガ大賞 2010 ノミネート作品

週刊少年ジャンプ / 集英社

「バクマン。」 大場 つぐみ 小畑 健

選考員コメント

一次選考

- 2009 年の漫画といえば「バクマン。」を挙げるしかないでしょう。漫画家を描いた作品は他にも沢山ありますが、回顧録や私小説でなく、きちんと「週刊少年ジャンプの少年マンガ」となっているのがこの作品の特殊なところ。漫画業界の内情をこれでもか！とさらして、ライバルたちと切磋琢磨しながら厳しい生存競争を戦い抜く姿は、少年マンガの熱さを持ちながらも、大人が読んでも大満足できると思います。今年の大本命です。

フルハウス八戸ノ里店 店長 / 佐藤 誠

- 2ch 風に言うと、まさに「釣られた」の一言ジャンプ編集部が仕掛けた壮大な「釣り」に完全にやられました。毎週ジャンプが楽しみです。

COMIC ZIN コミックバイヤー / 塚本 浩司

- バックステージものをやっても王道になるところがさすがな 2 人。これからどう展開していくのかが楽しみな作品。

株式会社ネビュラプロジェクト プロモーション・ディヴィジョン / 小森 和博

- 2009 年の漫画界を振り返ってみて、話題作としてはまず外せない作品。人によって色々な読み方が出来ると思うが、やはり現在一番売れている漫画誌である「ジャンプ」でこういった作品が連載されたインパクトは大きく、それが『デスノート』でヒットを飛ばした実績のあるコンビによるものであるなら尚更である。マンガの製作現場を舞台とした“漫画家マンガ”と呼ばれるジャンルは昨今では珍しくないが、架空の雑誌を舞台にしたものや作者の私小説的な作品が多数を占める中、誰もが知っている「ジャンプ」の編集部を舞台に虚実を織り交ぜながらもかなり突っ込んだ裏事情までが描かれていて、マンガ好きにとっても大変興味深い。

Web サイト「最後通牒」管理人 / 高嶺 おろし

- 前作とは全くベクトルの違う作品にも関わらず、無理やりにでも作品の世界に引き込んで行くその腕力の強さは変わらず。少年マンガの良いどころ (笑)。

Juvenile. 音楽家 / 児嶋 亮介

- 最初はどうかあと思ってましたが、巻を増すごとに面白くなっており、さすがだなと思いました。今、ジャンプで最も楽しみにしているマンガです。若いマンガ家たちの情熱に、目が離せません！

旭屋書店 船橋店 / 安田 奈緒美

- 一見挑発的だが、きわめて正しいジャンプメソッドにあふれたお手本 (!) のような作品。こんなマンガが「ジャンプ」で読めるようになったのは時代のせいかな？

サブカル研究 / 荒川 澄

- 新境地のジャンルとしてのスリリングさと、テーマの青臭さがありながらも、読む時には完全に身を委ねられる魅力と、深いポテンシャルを感じます。

PENICILLIN(vo)/HAKUEI

- まさに現代版「まんが道」。勉強になる。

アンチバッティングセンター / 増山 寿史

-
- 集英社＆少年ジャンプの内幕ネタはどこまでホントなのかに興味津々。さらに個性豊かなライバルたちの投入、いきなりの大アクシデントと、マンガ家人生は息もつかせぬジェットコースター。「売れるマンガ」を目指すマンガ家を描くマンガが、あざといまでの仕掛けに満ちているところもまた、メタな読みを誘う作者のたくらみなのでは？と勘ぐりたくなります。

朝日新聞記者 / 小原 篤

- なんというか・・・物を創る人にとっては、夢見たいなお話で・・・夢の見える漫画はいいですね。

デザイナー / 佐藤 優

- マンガ家の話しというより、出版社・・・週刊のコミック誌編集部・・・というか、Jump の内情が垣間みれて面白い。 自分もマンガ家になった気分になり、どういうマンガを描けばアンケートの上位に入れるのだろうと真剣に悩んでしまったりする。 最新刊（6巻）の展開がびっくり！あと、気持ちが大人になった主人公をみてて楽しい。

アニメイト / 鈴木 寛子

- どんどん気になる展開に！夢を追いかけるまっすぐさや、努力とパワーで叶えていく姿が気持ちいい！！それぞれの人物設定も細かくてさすがです！

フジテレビアナウンサー / 松尾 翠

マンガ大賞
Cartoon grand prize
2010 マンガ読みが選ぶ 2009 年の一推 !!

二次選考

- 1巻が出たのが1月で、ほかの賞も取っていることから、なにも今選ばなくても、という空気があるかもしれませんが、やはりこれでしょう。とにかく毎週ジャンプが楽しみでした。2ch 風に言うと、明らかに「釣りだろ、コレ」っていうのがわかりましたが、あえて釣られてみました。キャラの魅力もここにきて確変ともいえる蒼樹さんのたちっぷりはハンパなく、久々にキャラにモエました。毎週楽しみではない、こんな気分させる漫画に出会えたことが嬉しかったです。

COMIC ZIN コミックバイヤー / 塚本 浩司

- やはり、「今最も続きが読みたくなるマンガ」だ。どこまでが本当でどこからがフィクションかなんてことはこの際、問題じゃない。この若い2人がこれから（来週）どうなるのか、という一点だけに絞りきることに成功した強度を持った作品。

サブカル研究 / 荒川 澄

- 今年は苦しい。昨年のように「コレ！」というものが無い。ここで『バクマン。』を押すのも苦しい。ジャンプの人気マンガをあえてこの賞で選ぶ理由があるのか？ また正直言って、作品として大成功しているとも思えない。それでも肩入れしたいのは、まず「マンガ家マンガ」として空前絶後の作品であること。「マンガ家マンガ」は一種のブームだが、多くがノスタルジックな味付け。つまり古き良きマンガ時代への郷愁。でも『バクマン。』は違う。2010年の、もっとも過酷な戦線にいる週刊マンガ戦士たちの苦闘を、これでもかとばかりに描く。マンガ家だけじゃない、編集者の戦いを描く作品でもある。キレイゴトばかりじゃないのがいい。この賞の特性により、週刊連載マンガは受賞のチャンスが少ないという理由も少しある。さらに、現在のジャンプでの連載がやや迷走気味なので、応援したいという気持ちもある。そういったもろもろの理由で、この作品を1位に推します。

中央公論新社 雑誌・書籍編集局次長 / 石田 汗太

- 人気がすべて、という職業漫画家の世界をジャンプならではのバトルシステムに則って描く。最近目立つ“漫画家主人公もの”の中でも出色の発想で、それがストーリーの展開に少年マンガらしいスピード感を与えている。ていうかこの舞台設定でジェットコースターにならなきゃ ですね。ほかのマンガ賞でも今季1位を取ったりしているので、マンガ大賞の独自性の確保も考えて（笑）推すのは敢えてやめておこうとも思ったのですが、既刊6冊を一気に読み切ってしまう「グイグイ力」はやっぱりワクワク魅力的なものでした。人間関係の描き方がちょっと典型的だったり、ストーリー展開に直接絡まない大人（親とか、香耶とか）のキャラクターや振る舞いにリアリティーがなかったり、と食い足りないところも多い作品なんだけど、そもそもが少年マンガだし、筋を追うことでハラハラ・ワクワクさせられればそれでOK的な確信犯なんでしょう。その意味で、都市伝説をさらに誇張したか！？ と思ってしまうくらい赤裸々に明かされる、少なくとも明かしたと受け止められてかまわない、と開き直ったようなJ誌編集部の「非情の掟」、つまり10週打ち切りシステムの内情の暴露の仕方と、それを舞台装置として敵役、味方入り乱れての激しい感情の応酬は、しょせん「絵空事」の世界と分かっているけど読み応えある。実際のこの作品の投票順位の変動を、週ごとに追いながら読んでみたいものです。

日本経済新聞社 編集委員 / 天野 賢一

- こーゆー専門的な漫画大好き！しかも漫画家！しかも小学生の頃から愛読しているジャンプ！ジャンプファンには嬉しい作品なんじゃないでしょうか。こんな漫画アリなんですね（笑）。それにしても漫画家の世界って本当に過酷なんだなと改めて感じた。ひとつひとつの作品をもっと大切に読もうって気持ちになります。今後の主人公達を温かい目で見守りたいです。

シンガー / 山野井 千佳

- かなり迷いました。これまでの展開と今後の展開に期待をして1位に選びました。

株式会社ネビュラプロジェクト プロモーション・ディヴィジョン / 小森 和博

- 思いつきフィクションなのに、リアル。王道なのに、邪道。作者タッグの前作とはま逆の、青臭い台詞やストーリー。やはりこの二人でないと出来ないものばかり。すごい。

Juvenile. 音楽家 / 児嶋 亮介

- 作中の言葉を借りるなら、一見“邪道”に見えるけど内容は「友情・努力・成功・ライバル・挫折・成長…」といった要素が詰め込まれた“王道”な少年マンガ、といった感じでしょうか。週刊連載でありながら、物語がかなりスピーディーに進行し、イベントが次々に起こっていく展開も魅力。

Web サイト「最後通牒」管理人 / 高嶺 おろし

- 昔を思い出した・・・共感度最大だったのでこれ。この必死さと勢いを忘れちゃいかんね。

IT系企業経営・元漫研編集長 / 平田 淳

- 2010 年マンガ賞レースにおいて首位を獲得しまくっている作品なので「マンガ大賞」で押さなくていいのではと穿った意見を持ってしまうほど。ジャンプに掲載分を読むと引っかけかと思った点も単行本で読むと気にならず面白く読めた。コミックス購入オススメ！

信長書店四条河原町店・アルバイト / 中村 誠亨

- 若き熱に気圧されながら新刊を追っかけてます。この物語に触発されて、漫画家を目指す少年少女がこれから現れることに期待してます！

アバンティブックセンター京都店 / 中村真依子

- 2009 年を代表するコミックといえば、「バクマン。」を挙げないわけにいきません。「マンガの現場」を垣間見て楽しみ、「マンガ内マンガ」の豊富なアイディアに驚き、「大場つぐみ＝ガモウひろし」説を自らにおわす小ネタにニヤニヤし、複数の要素がこのコミックを濃密なものにしています。マンガ家を描く漫画は以前からありましたが、どれも私小説的なものがほとんどでした。このジャンルでド直球のジャンプ的少年漫画を成立させたのは、大場先生・小畑先生の力量と発想力の豊かさが成せるわざなのでしょうね。

フルハウス八戸ノ里店 店長 / 佐藤 誠

- 凄くディテールがリアルなのに、汗臭くないというかエンタメ性が高いというか…孤高の存在感がある漫画だと思います。

PENICILLIN(vo)/HAKUEI

- ストーリーマンガは、ふつう、もどかしい。俯瞰で見ちゃってる読者からすると、「ああ、こうすりゃいいのに！」「早く、告白しちゃえばいいのに！」と、主人公が取るべき道はわかっちゃうものだ。たしか、吉本ばななさんだと思いますが、「自分の人生を映画として3回ぐらい見たら、人生の問題なんかだいたい解決しちゃうのではないか」と言ってましたが、ホント、そうだと思う。しかし、バクマン。は違う。読者の私が、「こうすりゃいいのに」と思う前に、もう、主人公たちが、予測もつかない、想像以上に前向きな行動を、常にとってくる！この、異常なスピード感は、どんなマンガとも違います。大メジャー中の大メジャー、あとちょっと食傷気味とも言えるぐらいたくさんあるマンガ家ものではあります。面白さは、今までのどのマンガとも違う、あたらしい面白さです。

ニッポン放送アナウンサー / 吉田 尚記

- 漫画界の王者、週刊ジャンプの内情をここまでさらけ出して良いものか（どこまで本当なんだろう・・・）？いままでに「無い」類の作品。やっぱりジャンプは凄い！

本と文具ツモリ / 津守 晋祐

- 週刊少年ジャンプの裏話的な面白さはもちろんのこと、主人公たち若手漫画家の、マンガに賭けるピュアでまっすぐな情熱が素晴らしい。次の展開が気になって、毎週ジャンプの発売をそわそわしながら待っています。話が進めば進むほど、面白さがどんどんアップしている不思議なマンガ。脇役もキャラが立っていて、ひとりひとりが実に魅力的。

旭屋書店 船橋店 / 安田 奈緒美

- こういう業界ネタジャンルは最近増えてきていますが、同人などアンダーグラウンドな部分よりメジャーフィールドのことを描いているので、僕のように音楽業界の人間には特に新鮮です。あと、それと関係なくキャラクターの造形がすごい魅力的です。

メガマン・ギター / 涼平

-
- マンガ界の現状と同時に、ある種の希望をもたらす作品。一度はマンガ家をめざした人、単にマンガの裏方の世界はどうあるのか興味がある人、もちろんマンガ家にこれからなるであろう人達にとっての、これはある意味「優良参考書」だ。超優良エンターテインメントであるこのマンガ業界の活力剤として応援せざるを得ない。

ダンス俳優 / 新井 文月

- 現代版のまんが道！ 努力&根性より、がんばる目標が「結婚」って。。 でも主人公2人とライバルが、切磋琢磨して作品を高め合うのはスポーツマンガのような爽快感がある。あと、主人公2人のマンガ作品の人気をどう上げれるのか読みながら自分が一緒になって考えてしまう。この体験が面白い！

アニメイト / 鈴木 寛子

- 鉄板の完成度。

ダ・ヴィンチ編集部 / 関口 靖彦

- マンガ界の中で最も謎に包まれている「少年ジャンプ」の内幕的な興味も見せつつ、作品そのものはやはり「ジャンプ」的構造に包含されるという、本質的には相当にトリッキーな作品だが、大場・小畑の最強タッグらしい力業が、作品を作品たらしめている。このままでどこまで<少年まんが>たり得るのか、その行く末を見守りたい。

同人誌研究家 まんが評論家 / 三崎 尚人

- ややネームが多すぎる嫌いはあるけど、面白さという点では随一。

ブロガー / サイトウ マサトク

- なんだかんだ言って続きが気になってしまう作品です。この作品を読んで漫画家を目指そうって思う人はいるのだろうか…。ジャンプ（SQ含む）以外で連載を持っている作家さんのエピソードとか出てくるともっと面白くなると思うんですが、それは難しいのかな。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

2010 Cartoon grand prize マンガ読みが選ぶ 2009 年の一推 !!

マンガ大賞 2010 ノミネート作品

ビッグコミックス / 小学館

「アイアムアヒーロー」 花沢 健 吾

選考員コメント

一次選考

- 「ボーイズ・オン・ザ・ラン」の作者の新作だということ以外何の予備知識もない状態で1～2巻を一気に読んで、「すげー！こえー！すげー！」と友達にメールしまくった。が、僕にはメールを送れる友達がそれほどいなかったことに気づいてため息をついた。その後、5回読み返してまたため息をついた。2009年最高峰。

アンチパッシングセンター / 増山 寿史

- 急展開に驚愕しました。こんな展開ありなんですね。

漫画全巻ドットコム / 安藤 拓郎

- ひさびさに、ものすごいことになりそうなマンガ。『ワールド・イズ・マイン』『ドラゴンヘッド』のような黙示録級作品になる予感。

ダ・ヴィンチ編集部 / 関口 靖彦

- 衝撃度ならば2009年で一番強かった漫画。迫りくる混沌と恐怖の中に感じるごく普通の日常感が、ものすごいリアリティを感じさせます。孤独から目をそらす冴えない青年が今後どう動いていくのか。続きが楽しみですだ～

DJ/DJ RANUMA

- とにかく見てほしいゾンビ漫画。1巻を最初読んでいた時は古谷実先生の最近の作風のように日常がどんどん侵されていくお話のかなと思っていたのですが1巻ラストで「！！！」ってなりました。こういう内容だったの？みたいな。突然事件が起こるまでの主人公の鬱屈した日々や幸せな彼女との日々があっただけに。なんて心臓ではなく心に悪い前フリ。。事象は既に早い段階で現れていたのですが2巻ではそれが爆発的に蔓延します。てゆうか足の速いゾンビって最近映画でも増えてますが、花沢先生の描き方が不気味すぎです。特にババア怖すぎる。

ミュージシャン / TA-SHI

- おそらく、今が一番面白い漫画です。主人公秀雄の丹念な日常描写と、間に挟まれる現実か妄想かわからない不可思議な光景、そして衝撃的な1巻のラスト。引き続き、謎は深まり、状況は緊迫する2巻。この緊迫感を維持したまま最後まで描ききってくれば大作となります。しかし長く続くとどんなに面白くても慣れてしまいますので、連載が続けば続くほど全体の評価は変わってゆくとは思いますが、2巻の時点では、文句なしに面白いです。ただし、「注意！この漫画には暴力的・グロテスクな表現があります」というゲームのバイオハザード的な注意書きが入ります。

ジュンク堂書店新宿店 コミック担当 / 小磯 洋

- ゾンビのようなものが出てくる漫画と言えるのだが先が読めないでそれ以上のことはわからない・・・とにかく続きが早く読みたい！！

あゆみ books 小石川店 / 土屋 修一

- 序章のゆったりとゆったりとした日常や回顧に、いろいろなポイントが隠されているのがすごい！とにかく、一度加速したらとまらない展開。いやーすごい！ほんとにすごい！！

アニメイト / 鈴木 寛子

-
- 漫画家の主人公のマンガってどれも面白い気がする、、。リアルだから？だが、この作品はそこは序章。予想もつかない展開で、このジェットコースターを楽しませてもらってます。

Juvenile. 音楽家 / 児嶋 亮介

- 毎週ドキドキですね。この作者の作品の主人公はどれもものすごく親近感が沸くというか、他人とは思えないというか、キモさが他人のものとは思えないので、どうなることかといつも展開が気になります。

会社員 / 林 礼春

- 「アイムアヒーロー」とは、自分を鼓舞するように主人公が呟く口癖。35 歳にしてマンガ家の卵、毎日何か鬱屈したものを抱え、妄想やひとり言が激しい彼の日常は、読者には現実に行っていることなのか主人公の妄想なのかははっきりしない描写が続きますが、いたって想像通りの「パッとしない男の日常」です。しかし、そんな想像を見事にぶっ飛ばす怒涛の展開が 1 巻ラストに訪れます。そこまで読んで始めて、日常描写はこの衝撃のための前フリだったと気付いてゾッとしてしまうはず。今後の展開が全く読めない気味の悪さがあるので、心臓の弱い人は 2 巻が出るまでは読まない方がいいかも？

カルチャ・コンビニエンス・クラブ株式会社 / 豊島 さやか

- ダメ男漫画、みたび、と思わせておいて、このものすごい裏切りようといったら！！「ルサンチマン」も「ボーイズ・オン・ザ・ラン」もおもしろい！と思っていたが、あれはこの作品の壮大な前フリでしかなかったか。まだ 2 巻なのでタイミングとしては違うのかもしれないけど、09 年を振り返ったとき、絶対スルーできません！

漫画ライター / 門倉 紫麻

- 怖いのが苦手なくせに怖い怖いといいながら目が離せません。連載開始時、妄想癖の主人公のマンガがはじまったなー、なんて思ってたらあっという間に大変な展開に。あー、本当に怖い。でも目が離せない。困ったー。

恵文社バンビオ店 店長 / 宮川 元良

- まず 1 巻の、他の漫画のストーリーに似ているようで似ていない、その“物語の脇をすり抜けていく様”が面白くて見事で怖くて、目が離せなくなった。そして怒涛の 2 巻への展開。不思議と、サバイバルな状況下の方がリアルな世界に見えて、そういう表現方法って漫画でしか出来ないんじゃないかと思った。とにかくスゴイ。ほんとに面白い。

あゆみブックス 五反田店 / 佐藤 歩

二次選考

- 2009 年どころか、2000 年代最高峰の作品だと思います。いちど読み終わった後、すぐまた最初から読み返したくなった作品なんて久しぶりです。

アンチバッティングセンター / 増山 寿史

- なぜ？ どうして？ 原因は？ とにかく先がよめない展開！ ああ早く続きが読みたい！！

あゆみ books 小石川店 / 土屋 修一

- この先物語がどう進むのか読めないし、かなりグロテスクな描写満載だけど何故か心揺さぶられた。純粋に面白いというよりも見たくない、でも見ずにいられないという感じ。

信長書店四条河原町店・アルバイト / 中村 誠亨

- とにかく、一巻の彼女ゾンビエンドから展開がめまぐるしくて、「続きはどうなる？」と気になります。日常～非日常という流れの今からまたぜんぜん違う方向にいくのではないかな？ どうやってこの作品最後までまとめるんだ？ 大丈夫？ など素人考えの心配しちゃうほど。それでも面白く書いてくれるのではないかな？ という期待の作品です。

メガマン・ギター / 涼平

- 目が離せない！

ダ・ヴィンチ編集部 / 関口 靖彦

- 連載を読んでいて、10 話で「あ！」と思って 11 話で「えええええ！！」となって以降は一生懸命連載をおっかけております。読んだことがない方にはなんのこっちゃ？ と思いますしょうが読んだら間違いなく 10 話で「あ！」と思って 11 話で「えええええ！！」となります！ あとは昼に読むのをオススメします。夜は怖すぎる。

恵文社バンビオ店 店長 / 宮川 元良

- 単行本 2 巻の現時点で、最高に面白い漫画だと思う。巻数が長くなれば評価は変わるかもしれないが、新しい、(完結していない作品が多い) 8 巻までの作品を対象とするこの賞にはやはりこのアイアムアヒーローを 1 位に押しします。1 巻のラストの衝撃はまさに悪夢でした。

ジュンク堂書店新宿店 コミック担当 / 小磯 洋

- これしかねえ !!

ミュージシャン / TA-SHI

- ひたすら先が読めない漫画。夢に出てきそうなほど、グイグイと気持ちを揺さぶられる。

漫画全巻ドットコム / 安藤 拓郎

- 連載回数が少なく、まだまだ未知な部分が多い。が、かえってそこが不気味さを醸し出してる？ 今後が楽しみな作品。

本と文具ツモリ / 津守 晋祐

- 投げっぱなしジャーマン。この作品を表現するのに一番しっくりくる言葉。主人公のごくありふれた日常に、何の予告もなく飛び込んでくる『非現実的』なリアル。ふつうの作品ならこういった非現実的な事象が起こったら 2 巻目あたりで解説的なエピソードを展開するように思えるのですが、コイツはまったくしない。しかも意図的に。実際にこういうことが起こったらそういう説明をしてくれる人なんて都合良くいるはずはないのだから…だから読み手である我々が『考える』。あたかも登場人物の 1 人であるかのように。それこそが作品を読む醍醐味だと、改めて感じさせる作品。すげーよ、コイツは。

芳進堂ラムラ店 コミック担当 / 川崎 一利

- 花沢健吾に騙された！ あのダラダラしたプロローグにあんなに重要な伏線が張られてたなんて！ とにかく、始まったら加速、加速、加速で読むのをとまらない一作！

アニメイト / 鈴木 寛子

- いやだなあ、このマンガ。胃酸過多のムカムカというか、ある種の嫌悪感なしに読み進めることができなくて参りました。でも途中で放り出せないんだよなあ。嫌悪感の正体というのは「世の中、ぜんぶ狂っとるよ」というのと「みんなゲスばっか」というのと「どうせ世の中なんて無意味だ」という思いで、ふだん現実の生活では押し殺しているそんな思いをあからさまに見せつけられるようでした、このマンガを読んでいる時間は。ベタツとした長髪、アンチおしゃれ無精ひげ、ムッチリ黒めがねの主人公が妄想にかられるさまのぶっ壊れぶりを冒頭に置きつつ、より壊れているのは実は世の中の方で、壊れてるよコイツと見えたはずの主人公はあくまで相対的にではあるがまともであった、という。そういう目線から、ナゾの疫病（？）に感染したと思われる症状で人がゾンビ化する東京の惨状をクールに描く筆致が怖い怖い。西武池袋線、商店街、木造アパート、4畳半、和式便器、鉄製の外階段、そういう日常的な舞台で繰り広げられる乾いた惨劇は、マンガではあるんだけど実際にもあり得ないことではないな、何でもありの今の世の中なら、と思わせられる不思議なリアリティーがあって。読んでひしひし思わされるのは、狂ってるのは自分だし、ゲスなのも、世の中的に無意味なのも自分なのだ、ということなのでした。いやなマンガなんだけど、救いの予感も感じます。「こんなに…なってもってこの匂いがするんだ」という主人公、英雄の気持ちに思い入れました。

日本経済新聞社 編集委員 / 天野 賢一

- 本屋で見掛けた時にタイトルと表紙に惹かれて、読んでみたら衝撃を受けた。日常を描いた平凡な物語かと思いきや、絶句してしまう位の急展開。ありきたりな言葉だけど、物凄く面白い。本当に「やられた！」って感じです。急展開過ぎて何度も読み直してしまった。ギャップが半端無い(笑)。今後の展開に期待！どうか、ハッピーエンドになりますように！

シンガー / 山野井 千佳

- 全てのものは相対、と誰かが言っていた。生活の細部まで描き、退屈な変わらない空気までを描く。描けば描くほど、世界が崩れる時恐怖は産まれる。この1巻の終わりは歴史的。

Juvenile. 音楽家 / 児嶋 亮介

- 正直、似たようなマンガも多いと思った。それでも、読んでいてハラハラドキドキさせられる表現力と、続きが気になってしょうがないストーリー運びの上手さは、自分にとってはマンガを読む醍醐味なので。

公務員 / 東くるみ

- ダメ男マンガみたび、と思わせておいて、この裏切りかた！裏切りまでにまるまる1巻分を使うなんて……いやむしろ「ルサンチマン」「ボーイズ・オン・ザ・ラン」も壮大な前フリか!?（著者もはからずもものだと思いますが）あまりテーマ性の強い感じとかアートっぽい方向へはいかず、このままエンターテインメントとしてつっぱしってほしい。まだ2巻なので、マンガ大賞のタイミングとしては違うのかもしれないけど、09年を振り返ったとき、絶対スルーできません！

漫画ライター / 門倉 紫麻

- 今後主人公がどうなっていくのか、どんな事態に発展して行くのか、先の読めなさが楽しいです。主人公への感情移入が最もできる作品でもあります。もう少し話が進んでからでも推せる作品かな、という思いもあって3位に推します。

会社員 / 林 礼春

- 設定の積み上げ方が絶妙。1巻まるごと前フリなんですね！恐さの描写が、あたりアリティーを増してくれて、もはや気持ちいいです。

医師 / 岸本 倫太郎

- 伏線の巡らせ方・話の運び方・画面の作り方とかなり研ぎ澄まされていて、まさに重厚。

往来堂書店 / 三木 雄太

-
- 第一巻の大半、10話をプロローグとして費やし、第1巻の最後での急展開。前作「ボーイズ・オン・ザ・ラン」を書ききった自信が感じられました。そして、非日常をこれでもか！と読者の前にたたきつけておきながら、登場人物のそこかしこに叙情的な面を感じずにはいられない。コマの隅に一度だけしか登場しない、名前すら無い人にも全部ドラマが見えてきます。この作品世界の全貌は見えてくるのはまだこれから。このままとんでもない作品になって欲しいと期待します。

フルハウス八戸ノ里店 店長 / 佐藤 誠

- なんか新井英樹のザ・ワールド・イズ・マインばりの凄みを感じました。先が楽しみです。

PENICILLIN(vo)/HAKUEI

- はじめは「ボーイズ・オン・ザ・ラン」みたいなさえない男の物語なのかと思ったら、さにあらず、いきなりあんな展開に…。てっこがこちらに迫ってくる感じ、三谷さんが飛行機に削られる場面、それぞれがいちいち夢に出てきそうなくらい秀逸なコマ割りになっていて、ほんともう、夢に出てくるんだから…。印象深すぎます。怖いです。勘弁してください。

米子高校 司書 / 野間 勤

- 1巻のラストが衝撃的で、2巻は一气読みでした。何がどうなってるのかわからない状況で、これからどう進んでいくのか？ とにかく続きが気になるマンガです！

主婦 / 紺野 泉

- 凄い話になりそうだけど、ちょっと展開が遅いのがもったいない。もっとタイトに話を進ませて欲しいなあ。

コミティア実行委員会代表 / 中村 公彦

- これまたアングラで、いきなりそうでいかなメジャー感がいいですね。今後の展開がよめないし、次元のいきぎの描写が斬新で好きです。新しいです。よってこれをおします。

Grick (コンポーザー & アレンジャー) / 和教

Cartoon grand prize

2010 マンガ読みが選ぶ 2009 年の一推 !!

マンガ大賞 2010 ノミネート作品

月刊 flowers/ 小学館

「甥の一生」 西炯子

選考員コメント

一次選考

- 普段少女漫画を読まない男性にもぜひ読んで欲しいタイトル。あー海江田教授のような色気を醸し出せるようになるのに、あと何十年かかるか... もしかすると一生出せないで終わるのか...

Amazon.co.jp Books エディター / 原田 圭

- 恋っていいものだ、とキュンしてます。

ブックファースト / 林 香公子

- 年の差とかもう関係なく、ただ単にもう二人のことがうらやましいっていうマンガです。とにかくいちいちぐっとくる。なんだこれ、こんないいわれてみたいわ！と、読んでる最中何度つつこんだことか。若さだけが恋愛じゃないことを教えてもらいました。ありがとう西先生。これからもお世話になります。

オリオン書房 ルミネ店 / 池本 美和

- 昨年、このマンガがすごいでも紹介されてしまいましたが、1・2巻の表紙を並べて見たときの綺麗な感じ思わず買ってしまった作品。読んで損はなかったと思えるとても素敵な作品でした。眼鏡をかけた50代のおじさん。女性客を掴みそうな設定ではありましたが、男性でも何の抵抗なく読むことができました。恋愛と言えど男性でも読めるものはあり難い。

三省堂書店 海老名店 / 近西 良昌

- 三十路女性と五十男のラブロマンスという、少女マンガ誌にはなかなかない設定で、西炯子にとっても異例の展開を持った物語でありながらも、時にギャグめいた描写も混じりながら描かれる漫画そのものの面白さはまさしく西炯子的。一筋縄ではいかない恋を描き続けた漫画家ならではの筆さばきが、読んで目を引きつけさせる作品へと仕立て上げている。

書評家 / タニグチリウイチ

- こんな完璧 30 代女子も、枯れてて格好いい男性もいてたまるか！と思う半面で、がっつりハマった。頭のいい王道少女漫画と言えましょう。でもいいんです、夢なら夢で、どうせ見るならこういう夢が見たい。ということで、他の方にもハマって欲しい。

ジュンク堂書店 池袋本店 / 田中 香織

- ベテランの熟練した技を見せていただきました、と唸ってしまう作品。西先生の作品は安定してどれも面白いのだが、この作品はほかの作品と比べて登場人物の年齢が高く、男性主人公の老齢に近いのに飄々とした軽妙さと、若いとは言えない年齢になった女性主人公の人生設計を考える真面目さが、不思議な深みを作品に醸し出している。素晴らしいです。

ジュンク堂書店新宿店 コミック担当 / 小磯 洋

- 50代が、そんなに先では無い話となった私にとっては、こんな感じに歳を重ねていきたいのと、作品の中の恋愛そっちのけで思わずのめり込んでいってしまいました。こういう恋の堕ちかたに色香を感じ、若い子達が眩しく感じる私に、まんざら歳を重ねていくのも悪くないなんて、縁も無い私にすらそう思わせるストーリー展開に凄さを感じました。西先生の作品、他にも秀逸な作品が多いのでたくさんの人に読んでもらいたいですね！

COMICCOZZLE(韓国) 店長 / 野田 真人

- 2009年うちに遊びに来た20代後半～30代女子には必ずオススメした漫画 NO1！西さん特有の色気が存分に発揮されているキュン死に必至の少女漫画。すべてを投げ出して、それでも投げ出しきれないオンナゴコロ。余裕と時間のハザマにあるオトコゴコロ。田舎の風景の中で展開される大人のエロス。続刊が楽しみ！

あゆみブックス 五反田店 / 佐藤 歩

二次選考

- なんだかんだで、去年はこの作品で一番ぎゃあぎゃあ言っていた気がします。好きすぎて。いろんなしがらみに足を取られて、一步が踏み出せない大人の女子には身につまされることばかりなんです。そういう重たかろうことを全部ひっくるめて飄々と描いてしまう西先生。さすがです。もう、なんていうか、ナイスセンス。

オリオン書房 ルミネ店 / 池本 美和

- 少女漫画がこんなに面白いとは思いませんでした。2010 年、ダントツのオススメです。

Amazon.co.jp Books エディター / 原田 圭

- 老け顔をどう魅力的に書くかは、多くの少女まんが家にとって常に大きなハードルのひとつだが、そこは西炯子らしくお手のもの。一方でヒロインは、リアリティスレスレに若く描かれている。年齢の差を絵的にもさらに強調表現することで、大人の恋愛を包み込み、にもかかわらず匂い立つエロティシズムは隠しもしない。絶妙のバランス感覚に脱帽。

同人誌研究家 まんが評論家 / 三崎 尚人

- こんな三十代女子と一緒にくらしてみたい！

ブロガー / サイトウ マサトク

- 甥の一生のタイトルである「甥」という字に様々な意味を考えてしまった。本来は「めおと」という意味なんだろうが、あえてこの字で「おとこ」と読む。最初は、海江田醇の事だと思っていたが、読んでるうちに、仕事に生きてきた堂園つぐみの事ではないかと思ってきた。「甥」であったつぐみが「女」になって行く過程、そのもどかしさがたまらない作品。海江田の生き方も、一つ一つの行動が胸を打つ。男性にも女性にも読んで貰いたい一冊。素敵なマンガです！

フリーデザイナー / 平沼 寛史

- 甘い夢を見たいもの！という少女マンガに耽溺する際の後ろめたい気持ちを久しぶりに思い起させてくれ、かつ、これはもっと売ってもいいじゃない、という職業上の欲も盛り上がった本でしたよ。

ブックファースト / 林 香公子

- この作者の作品はどれも特に理由もなくなんだか好きだが、この作品は二人の間に流れる空気がすごくいい。

(株)成田本店とわだ店 主査 / 安田 幸

- 1 次の評を繰り返せば、三十路女性と五十男のラブロマンスという、少女マンガ誌にはなかなかない設定で、西炯子にとっても異例の展開を持った物語でありながらも、時にギャグめいた描写も混じりながら、描かれる漫画そのものの面白さはまさしく西炯子的。一筋縄ではいかない恋を描き続けた漫画家ならではの筆さばきが、読んで目を引きつけさせる作品へと仕立て上げている。それなりの年齢に達しても人生、何かありそうだと思わせてくれるという意味で、大人にとってのハーレクイン的輝きを持った作品。ただし現実……考えたくないからこそ漫画を読むのだ。

書評家 / タニグチリウイチ

- ノミネートされて初めて読ませていただきましたが、久々に面白いと思う恋愛モノを読んだ気がします。30 代と 50 代というちょっと極端な年の差ではありますが、それを上手く見せながらお話は進んでいきます。2 月現在二巻まで発売中ですが、たった二巻でもストーリーがテンポ良く進んで行くのも引き込まれる要因の一つだと思います。最近のコミックスは流が遅いものが多く、「この続きが気になるのに」とか「この先どうなるの？」とか気になるけども、話しが進まず中絶してしまっている作品が多く見受けられるせいもあるかもしれません。また主人公二人の両方の気持ちの描写が秀逸で、どちらにも肩入れしてしまうのが面白いですね。重くなりがちな恋愛モノですが、随所にギャグが散りばめられているのも良かったです。

まんが王 八王子店 / 日吉 雄

- 50代もっと先のように思っていました。目の前に迫ってくる中毎日のように、歳を取りたくないなって思っていました。でも、今は歳を重ねても良いかなって思えるように少し変わってきました。そして恋をしたくなりました。そんな漫画です。読んでもらいたい人が、いっぱいいる漫画です。

COMICCOZZLE(韓国) 店長 / 野田 真人

- このマンガを読んで何人が惚れてまうやろーーーー！！！！って言ったんでしょうね～枯れセンどころか現役感全開のガツガツしたおっさんに脱帽。

ヴィレッジヴァンガード町田 店長 / 大山 敏樹

- すごく好きのように描いていて、全然説明不足なのに、やっぱり面白いって、これがセンスってものでしょうね。

コミティア実行委員会代表 / 中村 公彦

- 恋愛は大事だな～と改めてしみりした作品です。自分を知る作業が恋愛なんだと思える作品です。

会社経営者 / 小野 ゆうこ

- 読んでみて、男も違和感を感じる、こてこての少女漫画という感じではないのが嬉しい。素で多くの人に読んでもらいたと素直に思う素敵な漫画だと思いました。年の差カップルではありますが、そんな恋も憧れてしまう程のストーリーで、画も描写も引き付けるものがあり、満足のいく作品でした。

三省堂書店 海老名店 / 近西 良昌

- このマンガのタイトルはおとこのいっしょうと読みます。30代後半女性と、50代男性の恋愛物語です。主人公は女性。一流企業のキャリアウーマンで、この先のことがなんとなく見えてきてしまって、若い頃のように気軽に恋愛に踏み出せない。結婚も諦め気味。そんな主人公の前に、一人の50代男性が現れるところから物語が始まります。互いに染まることもなく、自分の立場を保ちつつゆっくりとしたペースで寄り添ってゆく大人ならではの恋愛が淡々と描かれています。(以下では何度も大人という言葉が出てきますが、ここでは年齢のことではなく、心のブレが若い頃に比べて小さくなってきたと自覚している人のことを意識して書いています。)若い世代の恋愛マンガが若さゆえの心の揺れやすさに焦点をあてているとしたら、このマンガは色々なしがらみや、経験から心が揺れにくくなってしまった大人の心の揺れにくさに焦点を当てているように思います。それゆえに、台詞は情熱的、感情的というより、静かで深く心に響くものが多く、まさに大人向けのマンガだと思います。辛いことがあっても、主人公は”ひどいわ!”と泣いて駆け出したりせず、表情にも出さず、”ああ、またか。”と心の中で呟いてやり過ごす。そんな感じ淡々とすすむ物語です。恋愛を描いたマンガは沢山ありますが、不倫という枠組み以外で大人の恋愛をきちんと描いたマンガはあまりないように思えます。大人の男女にオススメのマンガです。一步踏み出せないという点ではモテキと似たところがあるように感じます。もっとも、一步踏み出せない理由は、ゆれすぎて動けない、ゆれ(たく)なくて動けないとまったく違いますが、読み比べてみても面白いかも知れません。

IT系企業 / 廣瀬 公将

- このマンガの肝は「恋愛とはエゴである」ということ。好きになるのに理由なんてないということを決して若くはない男女が繰り広げるからこそ意味がある。海江田教授の関西弁が妙に染みる。理想の大人の男だ。

サブカル研究 / 荒川 澄

- 表紙が気になっていたんだけど、今回初めて読みました。読んでみたら予想以上に良くて今ではお気に入り。田舎暮らし、大人の恋、その他色々(笑)、懂れるものばかりです。

シンガー / 山野井 千佳

- なんでもそつなくこなすが、過去の実験から幸せに対して常に後ろ向きなつぐみと大学講師海江田のなりゆきまかせな同居生活。海江田の魅力に持っていければなしです。

啓文堂書店 府中店 / 山本 仁美

- 「甥」って造語かと思ったら、「めおと」で変換すると出てくる既存の漢字だった事に驚いた。それはともかく。ベテランの力量を見せつけられたというか、とにかくうまい。台詞が深い。愛とか恋とかいうよりも、それを含め人生に焦点が定まっている。タイトルも秀逸。

ジュンク堂書店新宿店 コミック担当 / 小磯 洋

■ 西炯子さんは、80年代に少女まんが家として、学生デビューを果たしたキャリアの長い作家です。西さんのキャリアは、なんとなく3つくらいに分けられるんじゃないかと思っています。第一期は、デビュー初期。西さんの若き日の短編や中編が中心です。小学館の「プチフラワー」誌系列で発表した『天使にならなきゃ』『僕は鳥になりたい』『水が氷になるとき』『ローズメリーホテル空室有り』などのセンシティブな作品群が堪能できます。それから第二期は、発表の場を新書館の「ウィングス」誌に移して、長期連載を始めた『三番町萩原屋の美人』シリーズの頃。『萩原屋〜』は、西作品の中でも最長編で、時代物ファンタジーとも言うべき意欲作です。さらに、この頃になると、西さんの「絵師」としての腕が、多方面に買われだします。まんがを離れて、「絵」としての単品仕事とでもいうのでしょうか、ファンタジーやBL小説のカバーイラストを手がけるようになります。BLまんが雑誌「麗人」の表紙をずっと担当されていた時期とも被るんですがまあ、この挿絵仕事ったら、レベルが高い。ほんとうに、うまいんだよね。まんががうまいひとが挿絵をやって訴求力があるかというとぜんぜんそうじゃないって言う場合が多々ありますから、才能としては別物なんですよ、じつは。西さんにはその両方に才があったということですね。数多くの小説の挿絵を手がけているというわけではないのですが、たとえば、霜島ケイさんのファンタジーノベル『封殺鬼（ふうさつき）』はなんと続刊が28冊、などと担当した小説がことごとく……と言っても過言ではないほど、かなりの確率でヒットしています。手がけたイラストの中でも大ヒット作といえば、BL小説の金字塔にして、現在も連載を継続中の『富士見二丁目交響楽団』ですね。こちらも現在四十巻を超えて続刊中と本当に長いです。そして、西さんの第三期は、『萩原屋〜』の完結後から、今現在までの一群の作品たちであります。西さんのキャリアを一期、二期、三期と振り返ってみると、それぞれに思い入れが深く、ファンの支持が熱い西作品ですが、個人的には、この三期が、まさに黄金期だと思っています。さて、この第三期の特筆すべき出来事は、西さんがこれまで、手がけていた人気のイラスト仕事をほとんど絶ってしまった、ということです。たとえば、『富士見〜』シリーズは、19巻で挿絵を降りています。確か、西さんのその頃のコメントには「描きたいまんががあるので、仕事を整理して、まんがに集中したい」的なことが、書いてあったという記憶があります。わたしもフリーランスで仕事をしている立場上、順調に続いてきた仕事をこっから辞めたい、というのは、いろんな意味でかなりの覚悟がいることであると心得ていますから、そんなふうにしてまで「描きたいまんが」とは、いったい、どんなものなのだろうか？と思いを巡らせていました。そのような経緯を辿りつつ、西さんの新しい作品群が小学館からじょじょに発表されてきました。それが『STAY(ステイ)』シリーズです。このシリーズは、巻ごとに異なる高校生の主人公をたてて続くオムニバスストーリー。西さんが「描きたいまんが」とは、なんと鹿児島県に住む高校生達の普通だけどどこかおかしくて切ない日常生活だったのです。じつは鹿児島は、西さんの出身地です。自分の故郷を舞台に、思春期の高校生たちを描くという構想に、いい意味で虚をつかれました。『STAY』シリーズと並んで、鹿児島の高校生たちを主人公にした作品には、『放課後の国』と『ひらひらひゅ〜ん』があります。（この3作品群は、通して読むととても「読み合わせ」がいいので、ぜひ、コンプリをおすすめします）ほんわか、のんびり、気候も温暖な南九州の田舎町にも、青春の甘酸っぱい悩みというもの、確かに充満していると、作者は描きます。青い春と書いて青春。青いからこそ、ついやらかしてしまう、ちょっとそれ、自分に酔い過ぎじゃない？とツッコミを入れたくなる「恥ずかしいことの数々」。タイムマシンがあったなら、戻って過去の行為を消去してしまいたい赤面エピソードがてんこ盛りで、どの物語も話が進みます。女子と男子にぎっちり分けられないような、未分化の部分を残しつつ、まだ本格的に性に目覚めていないぎりぎりの男子って、独特に色っぽい。また、西さんにその時分の青少年を描かせると、これがすごいんです。絶妙にエロいです。うっかりと瞳孔が開いてしまいます。もちろん、これらのまんがは、BLではありません。敢えてカテゴライズすれば、「匂い系」（＝小説でいうとあさのあつこさんの「バッテリー」、高村薫さんの「李歐」など）と呼ばれるものに近いかもしれません。真の意味で、正統派の少女まんがと言える作品です。正統派の少女まんがとは、そういう要素がきちんと含まれているものをこそ指して、少女のためのまんが、と、そう呼ぶのだと思っていますから。という理由で、西さんは、とりわけ、「少年から青年にかけての描写」が秀逸なまんが家さんで、ここの部分を長年に渡って描き続けていらっしゃるし、思春期の心模様について、相当こだわりがあると考えられます。しかし、そうではありますが、物語の系譜としては、歴史や宇宙を股にかけた大ラブロマンスとかコテコテで鉄板な、学園ラブコメディといった作風ではありません。じゃあ、かといって、男女の恋愛話を一切描かない、といった作家さんでもないのですが、そこらへんの男女の睦言の機微、恋の鞘当てに関しては微妙に作者自身のテレが見え隠れする作風、とでもいいましょうか、柳に風いつも、ふうわりと、さらりと描き流す作風のかただ、という認識を持っていました。が、この、第3期の西まんがは、違うんですね。この「男女の恋愛話」分野において、まさかの真っ向勝負、ストレートの豪速筆が、西さんから放たれたのです。おおきく振りかぶって、図版、いや、ズバンッッッッッッッ！！！！！！と、来ました、しかもベースの手前で、ぐっと伸びたし。なに、この、ストレート感。えっ、西さんって、変幻自在の変化球描手だと思っていたけど……じつは、豪腕直球描手だったんだ！！！！みたいな。長年のファンには、新鮮な驚きを提供し、そして、本作から、西まんがにハマったという、新規ファンも多いのではないのでしょうか？しかも、舞台は、これまた、鹿児島です。

わたしが勝手に鹿児島三部作と呼んでいる「STAY シリーズ」「放課後の国」「ひらひらひゅ〜ん」に、続いて描いた「男女の恋愛話」作品がこちらです。「甥（おとこ）の一生」この「甥の一生」は、ずばり「大人版・鹿児島シリーズ」とでも言うべき作品です。いや〜まさか、西さんに「枯れ専属性」があらうとは。そこに、まず、驚愕しました。だって、だって、ですよ？西さんの90年代を代表する長編作「三番町萩原屋の美人」全15巻に至っては、「ご隠居さま設定の呉服屋の旦那キャラ」キャラをなんと、イケメン萌絵で、描き切るといふ、暴挙にも似た大胆設定をかましてくれていますから。片眼鏡とキセルがかるうじて、「ご隠居さま」の七つ道具風ではありますが、どうみても、絵柄上では、10代から20代の美形男子にしか見えません。……ちなみに「ご隠居さま」には、家督を譲った働き盛りの既婚息子もいるんです。〜えっ？ 若すぎる？ ほうれい線や皺が一切ない？うん、そうなの、だって「ご隠居さま」は、ご近所でも評判の奇跡のアンチエイジングな人ですから〜、っていう説明で、その疑問をさら〜〜と受け流し、軽く SF 設定にしてあるんですね。なので、わたしは長年、〜そうか、西さんは、やっぱり西さんだ……老人を描く場合も、絵的には「青年変換」なんだな〜老人は、興味のある描写対象ではないんだな、まあ、判るわ〜それに、掲載がオタク系少女まんが誌、リアルに老人を描いたら、まず企画、通らないよな〜確かに、ぜんぜん、老人に見えない、美人な「ご隠居さま」っていうほうが、読者も萌えるよね〜という、解釈をしていたのでした。それが、ここにきて、「甥の一生」の、この絵です。……西さんに、一体何が起こったのか？それは判りません。が、このわたしをして、自室の中心で「描けば描けるんだ！！！！」と叫ばさしめる、という結果に至ったのは、間違いのない事実です。「甥の一生」は、大胆な設定の「少女」まんがです。なんと、ヒロインは、30代の中年女子、お相手の王子様は、50代の初老男子、という組み合わせの恋愛物語なのです。東京の大手電気会社に勤める堂園つぐみは、未婚の30代・中年女子。しかも、このひと、電気といっても、部署は、女子な感じの白もの（＝電気釜や冷蔵庫、洗濯機）ではなくなにかと物議を醸しやすく、やたら扱いが難しい「原発関連」が担当。しかも、どうやら、そうとう優秀らしい。……という、この設定からして絶妙です。神経を使う仕事に燃え尽きて、疲労がたまり気味のつぐみは、故郷の角島（推定／鹿児島県）にある、祖母の家に長期滞在しています。（なんで、会社を辞めずに滞在し続けられるかは、読み進むと前述の仕事内容とちゃんとリンクしてきて、ぜんぜん、ご都合主義じゃないんですよ）まんがの冒頭は、この祖母の急死による葬儀シーンからはじまります。一族郎党が集う葬儀の席に、見知らぬ老男子がひとり。50代未婚の大学教授・海江田醇（じゅん）。彼は、どうやら若い頃、つぐみの祖母と関わり合いがあったみたい。なりゆきで、海江田とつぐみは、亡き祖母の田舎家に同居することに……つぐみの周辺には、町の土木課勤務男子（めがねで普通）、町の郵便局勤務男子（元ヤンのイケメン）、町の二世議員男子（おぼっちゃまいケメン）、……全員年下の地元男子3人が配されて、それぞれ、つぐみに興味津々。3人ともきっちりした「造形」に描いてあり、恋愛対象＆結婚物件としては、どれも「悪くない」（と、ちゃんと読者には読める）。が、しかし、この3人を押さえて、50男子の海江田が、ダントツかっっっっこいいんですね、……と、「読者」に「そう思わせる」ように「描けている」ということの、画力の凄まじさに、ほんとうに脱帽しました。特筆すべきは「あご」のラインです。基本、まんがで主人公の相手を務められる男子のあごは切れ上がりすぎるほど、切れ上がって描かれているものです。理由＝そっちのほうが、かっこいいから。あごがないってありえない。歴代の人気男子キャラは、ことごとく、どれも現実ではありえないほど、横顔のあごの角度は、鋭角に描かれています。しかし、海江田のあごは、「もともとあまりあごのない系の顔」なんですね。それに加えて「老化で肌のたるみがある」という造形なんです。これが壮絶に色っぽい。これは非常に冒険です。この「あまりあごのない系の顔」を、本命男子に据えた少女まんがって、ほんとうに、この歳になって、初めて読みました。で、これを執拗にいろんな角度から、引いたり、寄ったり、見上げたり、煙草吸わせたり、老眼眼鏡をいじらせたり、と描くんです。もうそれだけでも、手に取った価値あり。西さん、この後に及んで、画力を上げてきています。いや、生きていてよかった。おもしろいの読めた。強い。まんがが、めちゃくちゃ強いです。昔から、少女まんがでは「王子様とヒロインの恋物語」が根強い人気です。というか、これこそ王道ですね。白馬に乗った外人の金髪王子様が、その原形だとすれば……学校の先生、バスケ部の先輩、幼馴染みの同級生は、すでに70年代に「アリ」になり……その後も……年下のアイツが王子様、バツイチでも王子様、不倫でも王子様、無職でも王子様、デブでも王子様、オタクでも王子様、自分より背が低くても王子様、料理作れるひとが王子様……などと時代と読者のニーズに先行して、歴代の少女まんが家諸氏は、常に理想の王子様像を提案し続けてきました。そして今、西さんが提案した新しい王子様像が、海江田なのです。50代の関西弁で飄々としたあごのない系の皺有り大学教授男子、ですとな。驚愕。これもまた、真の意味で、正統派の少女まんがと言える作品です。新しいヒロインと王子様像の提案。正統派の少女まんがとは、そういう要素がきちんと含まれているものをこそ指して、少女のためのまんが、と、そう呼ぶのだと思っていますから。

料理研究家 / 福田 里香

■ 主人公と大学教授が自然に距離が縮まっていく、そして惹かれあっていくような様がひしひしと伝わってきます。草食系男子が流行っている昨今、やはり男はこの大学教授のようにストレートにいくべきなのか。僕も見習うべきなのか。うーん、考えさせられます。しかし、この教授も女運が無さそうに感じたのは僕だけだろうか。。

DJ/DJ RANUMA

マンガ大賞
Cartoon grand prize
2010 マンガ読みが選ぶ 2009 年の一推 !!

マンガ大賞 2010 ノミネート作品

アフタヌーン / 講談社

「虫と歌 市川春子作品集」市川春子

選考員コメント

一次選考

- ミニマルな表現があらゆる強度を備えうることの、最先端の可能性。

文筆業 / 海猫沢 めろん

- 線と物語のはかなさがいとおしくて泣いた。大事すぎて読みきるのに3日かかりました。

あゆみブックス 五反田店 / 佐藤 歩

- 愛別離苦。そして生老病死。人として生まれたからには、避けることのできない苦しみだと、仏教に言われてきたこれらはけれども、人に限っての苦しみではなく、あらゆる生けとし生きるものたちすべてが感じ、想い、味わって嘆く苦しみなのだとすることを、教えられる短編たちを集めた作品集。収録作品のいずれにも、人ならざるものたちが関わった、出会いの愛おしさや別れの切なさ描かれていて、哀しみ苦しみの情感を強く抱かせる。表題作の「虫と歌」は、描かれた静かな離別に涙しつつ、描かれなかった苦しさで満ちていただろう離別に、行く側、残される側の抱いた苦衷を思っ、どうして止めなかったのだ、どうしてはじめてしまったのだと糾弾したくなる。けれども、「生まれてきてよかった」。そんなひとことが救いとなって、沈んでいる心に一筋の光となって差し込む。免罪符とはせずとも、動機にはできるその言葉を心に刻むことで人は、否、人ならざるものも含めて、生けとし生きるものは自らの生、ほかのものたちの生を感じてそして繋がりあっていけるのだ。

書評家 / タニグチリウイチ

- 今後何回も読み返すと思う。話も絵も素敵。

ブックファースト / 林 香公子

- 「星の恋人」、「ヴァイオライト」、「日下兄妹」、「虫と歌」、それに描き下ろしの「ひみつ」が含まれた市川春子の短編集。おとぎ話のような読後感。そしておとぎ話が本来持っていたであろう残酷さも持ち合わせているところに好感が持てた。どの話もそれぞれ印象深いのだが、個人的な一押しは「日下兄妹」だ。肩を壊した高校球児日下雪輝と不思議な生きものとの奇妙な共同生活を描いた 60 ページ程度の短編。雪輝の肩が治るあたりからが秀逸で、喪失感とともに未来への希望も感じさせてくれる素晴らしい出来だった。読了後、その日はもう他のものを読む気にはならなかった。それくらい満足した。

米子高校 司書 / 野間 勤

- 「星の恋人」、「ヴァイオライト」、「日下兄妹」、「虫と歌」、それに描き下ろしの「ひみつ」が含まれた市川春子の短編集。おとぎ話のような読後感。そしておとぎ話が本来持っていたであろう残酷さも持ち合わせているところに好感が持てた。どの話もそれぞれ印象深いのだが、個人的な一押しは「日下兄妹」だ。肩を壊した高校球児日下雪輝と不思議な生きものとの奇妙な共同生活を描いた 60 ページ程度の短編。雪輝の肩が治るあたりからが秀逸で、喪失感とともに未来への希望も感じさせてくれる素晴らしい出来だった。読了後、その日はもう他のものを読む気にはならなかった。それくらい満足した。

米子高校 司書 / 野間 勤

- ある一定の人の胸を撃ち抜く作品なのかなと思います。少なくとも、私は撃ち抜かれました。特に「日下兄妹」の兄の台詞、一度読んただけで暗唱できるほど、心に焼きつきました。

ジュンク堂書店 池袋本店 / 田中 香織

-
- わたし、この人の描く、草原というか野原が好き。表題の「虫と歌」からして、「虫と歌」からして、フード描写が細やかで、それぞれの食の嗜好が重大なヒントになっているという構成。これはもう、フードまんが期待の新人。市川さんは、生粋のフードまんが家の系譜のひとつといえましょう。作品の順番もいいです。単編集は、なにげに掲載順番が大切だ。料理に「食べ合わせ」があるように、まんがには「読み合わせ」の善し悪しがありますから。表題にもなっている、例の四季賞受賞作がいつとう最後って、並びがいい。ヴァイオライト と 虫と歌 は、特に号泣です。だけど、どのお話も善くって、いちばんを選べません。そして、全体を通しての通底する流れがちゃんとあり、短編集としてたゞいままで書きちらしていたのをページ合わせで集めたっていうレベルじゃないんです。一巻物の傑作になっているのが、すごい。

料理研究家 / 福田 里香

- 繊細な表現と、独特の世界観。素晴らしい。

ライター / 芝田 隆広

- キラ星のような新人。やはり、とでもいうべき四季賞のレベルの高さを感じさせられました。

往来堂書店 / 三木 雄太

- パラパラめくりながらめちゃくちゃセンス良い絵だなあ、でも話はシュールでなんか不思議ちゃんなのかなあ、なんてふやけた頭で考えて分かった気になってた自分のことが、「日下兄妹」読んだ後バールでぶん殴りたいほど恥ずかしくなりました。この人はちゃんとマンガで伝えたいことがある人なのだな、と。短編集ってマンガの世界で軽んじられてる気がするの、ここらでいきなりこの作品が大賞とったらおもしろいだろうな、という個人的な思惑だか邪念だかもあったりします。でもいきなりメジャーになってほしくないな、なんていうインディーズバンド好きな中学生みたいな思いもあったりして。大賞取れなかったら「売れてほしいけどあんまり広まってほしくないマンガ・オブ・ザ・イヤー2009」を勝手に進呈したいと思います。

ヴィレッジヴァンガード町田 店長 / 大山 敏樹

- 巧みなネームと印象的なレイアウトで描かれる奇妙な物語たち。インスタント・クラシックの風格さえあるデビュー短編集。

書評系ブログ「yama-gat site」管理人 / yama-gat

- 何も言うことない。ただ読んでほしい。それだけです。

あゆみ books 小石川店 / 土屋 修一

二次選考

- 1次と同じ言葉を繰り返すなら、あらゆる生けとし生きるものたちすべてが感じ、想い、味わって嘆く苦しみなのだということ、教えられる短編たちを集めた結晶のような作品集。収録作品のいずれにも、人ならざるものたちが関わった、出会いの愛おしさと別れの切なさ描かれていて、哀しみ苦しみの情感を強く抱かせる。とりわけ心に刺さったのが表題作の「虫と歌」。描かれた静かな離別に涙しつつ、描かれなかった苦しさに満ちていただろう離別に、行く側、残される側の抱いた苦衷を思っ、どうして止めなかったのだ、どうしてはじめてしまったのだと糾弾したくなる。けれども、「生まれてきてよかった」。そんなひとことが救いとなって、沈んでいる心に一筋の光となって差し込む。とてつもない才能の登場を喜びこれからの活躍をひたすらに願う。

書評家 / タニグチリウイチ

- 「やはり」、というべき四季賞のレベルの高さを感じさせられた作品の数々。取り扱う題材、その捌き方もあわせて多筆とはいかないだろうが、数多くのフィールドで活躍されることを祈ります。

往来堂書店 / 三木 雄太

- 美しき喪失の物語。よく高野文子を引き合いに出されていますが、個人的には岡田史子を目指して欲しい。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店コミック担当 / 山本さとみ

- すごい才能！独特のファンタジックな世界観。センスの良さにしびれました。まるで上質の文学作品のような手触り。それでいて、ユーモアのセンスもあって。一見シンプルな絵ですが、1コマ1コマがすごく深くて、味わうようにゆっくりゆっくり読みました。表題作はあまりにも切ない。

旭屋書店船橋店 / 安田 奈緒美

- ノミネートの段階でも推薦したけれど、今の段階でも『虫と歌』が個人的には今回の一番だ。というよりも、「日下兄妹」の印象がものすごくすごい。自分が妹萌えとかあり得ないと思っていたけれど、これはほんとに極上のストーリーだった。衝撃的でお腹いっぱいになった。個人的には、生きていくことってのはどこかで失い続けるものだと思うのだけれど、この短編集にはそのエッセンスが詰まっている。井伏鱒二の「サヨナラだけが人生だ」というほどではないけれど、喪失感を丁寧に描いた作品だ。

米子高校 司書 / 野間 勤

- 独特の生物観が心地よいです。流れるようなタッチもいい。

医師 / 岸本 倫太郎

- 読んだ後の切なさときたらたまらんものがあります。切なさだけでなく優しさだったり、友情だったり。キャラクターの心情のすくい方が上手い。SFですが誰もがすんなりと入れそうなところも素晴らしい。ゆっくりでいいから描き続けて欲しい。これからも作品を読みたい。そう思います。

恵文社バンビオ店 店長 / 宮川 元良

- 短編集という形式もありますが、この不思議な世界観にはまりました。最初はこの本を借りて読んだけど、結局買って繰り返し読んで楽しんでいます。繰り返し読んでも楽しめる。そのつとに、登場人物の心情とかこんなものかなあと発見できる作品です。そして、多分、数年後に読んだとき、また違った感じ取り方ができる。松本太洋初めて読んだときの感覚に近いかも。マンガって、商業ベースなので、「〇〇賞受賞！」「何千万冊突破！！」や「アニメ化決定！！」「次は映画館で会おうぜ！！！」って作品もそりゃすばらしい作品だし、いいと思うんだけど、こうやって夜中眠れないときに開いて、読んで、その時の自分の心情とリンクして新しい発見と味わいのあるものにも、注目して欲しいんだぜ。ということで、一票投じます。

鳥取県 米子高校 美術部&マンガ研究部顧問 / 佐川 由加理

マンガ大賞 2010 ノミネート作品

KISS/ 講談社

「海月姫」 東村 アキコ

選考員コメント

一次選考

- 「尼〜ず」の描き方に、客観的だけどシニカルじゃない、人に対する著者の一貫した気持ちの良い姿勢があらわれていると思う。最近の東村アキコはネームの切れ味が鋭すぎて、ときどきこわいくらい！いや本当にこわい！「マンガってこういうものでしょう？」と作品を通して言われているような気がする。

漫画ライター / 門倉 紫麻

- おもしろい。はやく続きが読みたい。ポップです。どっかんどっかん、いって欲しい、です、はい。

ミドリ / 後藤 まりこ

- オタク全開尼〜ず最高っす。やっぱ、オタク、人見知り、処女、そして東村アキコ先生。ってところが自由奔放な個人趣味な設定で楽しい。今後の蔵之助、しゅうしゅう、月海の関係にドキドキです。東村先生、どうか海月姫の執筆に飽きませんように！

フリーカメラマン / 平沼 久奈

- 最近の読んだ中で最もニヤっとした作品。今後も楽しみです。

漫画全巻ドットコム / 安藤 拓郎

- 作者の勢いを感じる。

公務員 / 東くるみ

- おしゃれも笑いもトキメキもハイテンションで満たしてくれる！この愛すべき濃すぎるキャラクター達、モデルが実在すると聞いて、びっくりです。

バイオリニスト / 佐藤 帆乃佳

- 個々のキャラが逐一際立っていて、終始飽きずに読んでいます。スピーディーでキレのある展開がすごく、ほんとにメリハリのあるマンガ。そして、この人のマンガの定番の三国志ヲタ。きもい、きもいのだが何故か惹き付けられてしまう。

DJ/DJ RANUMA

- ヲタの、ヲタによる、ヲタのための、少女漫画。これまでの東村作品同様、ストーリーから大きくはずれた「作品内コント」が魅力的なのはもちろんなのですが、意外 (?) と少女漫画の王道を行くストーリーが逆に新鮮に感じられます。東村アキコ先生の「作品内コント」はマンガ以外の表現方法が考えられない自由さと、バンクのような激しい初期衝動を感じます。

フルハウス八戸ノ里店 店長 / 佐藤 誠

- 様々なヲタを見れて楽しい♪眼鏡を外すと美人とか、王子様が現れる とか、少女漫画の王道をあえて行っているところがさすがしくて好きです。

アニメイト / 鈴木 寛子

- イケてない女子・月海と仲間たちの上京物語。「チーム女子」を描かせたら、東村さんは当代随一。東村さんのまんがにはいつも、女子間でどういう距離を取ればいいのか、ある種の理想が描かれています。恋愛に夢中になれない、どこか行き場を迷っている女子って、現実に結構いると思います。見た目がとかでなく、メンタル的にモテない系の女子は、きっと「海月姫」に共感するはず。腐女子、女装男子という今風のキーワードを使いながら、「眼鏡を取ったら美人」など、70年代乙女チック少女まんがのベタ設定を織り交ぜて、新機軸の少女まんがになっている構成もすばらしい。

料理研究家 / 福田 里香

二次選考

- こういうのをラブコメ、って云うんですか？おもしろいです。ほんまに、おもしろい。このまま、止まらず、ばりばり、がんがん、どんどん、行って欲しいです。

ミドリ / 後藤 まりこ

- やっぱ、いま一番脂が乗ってますね。

コミティア実行委員会代表 / 中村 公彦

- 『ぶ〜け』出身の東村アキコ先生が、様々なジャンルを手掛けてきたキャリアを糧にして、ふたたび「少女マンガ」に挑むとどうなるのか？女性向けジャンルを取り巻く現状へ向きあうための、たしかな答えのひとつがここにあるのではないのでしょうか。

ライター / 会田 洋

- 少女漫画的なベタベタな設定に、東村先生のアングラギャグがあいまって、最高に笑いながら胸キュンします。僕はこれを目いっぱいおします。

Grick (コンポーザー & アレンジャー) / 和教

- ネオ少女マンガ！腐女子を扱いながらもココまでキュンキュンさせるとは……。ノイタミナでのアニメ化も決まり楽しい作品です。

グラビアアイドルの威を借るヲタ / 喜屋武 ちあき

- このマンガはオタク女子だけが住むアパートに住む海月オタクの主人公が、おしゃれ女子(?)と出会うところから物語が始まります。主人公が別世界の住人と出会うことで今までの世界が変わってゆきます。少女マンガ特有の夢見る純粋な乙女心を表したモノローグに、この作者さんが得意なテンポの良いギャグが織り交ぜてあり、振れ幅が大きく飽きません。この作者さん得意の笑いに目がいきがちですが、本質は自分に自信はないけど、綺麗にかわっていくことを夢見る女性の物語であり、王道の少女マンガだと思います。いろんな巡りあわせで、綺麗になることを諦めてしまっていた主人公と、女性なら誰だって綺麗になりたいはずと色々世話を焼くおしゃれ女子(?)が紡ぐ物語は笑いと、前向きな気持ちを読む人に与えてくれると思います。まだ完結してないですが、ハッピーエンドを願わずにはられません。

IT系企業 / 廣瀬 公将

- 圧倒的な東村ワールド。作者が思う「面白いとは何か」が存分に詰まっているプロの仕事。恋愛もギャグもみんな読みたいという欲張りだけど、決してくどくない素晴らしい作品。

サブカル研究 / 荒川 澄

- 読みながら「おもしれー」とつついつづやいてしまう。

ダ・ヴィンチ編集部 / 関口 靖彦

- 09年の東村アキコの快進撃はもはや常軌を逸していた。マンガ大賞のレギュレーション外（単行本の巻数が8巻を超えている）なので、投票はできかったが、09年のマンガで評者が最も衝撃を受けたのは、『ひまわりっ』の萩尾望都ネタ「ペーの一族」だった。ダメテンなのか、本人の許可を取ったのか……、いずれにしても神をも恐れぬ所業。本作も、そんなイケイケパワーに満ちあふれた作品。単行本巻末の「自伝マンガ」の身を切るようなオタク少女的イタタぶりにも抱腹。

同人誌研究家 まんが評論家 / 三崎 尚人

- この作品はあらすじを簡単に説明するっていうのは、なかなか難しい…たぶん物語というより、本当にキャラクターが紙の上で勝手に動いてるんじゃないかと思うくらいに、自由にハイテンションに動き回って引きずり込んで笑わされる！ちゃんと少女漫画で、トキメキもあるのに、電車の中でふきだしちゃう漫画はなかなかない。ちょい役ででるキャラクターまでしっかり濃い！個人的に総理大臣と運転手さんツボです。

バイオリニスト / 佐藤 帆乃佳

- やられた。クラゲ…。実はすごく好きなんですよね。一時は飼いたいと思っていたこともあるほど。月海の気持ちわかります。今一番幸せになってもらいたい女の子です。

主婦 / 紺野 泉

- 東村アキコは、マンガ大賞作家なのである。「3年連続」「別の作品で」ノミネートされるなど、異常の極みだが、東村氏の作品に出てくる女子はすべて愛せるすべて何本か抜けてる殆どの場合テンパってる腐女子であり、要素要素がマンガ大賞好みなのだ。あと、よしながふみや、作品なら「とめはねっ」なんかは完全にマンガ大賞作家とマンガ大賞作品。出版社もそうとう期待しているのですが、我々読者も期待してしまうのですよ。東村先生、2011年もぜひ再度テンパっていただけるとありがたい。

フリープロデューサー / 小林 智之

- 出す作品すべてハズレがない作者。尼〜ズのキャラの濃さがハンパなく、こういう生き方もありかも、と思わせるが、断る。

(株)成田本店とわだ店 主査 / 安田 幸

- 乙女ばかりの女子寮にひとり、乙女らしさを最大限に見せながらも中身は男子という異色の人物が紛れ込んで起こる騒動を描いた遠藤海成「まりあほりっく」とはまた違って、腐女子ばかりのアパートに紛れ込む異物がもたらす変化を描いたストーリー。自分になかなか自信を持ってない人たちに、ちょっとした未来をもたらしてくれそうな予感がある。「めぞん一刻」ほか、多々あるアパート物においても、展開の独自性やキャラクターの造型、そして絵柄の可愛らしさと展開の愉快さがうまく重なり合って、可笑しさ寂しさと嬉しさを感じさせてくれる。物語世界で孤高を保とうとする腐女子たちに突きつけられる様々な出来事が、現実世界の同好であり同類の人たちにはたしてどんな影響をもたらすのか、といった期待も抱きながら、読み続けていきたい物語。それはオタクとしての自分の生き様にも何かをもたらす、かもしれない。

書評家 / タニグチリウイチ

- イケてない女子・月海と仲間たちの上京物語。「チーム女子」を描かせたら、東村さんは当代随一。東村さんのまんがにはいつも、女子間でどういう距離を取ればいいのか、ある種の理想が描かれています。恋愛に夢中になれない、どこか行き場を迷っている女子って、現実に結構いると思います。見た目がとかでなく、メンタル的にモテない系の女子は、きっと「海月姫」に共感するはず。腐女子、女装男子という今風のキーワードを使いながら、「眼鏡を取ったら美人」など、70年代乙女チック少女まんがのベタ設定を織り交ぜて、新機軸の少女まんがになっている構成もすばらしい。

料理研究家 / 福田 里香

- 第1回の『ひまわりっ』、第2回の『ママはテンパリスト』と、2年連続私が3位に投票したのが東村アキコさん。で、今回の『海月姫』も3位(笑)意図したわけでないのですがこの位置が非常にちょうど良いのです。1巻目に歯切れの悪さを感じなければ間違いなく2位に入れました。2巻目以降の展開はお見事、の一言です！

芳進堂ラムラ店 コミック担当 / 川崎 一利

- クラゲをこよなく愛する腐女子の主人公が、男子禁制の腐女子の館に同好の士(“尼〜ズ”)とともにまったりゆるく住んでいるところから物語が始まります。そうはいっても、少女マンガだもん、恋とオサレな変身は欠かせません。偶然の出会いで女装趣味のイケメンと知り合うが、その男はなんと…！という設定もお約束の展開(おいしくいただきました)。「クラゲみたいな真っ白いウェディングドレス」なんて描写、ステキ☆じゃないですか！！ここに「政治の世界」や「再開発での立ち退き」やら、なかなか硬派な問題が立ちはだかります、と個人的にはどストライクな展開。どうする、尼〜ズ！？

国分寺市議会議員 / 三葛 敦志

- 「きせかえユカちゃん」より恋愛要素が強めで、90年代初頭のコメディ少女漫画を彷彿とさせます。ギャグが面白くて、絵がかわいくて、キュンとする話もあって…完璧ですわー。それにしても、尼〜ズといい稲荷さんといい、アキコ先生の人物描写力は本当に凄いです。

元書店員(三省堂書店経済産業省売店勤務) / 畑中 瀬路奈

-
- 「ママはテンパリスト」など他にも人気作品を世に送り出している作者の勢いを感じるとともに、少女漫画の様式に則りつつもヒネた作風がツボだった。

公務員 / 東くるみ

- 東村先生！！海月姫おもしろいっす！！蔵之助と月海としゅうしゅうの恋も気になります！月海がデッサンしたクラゲのドレスは実際にそのデッサンが実在するかのような気持ちになってあまりの綺麗さにドキドキして実物が観てみたくなりました。東村先生のマンガを読んでいると本当に好きな事をマンガの中で描いている時の好きのテンションが凄く良くて好きです。続き、楽しみにしています！

フリーカメラマン / 平沼 久奈

- 昔の後輩を思い出した。懐かしい感じ。ちょっとお気に入りな作品になった。

I T系企業経営 元漫画編集長 / 平田 淳

- 今の流行りで色々飾っている中にこっそり隠れているのは、王道の少女マンガ。ちなみに腐女子＝オタクではないのでそこはご注意ください。

書店員 啓文堂書店吉祥寺店 / 山川 美香

- すごく迷いましたが女子としてこの作品を。オタメガネ→実は美少女をはじめ、典型的構図がちりばめられているのに、相変わらずのキャラ付けの面白さでぐいぐい読ませてくれます。展開も早いですが常にキュンとさせ続けてくれるところがよい。胸キュンマンガです。

フリー WEB デザイナー / 河本 知香

Cartoon grand prize

2010 マンガ読みが選ぶ 2009 年の一推 !!

マンガ大賞 2010 ノミネート作品

イブニング / 講談社

「モテキ」 久保ミツロウ

選考員コメント

一次選考

■ 何でだろう・・・涙が出てきて仕方がないのです・・・

デザイナー / 佐藤 優

■ 草食男子が注目され、婚活が流行語になった2009年にあって、このマンガの身も蓋もなさには出色です。派遣社員、奥手、受け身、くるりの岸田にちょっと似た風貌のメガネ男子が主人公。いわゆる「やらハタ」ももはや10年前の出来事、20代最後の夏も何もなく虚しく過ぎ去っていきそう（ちなみに11月生まれ）なある日、誰の人生にも一度は起こるといふ「モテ期」が突如、幕を開ける。のか（笑）、もしそうならばぜったい乗り損ねたくない！ という悲壮な覚悟はあっても経験不足とヘタレぶりは覆い隠しようもなく、うまくいく寸前のところで女子の不興を買い、免疫がないから自問し絶望し、といったドタバタを、絶妙な心の声（「この電車で彼女いないの 俺だけじゃね？」とか）を多用して描く。誇張的なんだけどものすごくリアリティがあるのは、絵の巧さ（女性キャラクターの描き分けがすごい。絵姿と性格付けの完全一致）もさることながら、少年誌でキャリアを積んだ女性作家（1975年生まれらしいから主人公より少しだけ上）による男子の萌えツボを押さえた描写、そして同性ゆえの女性心理描写の確かさゆえでしょう。勉強させていただいて、いいですね？

日本経済新聞社 編集委員 / 天野 賢一

■ 多いに共感できる。健康男子の誰もが持つであろう、【女の子に対しての妄想三昧】が主人公にあり、過剰なイメージが心地よい。さらに対象相手（女の子）の手の内妄想も関わって、いわゆる通常の出来事なのに、内容は心理戦でのバトルに思えてくる。少女マンガのフォーマットが備わっているので、成人コミックにこれらを導入する事により、新しいジャンルがまたひとつ開拓されるのではないかと。

ダンス俳優 / 新井 文月

■ 草食系という言葉がもてはやされていますが、やっぱり男の人が傷つきたくないから自分からいけないじゃあ、女の子としては考えちゃいますよ〜。でも、「異性とどうにかなりたい！でも…！流れっていうか運命に身を任せて乗れるなら乗ってきたいぜ〜！」みたいな悶々とした男性のカンジが漫画としてもものすごく面白いです。そしてまわり友達でこの漫画に共感してる男子が意外に多かったり。。あらら。

フジテレビアナウンサー / 松尾 翠

■ 女の子が可愛い。これに尽きると思う。「3. 3. 7ビョーシ！」の頃から、可愛い女の子を描くのがうまい人だなと思っていたので、直球の漫画を描いてくれて個人的にも非常に嬉しいです。あらすじを書くとモテキに入り周りの女性に急にもてだす主人公とハーレム漫画の設定のようだが、趣は全く違います。普通、男性作家が描くとどれだけ人数がいようと結局主人公しか見ていない女の子ばかりになるところ、まず女の子たちが主人公を中心として動いていない。これはラブコメ漫画としてすごいです。女の子たちも性格に陰影があり、それでいて可愛い。性格にひと癖ばかりあるのにみんな魅力的な「うる星やつら」みたいな感じ。女性作家が描く女性キャラは、男性には描けない深みがあります。主人公はどうしてもよく、女の子たちが見たくて続きが楽しみです。

ジュンク堂書店新宿店 コミック担当 / 小磯 洋

■ 僕のやっているバンド、ミドリの鍵盤担当のH氏は、童貞街道まっしぐらの人です。（26歳。インポテンツではありません。） そんな彼に勧めたところ、彼も気に入って、いざと云う時は、もう大丈夫です！と、云っていました。大丈夫らしいです。なにが？この漫画、おもしろい。

ミドリ / 後藤 まりこ

-
- 初めてのデートで、「今日は楽しかったよ。良かったらまた誘って」なんて、普通に言えてしまう現代の草食系男子にこそぜひ読んでもらいたい1冊。昭和育ち、かつ体育会系出身なもので、男が受身でどないするっていうツッコミを入れつつ読みました。

Amazon.co.jp Books エディター / 原田 圭

- 思っていることを言えなかったり、すれちがったり、男子も女子も不器用すぎておもしろい！ただ、「この状況どこかで…」と、うっかり自分の過去を思い返してしまっていて痛かったりするので、よむ時は注意が必要です。

恵文社バンビオ店 文芸書・文庫担当 / 大瀧 彩子

- こんなタイトルの作品は読むまいと思っていたのですが……。いつかちゃんかゝる。年代的に共感できるようなネタがちりばめられててそれも効果的です。

会社員 / 林 礼春

- 肉食女子としては大いに応援したいマンガです。主人公は思考がどっちかというと少女マンガの主人公ですね。そこを女子がぶったぎったり翻弄したり、微妙に翻弄したりの心理戦が見応えあります。もっとナヨナヨした話かと思ったら意外とガチンコ系でスッキリ読めて面白かった。表情ひとつひとつの描写が、あーいる！こういう人ってか感じで楽しいです。あ、でも、筋金入りのナルシストにはオススメできないかも。

フリー WEB デザイナー / 河本 知香

マンガ大賞
Cartoon grand prize
2010 マンガ読みが選ぶ 2009 年の一推 !!

二次選考

- この物語は女性と付き合ったことがない主人公の男性に突然のモテ期が訪れるところから始まります。何人かの女性にアプローチを受けるも、チャンスをつかめず悶々とする様がリアルに描かれています。このマンガのすごいところは、なんといっても、男心の描写だと思います。恋愛経験がない男性主人公の心情がリアルすぎなのです。作者は女性なのに、おかしいとぐらい思えるぐらいに。色々な理由をつけて一步踏み出せない心情が痛いぐらいに描かれていて昔を思い出して心に突き刺さるのです。さらに、それだけではなく、女性側のモノローグもあるのが良いです。女性も同じように迷っているし、勇気を出しているのに、主人公が踏み込んできてくれない寂しさ、辛さも同時に描いていることで、単なる後ろ向きな独白ではなく前向きな物語になっているように感じます。友人の女性にも感想を聞いてみたのですが、実際このマンガは女性が読んでも、納得感があるらしく女性も主人公の男性に共感するところが多いようです。最初は女性も似たようなもので、踏み出してゆくのがとっても怖いんだよといっていました。” 一步踏み出すのはとても怖いし、傷つくことも多いけど、相手はそう思っていないことも多いよ一步踏み出してごらん” とエールを送っているようなマンガです。” 踏み出すことで、あなたが勝手に思っている世界は大幅変わるんだよ” といっているようです。まだ恋愛経験がない人や、恋愛に臆病になってしまっている老若男女に是非読んでもらいたいマンガです。

IT系企業 / 廣瀬 公将

- メイン男性として主人公の苦悩を少女マンガとしての心理感覚を備えて表現している事で、心の葛藤「バトル」が生み出されている。その場合あくまで戦う敵は女であり、そこでどう成長してくかが、多くの読者の「経験」となるはずだ。しかし作品が惹きつける一番の魅力は、その根底には単純な「モテたい」という、おそらくほぼ全人類の男の悲しいサガが直球で魂に向かってくるからであろう。

ダンス俳優 / 新井 文月

- 見事なまでの男子の優柔不断さに『そうそう！そこそこ！その押しが足りないのよ〜』とリアルで思ってしまう事と重なって面白い。読めば読むほど良さがわかる本だと思う。

フリーカメラマン / 平沼 久奈

- ・明日をも知れぬ職につくアラサー非モテ・追い詰められると即自虐に走る・夏フェスにホロ苦い思い出がある・女性と知り合うたびに「あわよくば」と思うこの主人公は俺ですか？

アンチバッティングセンター / 増山 寿史

- 多分本当は、この作品は最終話まで来た段階で大いに評価の割れる作品だと思います。いまや時代の先端である、もてないダメ男が主人公ではありますが、意外と普通のラブコメだと思うのです。つまり各ヒロインとどうなっていくのか、この結果次第でこの作品を推した方々の評価も割れると思うのです。もちろん、作中の音楽など、同時代を生きる私などにとってとても共感できる部分等への支持もあるんですが、だけど、結末への期待も含めて読むのが楽しい作品ですので、2位に推します。

会社員 / 林 礼春

- 僕の身内にこの様な人がいます。その人も、最近、童貞を卒業されました。読んでいて、主人公あその人に見えてきて、なんだか、妙な気分になります。

ミドリ / 後藤 まりこ

- 男性が読んでも女性が読んでも、「ああっ、痛いところ突かれたー！てかこれ、オレの話！？」と思うのではないのでしょうか。モテたくてモテたくて、でもいざとなると煮えきらなくて、失敗続きで後悔ばかり。なんとも苦笑いを誘う、でもなぜかハマってしまうマンガです。

旭屋書店 船橋店 / 安田 奈緒美

- 「ついつい応援したくなる！泣けるマンガ今期NO.1」誰でも一度は経験したことのある、つい昔を振り返ってしまう（振り返りたくないんだけど・・・）マンガです。

デザイナー / 佐藤 優

- なんというか…こんなことあったらいいな…今まであった人間関係が、突然距離感が変わるだけでこうなる！現実にあるかはわからないけどあったらいいな…だから読んじゃう！そんな作品です。

メガマソ ギター / 涼平

- い、痛い！痛くて読み通すのが大変。ただそれは、まさに自分もそうだったから。自分のちっぽけなプライドのために、さしのべられたチャンスをどれだけムダにしてきたことか。現在の、草食系男子や男性オタクのメンタリティを鮮明に表している作品だと思う。

おたく史研究 腐男子 / 吉本 たいまつ

- 草食系は読むべし！

Amazon.co.jp Books エディター / 原田 圭

- 思っていることを言えなかったり、すれちがったり、男子も女子も不器用すぎておもしろい！ただ、「この状況どこかで…」と、うっかり自分の過去を思い返してしまっていて痛かったりするので、よむ時は注意が必要です。

恵文社バンビオ店 文芸書・文庫担当 / 大瀧 彩子

- 主人公の自意識と卑屈さの入り混じった駄目さ加減に、何でこんなヤツがもてるのか！？というラブコメにおける最大の禁忌を考えてしまうほど、登場する女の子の魅力が溢れている。それぞれの女の子にちゃんと個人としての生活と人生があるのだ。主人公との関係によって人生が決まるほど依存する既存のラブコメ作品とは一線を画している。

ジュンク堂書店新宿店 コミック担当 / 小磯 洋

- 年齢的にもすごくシンパシーを感じます（笑）絵のタッチが個人的にすごく好きな感じなので、よりストーリーに入り込めます。とりあえずキャラ設定の妙に、感銘を受け、これをおします。

Grick（コンボージャー & アレンジャー） / 和教

- これも共感度大。あと願望も含め w

I T系企業経営 元漫研編集長 / 平田 淳

- 読んでいて生々しく感じてしまいました。自分の人生と重ねるとちょっとダメージが大きいかもしれませんが。このままフジ君がどうダメに生きていくのか見続けたいのですが、4巻で終わるようなコメントが3巻にあってちょっと残念です。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

- 危なかった。これを読んだのが40過ぎでよかった。二十ウン歳のあの時の私にもしコレを読ませたら、ページに顔を押し当てて嗚咽するだろうか、悲鳴を上げて本を放り投げるだろうか？

朝日新聞記者 / 小原 篤

- 少女漫画家時代は、知りませんでした。少年マガジンで「3.3.7ビョーシ」を読んだ瞬間、この作家さん青年漫画に行ったら面白いよな！って、思ったのを昨日のように覚えています。「モテキ」何とも心地良い響きに釣られ手に取ったら最後、この世界にどっぷりとハマってしまいます。若い時、俺もあったよなこんな事って、大笑いしているつもりなのに、どこか辛かったりして読んでいます。「モテキ」という、心地良い響きの裏の辛い部分もしっかりと描かれているところが、この作品の良さだと思います。青年漫画でありながら、女性ファンが多いこの作品、それだけとって見ても面白い漫画だと証明されていると思います。読んで、悔いの無い恋愛をして欲しいものです（笑）

COMICCOZZLE(韓国) 店長 / 野田 真人

-
- 「草食系」なんて言われてる内が華だぜ！主人公・幸世にいつも投げ掛けたくなりますが、自分が男だったらきっこうだろうかと、なんだか彼を憎めなくなってしまう…。あとがき漫画を読んで、やっぱり作家さんの人間味が作品に出るんだと、むしろこっちを本編に一作品読んでみたいですよ久保先生！

アバンティブックセンター京都店 / 中村 真依子

- 満遍なく味わえる草食系男子の不甲斐無さ。だが、それがいい。というか、主人公は女の子でしょうか。だが、それもいい。

教師 / 持丸宏司

- 人の気持ちの動き方のジャストな部分を描くこと（「そうじゃなくてこうなんだよ！」という）を絶対手放さないぞ！という意気込みみたいなものが伝わってくる主人公にいらいらもやもやしすぎて「なんかこのマンガもういや…」と思ったけど、それほど取り込まれていたということか。女の描き方が新しいと思う。

漫画ライター / 門倉 紫麻

- 挙動不審っぽい振る舞いが目立つ草食系男子で、派遣社員の非モテ29歳。そんな男子を主人公に据えた時点で、一定の支持を得るだろうことは予想がつく。多くの日本男子にとって自分を重ねることがたやすいから。「アイツになりたい」ではなく「おまえはオレだ」が優先される青年コミックのある意味でセオリー通り。でも設定のうまさだけではもちろんない。自意識過剰って言ってしまえばその通りなんだけど、その自意識の呪縛からどうしても逃れ得ないのが20代のつらさなわけで。若いうちによけいな自意識を捨て去ることができたら、みっともない悪あがきをすることも、「体験を積む」チャンスをみすみすみ見逃すこともなかっただろうに、と思う元・青年の読者はわたしだけではあるまい。作者によると「いかに幸せが指の間から砂のように零（こぼ）れ落ちるか」を描いているのだそう（Amazon著者コメントより）。「モテる為の成功法則書では一切ありません」とも言っているけれど、案外そんなことはないのでは。巻を追うごとに過剰になる女子のココロの声の発露（作者のサービス精神のたまもの？）は一読に値すると思います。リアルかどうかまでは分かんないんだけど。4巻で完結するらしいし、テーマや設定がとても今日的だと思うので、1次選考に続いて1票入れさせていただきたいと思います。

日本経済新聞社 編集委員 / 天野 賢一

Cartoon grand prize

2010 マンガ読みが選ぶ 2009 年の一推 !!

マンガ大賞 2010 ノミネート作品

ビッグコミックスピリッツ / 小学館

「高校球児 ザワさん」 三島 衛 里 子

選考員コメント

一次選考

- 女子高生なのに、ごく当たり前に男子野球部員として存在しているザワさん。ザワさんより、ザワさんを見る周囲を描いているので、本人が何を考えているのかは、実はよくわからない。しかし周囲の反応などお構いなく、淡々としているザワさん。野球漫画ではないので、試合とか大会とか甲子園出場とかはありません。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店コミック担当 / 山本さとみ

- 女子球児の日常を覗き見しているような。画面の切り取り方とかディテールの見せかたがうまくて、リアル球児／野球部ってこんな感じか！とうなってしまう。

恵文社バンビオ店 文芸書・文庫担当 / 大瀧 彩子

- 史上最大のフェティズムマンガ 読んだあなたは必ず「ザワフェチ」になるでしょう 高校時代に感じたあの懐かしい夏の汗臭さが決して嫌みではない むしろ清々しささえ感じる ザワさんあんたメチャクチャ格好良いよ

HMV リバーウォーク北九州 チームリーダー / 阿部 大介

- 恋しました。ザワさんに。同級生だったら確実に「密かに憧れる同性」として、近づくこともなく教室の片隅から見つめていただろうな。1コマ、1ページ、じっくり味わいながら読みたい漫画です！

アバンティブックセンター京都店 コミック担当 / 中村 真依子

- やっぱり運動は自分でやった方が面白い、と思うのですが、女子が入って行きにくい競技があるのも事実で。ザワさんは楽しそうで良いです。

会社員 / 林 礼春

- なにげなく読んでいたにも関わらず、いつの間にか沁み込む彼女の魅力クラスメイトに感じたアノ感覚を思い起こさせます。

COMIC ZIN コミックバイヤー / 塚本 浩司

- 女の子なのに高校野球をやっている都澤理紗の身辺を描いた、試合風景がほとんど出てこない野球マンガ。ザワさん目線、その周辺の部員目線、まったくの部外者目線など、それぞれが偏らないようになっていて、その配分が絶妙。科白のないコマの使い方も上手で心に残る。ほとんど科白のない第33話「放課後」なんて、自分も高校生の時にそんなことを感じていたなあ、という不思議な既視感を覚えてしまう。あと、楠本君を見ていると、男子高校生特有の漲っている感じが出ていて、それも最近の楽しみの一つ。

米子高校 司書 / 野間 勤

- なんととっても「部活女子」のガードの甘さにつきます。見ててこっちがはらはらすること多々あり。健全な男子高校生目の前で、あんなことやこんなこと。いやあ、ほんと、ごちそうさます。とにもかくにも、魅力満載の「ザワさん」、そりゃあ好きになっちゃうでしょー。なにがすごいって、それが全く計算されていないという点。ひたむきな練習姿にも惹かれます。近所の高校に通っているみたいなので、今度みにいつてみようかなあ、なんて。

オリオン書房ルミネ店 / 池本 美和

-
- 青年誌での連載ですが、コミック読者の大半は女子なんじゃないでしょうか。普段はさっぱりした女子高校球児のザワさんがふと見せるエロさにやられます。言葉数が少なかったり、動作で見せたりするところが映画的。とにかく雰囲気が好き。

三省堂書店 神保町本店 / 赤坂 真実

- 『野球漫画』と呼んでいいのかな？そうでなければ、何漫画と言ってオススメすればいいんだろう？と迷う作品です。カテゴライズできない不思議な魅力、それが『ザワさん』自身の魅力でもあるような気がします。

伊吉書院 類家店 / 中村 深雪

マンガ大賞
Cartoon grand prize
2010 マンガ読みが選ぶ 2009 年の一推 !!

二次選考

- 表紙を見て「なんだ女子高生が主役の野球青春マンガか。ケッ」と思ったら大きな間違いです。こんなに”分かってらっしゃる！”と作者に握手を求めたくなった作品は久々です。ショートショートで読みやすいのも良いですね。

元書店員（三省堂書店経済産業省売店勤務）／ 畑中 瀬路奈

- ひとコマ、ひとコマに青春が詰まっています。そして何度も繰り返し読みたい「詩」のような味わい。ザワさんと同級生だったら、きっと恋に落ちていたはず。

アバンティブックセンター京都店／ 中村 真依子

- 男子しか出れない甲子園出場へ、叶うことの無い練習を何故続けるのか。アホに描かれる日常にたまに挟まれる、そんなシーンで切なくなります。そしてザワさんの隠れ巨乳にもせつなくなります。それはそうとザワさん（a.k.a 理沙）て実は結構めんどくせえ女なんじゃねのーかwますます最高です。大推薦。

クリエイティブディレクター／NORISHIROCKS(hide2)

- ザワさん。「あるある」と「ないない」の狭間が絶妙すぎ。日常素描という名の妄想劇をここに見ました。ザワさん、できることなら甲子園で投げさせてあげたい。っていうくらい、応援してます。

オリオン書房ルミネ店／オリオン書房ルミネ店

- 『モテキ』のいつかちゃんも好きなのでさんざん迷ったが、ザワさんのえもいわれぬ魅力に膝を屈した。こういう絵、こういう話、こういう「間」のマンガを読んだことがない。空気感だけと思いきや、妙に生々しい「肉体感」もある。スピリッツで細切れに読んだ時はあまり印象に残らなかったが、単行本でまとめて読むと面白くてびっくり。

中央公論新社 雑誌・書籍編集局次長／石田 汗太

- 高校生の部活が、説明的になりすぎず、かといって感情的にもなりすぎず、絶妙なバランスで描かれている。特にザワさんが校舎に響く野球部以外の音に耳を澄ますところが印象的だった。ほとんど科白もないのに、多くのものを伝えることができている希有な回だった。あと、楠本くんが持っている男子高校生特有の漲っている感がすごい好き。そりゃプロテインをザワさんに吹き出させようとするかもな。

米子高校 司書／野間 勤

- 目線が終始「観察」「のぞき見」視点という、今までありそうでなかったタイプのマンガでした。タイトルだけで判断してスポ根系マンガと思い込んでいた自分が恥ずかしい。

アンチバッティングセンター／増山 寿史

- 連載初期からなにげなく読んでいたのですが、それがいつの間にか目が離せなくなり、だんだん夢中になって行きました。クラスメイトの女子に対する淡い思いに似た感覚というのかなりこっぴどいのですが、まさにそれだと思います。回を重ねるごとにその子(ザワさん)のちょっとしたことを知っていく嬉しさとか。まあ単純にショートヘアに弱い、という個人的な趣味もあるのですが。

COMIC ZIN コミックバイヤー／塚本 浩司

- 史上最大のフェティズムマンガ 読んだあなたは必ず「ザワフェチ」になるでしょう 高校時代に感じたあの懐かしい夏の汗臭さが決して嫌みではない、むしろ清々しささえ感じる 「ザワさんあんたメチャクチャ格好良いよ！」

HMV リバーウォーク北九州 チームリーダー／阿部 大介

- 「野球部」っぽいエピソードの選び方や、過不足ない画面の見せかたがうまいなあと思います。ザワさん本人に近い話も、同じクラスの野球部の面々や家族のこの話も「も、もうちょっと見せて…」と思ってしまう。女子球児の日常を覗き見しているような、そんなマンガです。

恵文社バンビオ店 文芸書・文庫担当／大瀧 彩子

-
- 女の子が公式野球をやるというテーマから、少女漫画か？とかインパクト重視のギャグマンガ？と最初は思ったんだけど、どっちもちがいました。ギャグ漫画かな？とおもいつつも、男の子が女の子に対して思う、恋心？というよりは異性に接するときのちょっとしたときどき感が丁寧にリアルに描写されている。実際に高校に勤めているから、すごく伝わってきますね。あとは、間のとり方の旨さ。フキダシも文字もないコマが結構多いのですが、そのコマから色々なものが伝わってきます。登場人物の気持ちはもちろん、緊張してツバを呑み込む音。虫の鳴き声や、教室の雑音。放課後の吹奏楽部の練習、そして、硬球を金属バットで打った音。表情の描写の旨さも感じたけども、それ以上にBGMを感じます。

鳥取県 米子高校 美術部&マンガ研究部顧問 / 佐川 由加理

- とにかく雰囲気好きな作品。青春モノの短編映画を観ているような気分になる。大きな事件が起きて、それを核に話が進んでいくタイプの作品ではない。日常を切り抜いたかのような、懐かしい感じがいい。

三省堂書店 神保町本店 / 赤坂 真実

マンガ大賞
Cartoon grand prize
2010 マンガ読みが選ぶ 2009 年の一推 !!

マンガ大賞 2010 ノミネート作品

ゲッサン / 小学館

「アオイホノオ」 島本和彦

選考員コメント

一次選考

- 人にとってハタチ前後の一時期は、今後来る未来に対して根拠のない不安を感じまくる時期。そして、その不安を振り切るために、もがき苦しみ、燃える時期。しかし若さゆえの悲しさ、燃える術をよく知らず、空回りして不完全燃焼をくりかえしてしまう。アオイホノオを燃やしてしまう時期。マンガ、アニメにとって激動の時期であった 80 年代前半に学生時代を送った作者が描くアオイホノオは、滑稽であるのに切ない、辛いのに笑える、極上の私小説です。

医師 / 岸本 倫太郎

- オーバーなりアリティが笑いになる、数少ない漫画だと思います。

デザイナー / 佐藤 優

- 巻数を重ねる毎に面白くなってきていて、第3集が一番面白い！ 島本和彦の独特のオチがたまらない！
また、マニャック過ぎる視点のマンガ、アニメの解説においてられないように必死になっている自分にも、笑える。

アニメイト / 鈴木 寛子

- いつも悩んでしまう作品、投票してしまっていたのかと。でも、面白い！いや、面白いのか！学生時代の、この焰燃の葛藤や行動が共感できる。燃の言動が、かっこよいように見えて、実はそうでも無い所がよいですね。「この漫画面白いの？」と聞かれたら「まあまあですよ」と言ってしまうそうです（笑）

フリーデザイナー / 平沼 寛史

- いつも通りの熱血ギャグ漫画ですが、希望と野望と才能に溢れた（と信じていた）俺がいた時代のお話。バクマンは建前の世界。こちらは本音の世界。もっとも本心は隠していますが。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店コミック担当 / 山本さとみ

- 当時のマンガ、アニメ、特撮に満ちていた熱気と、おたく文化が本格化する次の時代への胎動が生々しく描かれているのも面白いんですが、主人公の空回りしっぱなしな青春ストーリーになっているところも面白いです。私が研究テーマとしている時代をもろに描いているので、目が離せません。

おたく史研究 腐男子 / 吉本 たいまつ

- 「漫画家」が主人公の漫画の当たり年。

アンチバッティングセンター / 増山 寿史

二次選考

- 力はないのに根拠のない自信だけがあり、それで事にぶつかってつぶれ、でも少しでも光明を見出す。若さゆえの空回りが苦しいほどに克明に描かれた作品です。まさに島本版「男おいどん」。抑えられた熱量が時代の熱量を強調していて、その練り込まれた作りにまずヤラれます。

医師 / 岸本 倫太郎

- 「常に暑苦しい！ だけど涙が・・・」 同じカテゴリーのマンガが見当たらないオンリーワンのマンガだと思います。

デザイナー / 佐藤 優

- 今の日本のマンガ・アニメの大御所を愛情を持って茶化したり、当時の視点から画期的な部分を分析したり、いい作品だと思って観てたアニメやマンガによりスパイスを与えてくれる作品。3巻からの島本先生節炸裂には、もう楽しくって楽しくって・・・4巻というかゲッサンが待てない！

アニメイト / 鈴木 寛子

- これぞ、島本和彦の原点！と思わせる作品です！マンガ家が主人公という作品が今年は多い中、郡を抜いて面白い。いや、懐かしさまで感じさせてくれる。学生時代の葛藤や行動。意味の無い行動にこそ今がある。たしかに、昔は、皆、何かに憧れ、その夢に向かってひたすら行動していた。そんな、昔の懐かしさを思い出します。「燃えよベン」と「吼えろベン」も一緒に読むと面白さ倍増です！ジーパン走り、自分も友人とやっていた。とにかく熱い！心を燃えるマンガです！

フリーデザイナー / 平沼 寛史

- 若さって痛い。青い。美しい。痛い。島本イズムの総決算棚卸。大推薦。

クリエイティブディレクター / NORISHIROCKS(hide2)

- 80年代のコミックスを知っている人にはこれ以上無い傑作のパロディであり、本人の島本和彦自伝集である。吼えろベンなどもそうであったが、こういった実在の人物をパロディにして読み手に面白いコミックスを描ける作家さんは数少なく、人物を知らなくても面白く読めるのではないかと思います。今回は登場人物が実名なのも面白さの押上を図っている。

まんが王八王子店 / 日吉 雄

- 笑いでコーティングされた（埋めておきたい）青春の蹉跎。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店コミック担当 / 山本さとみ

- 熱いんだか冷めているんだか有象無象魑魅魍魎島本和彦真骨頂！

信長書店四条河原町店 アルバイト / 中村 誠亨

- 他人事じゃないので。

文筆業 / 海猫沢 めろん

- 「おたく文化」が、まさにそこで作られているという熱気が感じられる作品。新しいものを作ろうという意気込みあり、すっぱい恋愛あり、気持ちの空回りもあり。このダイナミズムがたまらない。フィクションとは銘打ってあるものの、実質的にはドキュメンタリーになっているのも面白い。

おたく史研究 腐男子 / 吉本 たいまつ

- もちろん昔のマンガは好きだ。「無敵な感じ」があるから。売れる方程式が定義される前の時代。その「無敵な感じ」がこの漫画にはある。そして漫画を前に進めてる。

Juvenile. 音楽家 / 児嶋 亮介

-
- 島本和彦氏は元々「漫画家」を主人公としたマンガの作家として有名だが、今作は代表作『吼えろペン』等とは毛色が違い、氏の自伝的要素の強い作品となっている。作者お馴染みの熱血マンガ的要素は薄い、80年代を舞台とした青春モノとして当時を追体験できる内容に仕上がっている。また、ある意味『バクマン。』とは対照的な作品とも感じられた。

Web サイト「最後通牒」管理人 / 高嶺 おろし

- 時代の巡り合わせや幸運に恵まれることも、やっぱり大事なことだけど、「まんが道」は、いつの時代もきっとどこかにあるはずだと思います。もちろん現代でも。 マニア向けマンガ誌の編集者の多くが、『増刊サンデー』への憧憬を語る様子をうかがってきたので、当時の状況が伝わってきて個人的にとっても興味深く読みました。

ライター / 会田 洋

- 平成にはもう無い昭和の熱が感じられる作品。

漫画全巻ドットコム / 安藤 拓郎

マンガ大賞
Cartoon grand prize
2010 マンガ読みが選ぶ 2009 年の一推 !!

マンガ大賞非ノミネート作品

全作品名・選考員コメント掲載

「アイゼンファウスト天保忍者伝」長谷川哲也 山田風太郎

- 携帯コミック市場のマーケティングと表現規制が山田風太郎と悪魔合体した怪作。横山まさみちの直喩表現を蘇らせたり、メーテルをナニしたり、長谷川哲也の数々の悪ノリを称えたい。Michao! の撤退とこの作品が示した可能性は、今年のマンガ市場と表現の関係と読み解くうえで、かなり重要なポイントではないかと勝手に考えています。

ライター / 会田 洋

「i.d.」岸 虎次郎

- 学校でのイジメからニートになった美雪と、色と欲にまみれた業界の売れないモデル亜紀子、2 人の物語。1 巻ではまだ二人が出会うところまでしか描かれていませんが、この先期待大です。

Amazon.co.jp Books エディター / 原田 圭

「青い花」志村貴子

「青空エール」河原和音

- 青春直球ど真ん中。2 巻の最後でグッときて、3 巻の最後でまたグッときて、電車の中で涙ぐみそうになった。
- ブラバン少女と高校球児のド直球青春部活マンガ。初心者でも、へたくそでも、あきらめない。主人公が強くなっていくさまは本当にグッとくるし、ひたむきさに心打たれます。

朝日新聞記者 / 小原 篤

恵文社バンビオ店 文芸書・文庫担当 / 大瀧 彩子

「青の祓魔師」加藤和恵

- 圧倒的なまでに絵がうまい！周りのキャラもたってて続きがすごく気になる

(株)成田本店とわだ店 主査 / 安田 幸

「あさって朝子さん」伊藤理佐

- 芸術的に評価されるタイプの作品ではないけれど、こういう楽しさ・面白さというもの、マンガならではの魅力だと思う。何度読み返しても笑える。

ダ・ヴィンチ編集部 / 関口 靖彦

「アスカ@未来系」島本和彦

- 島本和彦は熱血の人。これは万人の認めるところだと思いますが、実は SF マインドの極めて強い人でもあります。いままでの作品の中でもその SF マインドはことある度に現れてきましたが、前面に現れる機会はなかなかありませんでした。しかしついに、今作で炸裂しました！物語に現実感を持たせる隙のない設定、次々現れる個性的なキャラ、ライバル。作り込まれたマンガを求める方はぜひ読んでいただきたいです。

医師 / 岸本 倫太郎

「AZUMI- あずみ -」小山ゆう

「アホリズム」宮条カルナ

- タイトルから感じるギャグっぽさとは正反対な血生臭いストーリーなのに、作者のセンスか全体の印象は明るくギャグセンスも高い

(株)成田本店とわだ店 主査 / 安田 幸

「あまんちゅ！」天野こずえ

- ハートフル学園コメディでありながら、精一杯に、照れも恥らいも無く真正面から日常とその全てを講え、受け入れ、人生はこんなにも美しく楽しいのだと学園生活を謳歌するその姿。比喻でもなんでもなく、読んでいる間は悩みや迷いや心の疲れがどこかに吹き飛ばしてしまう作品。この歳になって、マンガを読んでこんなにも心が洗われるとは思わなかった。

ひょうたん書店西田本店 / 筒口 征洋

「雨無村役場産業課観光課」岩本ナオ

- ひたすらに切ない・・・切ない気持ちで押しつぶされそうになる そしてその切なさヒシヒシと伝わってくる 言葉に表す事が出来ない気持ち でも決して悲しくはない むしろ気持ちが暖くなる ほっこりする「雨無村役場産業課観光課」

HMV リバーウォーク北九州 チームリーダー / 阿部 大介

「以下略」平野耕太

- 今回今までで一番真面目に答えてる気がするので、なんか反動がきたのかもしれませんが。でもこのマンガの第八話が今年一番笑ったマンガだったのがまぎれも無い事実なので仕方なく(どんな言い草だ)。万人にすすめられるマンガなんて毒にも薬にも…以下略。

ヴィレッジヴァンガード町田 店長 / 大山 敏樹

「いばらららばい」雁須磨子

- 雁さんの描く女の子って、わりと地味だし普通の子が大半なんですけど、それでも懂れてしまうなにかがあるんです。この作品にでてくる4人の女の子の、心に抱えるいろんな本音の部分がなんだかもうリアルすぎて、胃をしめつけられる思い。でもやっぱりそれだけじゃない、なにかがあるんだよなあー、なんでしょう。これぞ雁マジック。いろいろ大変な大人の女の子は必読の作品だと思います。

オリオン書房ルミネ店 / 池本 美和

「イムリ」三宅乱丈

- 独特の世界観で展開される、支配する側と支配される側の物語。自分の価値観と現実の狭間で成長しつつける主人公と同じ視点で自分も困難な道を突き進んでいる感覚がおすすめ。

会社経営者 / 小野 ゆうこ

「VINLAND SAGA」 幸村 誠

- 猛々しい戦闘シーンや巧妙な戦略、また、計算された登場人物の一言一言がストーリーの展開に絡んできて面白い。かたき討ちのため、アシェラッドに近づいていたトルフィンが、目的を失った今どのように人生を歩んでいくのか、とても楽しみだ。

DJ/DJ RANUMA

- 精神的な傷を背負ったひとりの少年と、境遇はことなるが同じように孤独を抱える少年王の物語。いわゆる善人は出てこないリアルな展開に引込まれる。

会社経営者 / 小野 ゆうこ

- あの『プラネテス』作者の連載ということで既にマンガ読みの間では名の知られた作品ではあるが、マンガ大賞にエントリーできるのは今回が最後！ということで駆け込みで推薦。最新刊の第8巻では長きに渡る序章がついに終わり物語にも一区切りがついたので、まだ未読の人はこの機会に是非一読を。

Web サイト「最後通牒」管理人 / 高嶺 おろし

「うさぎドロップ」 宇仁田 ゆみ

- 等身大の登場人物たちが成長していく様子を、これまでと同じようにこれからも、ずっと見守り続けていきたいと思います。

教師 / 持丸 宏司

- 子供時代のりんちゃんも、高校生になってからのりんちゃんも気絶するぐらいキュートです。

ブロガー / サイトウ マサトク

- 毎回挙げさせていただいていますが、今回で投票できるのは最後になってしまうのでしょうか。「愛」を描かせたら世界一じゃないでしょうか。残酷さに誤解せず、読み進めてほしい作品です。

音楽プロダクションマネージャー / 樋口 健

「海街 diary」 吉田 秋生

- 鎌倉 4 姉妹のお話ですが、人が人を支えるときの重さや、支え方をいろいろと考えさせられます。早く、早く 3 巻を。

音楽プロダクションマネージャー / 樋口 健

「ウランバナ」 勝田 文

- じわじわと人気を得てきている勝田文。中でも一番サラッとした爽やかさを感じさせる作品です。心理描写が同年代の女性と同じ目線で丁寧に描いてあるのも読みどころで、意地っ張りな恋を続ける主人公に、思わず「うんうん、その気持ち分かるよ！」って声を掛けなくなっちゃいます。また、画面構成や絵柄、そして匂いのような「夏」の描写が相まって、何とも言えないノスタルジーさも感じさせる作品です。

元書店員 (三省堂書店経済産業省売店勤務) / 畑中 瀬路奈

「駅から5分」くらもちふさこ

- 3巻で、こんなにすごいところまで！くらもちせんせい、半端ないです。ものすごく細かいところでつながる、つながる、つながる……相変わらず、フードの使い方が抜群。コロッケネタにキャラメルネタ、びっくりするような形で「つながり」ます。万華鏡のような、フラフープのような、めまいを伴う快感があります。4巻で完結ですが、待ち遠しい。で、同じ町内のお話が新シリーズで始まるらしいので、それもうごく楽しみです。

料理研究家 / 福田 里香

「駅弁ひとり旅」櫻井寛 はやせ淳

- 旅。鉄道。駅弁。マドンナ的に旅先で出会う美女。理解ある美人妻。なんだよ中年の夢が全部つまってるじゃん（俺含む）。釣りバカ日誌の併映とかで映画化すれうけると思う。（もう遅いか）

クリエイティブディレクター / NORISHIROCKS(hide2)

「榎本俊二のカリスマ育児」榎本俊二

- とにかく作風が好き。

公務員 / 東くるみ

- リアルに幼児を育てている今こそ、一番楽しめるのは育児マンガだ！ と思って、目につく限りの育児マンガを読んでいるのですが、その中で、ダントツに面白いのが、コレ。男性作家の育児マンガってのが、そもそもめずらしいんですけどね。愛情、って言葉で子供のどうしようもなさを許したり受け入れるのではなく、翻弄されつつ観察し、容赦なくデフォルメするギャグマンガ家の魂に感動。どこまでもちゃんと育児しつつ、たまにすごくおおざっぱな育児手段が出てくるところも痛快。空き地で走り回らせるだけ、って……！あと、あの榎本俊二が、幼稚園のために書いたというイラスト収録されてます。1% ぐらいの 毒、ってこうやるのかー。

ニッポン放送アナウンサー / 吉田 尚記

「大奥」よしながふみ

- もう一つの江戸の歴史を漫画で読む、新しいタイプの大河ドラマ。素敵な歴史の教科書です。

教師 / 持丸宏司

- 実写映画化も決まってしまうと今更推すこともないかと悩んだのですが、それでももっとこのマンガは読まれてほしい…！女性であれば…女性であるからこそ…、その想いの強さを男性にぜひ読んでほしいです。5巻でついに生類憐れみの令や忠臣蔵の話まできましたが、設定のあてはめ方が見事。この先どうくるかなあ。

フリー WEB デザイナー / 河本 知香

- 相変わらず、おもしろい！！架空のパラレル江戸時代にリアリティを与えているものは、意外なことに個人の恋愛の機微なのかもしれません。そうそう、最新刊では、あの有名な赤穂浪士のエピソードが、ついに出てきました。おお、なるほど～な展開で、ひとつの読みどころとなっています。

料理研究家 / 福田 里香

「おかあさんがいっしょ」木村和昭

- おかあさんのキャラが最高ファミリー4コマならではの娯楽が詰まった傑作

COMIC ZIN コミックバイヤー / 塚本 浩司

「おかめ日和」入江喜和

- この人の書く、人間模様、大好きです。愛情が、あふれている、ありふれた日常、とても大切です。僕は、こんな奥さんが欲しい。とても。

ミドリ / 後藤 まりこ

「おたくの娘さん」すたひろ

- 26歳・独身・彼女無しのディープなオタク青年のところに突然9才の少女が「パパ!」とやってくる。そんなマンガのようなシチュエーションをあっけからかんとやってのけたドタバタヒューマンコメディ作品。ネット連載が編集者の目にとまり雑誌媒体へと移籍というのも話題になった（あとがき参照）。ゆるゆると父親としての自覚を持ち始めつつもオタクから決して抜け出さない（やめられない?）主人公は、妄想好きなオタク青少年たちが漠然と描く一つの理想像なのだろう。最新巻では、読者の期待に対してものすごい変化球（少なくとも私は）。あれをやってのけるすたひろさん、すげーよ。

国分寺市議会議員 / 三葛 敦志

「odds GP!」石渡治

- とても心待ちにしてたマンガ。ヤングサンデーで連載していたのだけど突如休刊になってしまい、この先続きは読めなくなってしまうのだろうか? とてもハラハラしたのですが漫画アクションで連載開始。双葉社さん続きを読ませてくれて本当にありがとう。待ちに待った一巻は泣きながら読んでしまいました。麟太郎の何かを背をって必死に頑張る姿は普段頑張れなさそうになった私の背中をぐいぐい押してくれます。去年はマンガを読むまでは興味のなかった競輪を実際に見に行ったりしました。賭け事にはやはり興味はないけれど本気でぶつかる男の現場にドキドキ、そして熱くなりました。漕いで、漕いで、漕ぎまくれ!

フリーカメラマン / 平沼 久奈

- また、投票が出来る事に、喜んでいいのか悪いのか迷いました。漫画アクションに読める機会をくれた事に感謝します。やはり、面白い。いやこんなに読んでいて、熱い思いがこみ上げて来る事はないです! 読んでいる間に、涙まで込み上げてきます。麟太郎の行動ひとつひとつが、まっすぐで応援したくなります。「勇気」「友情」「勝利」全てが詰まっています! 個人的には、バリコの仲間を思う心や親への感謝の気持ちが好感触です。

フリーデザイナー / 平沼 寛史

「乙嫁語り」森薫

- 中央アジアの少数民族、というテーマを存分に描ききる森薫の力量に感服。人も景色も小道具までも、描かれるその全てが著者の「好き」という思いに溢れており、愛情と熱意は読者にも伝わってくる。しかし語られるドラマは非常に親しみやすく和みと温かみのある作品でもある。

ひょうたん書店 西田本店 / 筒口 征洋

- 筆力にまず脱帽。面白くなる予感にドキドキ。続きが本当に楽しみです。

書店員 啓文堂書店吉祥寺店 / 山川 美香

- まだ1巻が出たばかりだが、「エマ」をしのぐアミルの魅力にノックアウトされた。作者の詩情あふれる描写はある意味「神域」に達している。一コマ一コマが磨き抜かれた工芸品のような贅沢さ。うっとりします。

中央公論新社 雑誌 書籍編集局次長 / 石田 汗太

- 一話一話とても丁寧に描かれていてすごく読み応えがあります。全体のストーリーもゆっくり動いてきて、2巻がとっても楽しみです。

アニメイト / 鈴木 寛子

- 中央アジアを舞台とした嫁マンガ。これだけ書き込んでいのにごちゃごちゃした印象を与えないのがまずスゴい。衣装、絨毯、壁掛け、家の装飾…、これでもか! というくらい書き込まれている。うっとりする。しかし、なにより目を見張ったのがあふれる躍動感。ウサギや狐などを狩る時の動物とアミルの駆け引きがまるで動画を見ているようだ。雌羊の乳を搾った後、隔離されていた子羊が母羊の元に駆け寄るコマなど、子羊がほんとに躓いて転びそうに駆けてくる。1巻だけなので、人間模様はまだこれからだろう。でも「エマ」の実績があるのでそちらも期待大。

米子高校 司書 / 野間 勤

- 日本人女性にとって、一番言われて嬉しいほめ言葉は「可愛い」だそう。なので、いつの世もアンチエイジングだとか、パッチリ・くりっとした目だとか、フリフリのついているスカートだとか…とにかく「可愛い」に力を入れたメイクやファッションに力をいれてきた。が、日本人女性の求める「可愛い」とは、こんな意味だ(3) 幼さを感じられてほほえましい。小さく愛らしい。(goo 辞書より引用) 5つあるうちのたった一つ。しかも3番目なんだぜ。日本人女性よ、「乙嫁語り」を読むのだ。あとの4つはみんなこの嫁さん(アミル)がもっているから。本を読むと、家系制度とか、取り決められた結婚っていう匂いを感じられるんだけど…。アミルはいつも真っ直ぐで、てきぱきと仕事をこなし、謙虚な姿勢で、なによりだんなさんを愛している。だから、この二人の周りでは色々なことが起きるんだけど、二人の間には、幸せな空気がながれている。それが、物語の舞台である 19 世紀中央アジア(カスピ海沿岸地域らしい)の雄大でのんびりと時間の立つ場所とが合わさって、引きつけられる。民族衣装の描写や、弓を射るコマもすきだな～。草原で深呼吸がしたくなるような作品

鳥取県 米子高校 美術部&マンガ研究部顧問 / 佐川 由加理

「溺れるナイフ」ジョージ朝倉

- 私にとってとても衝撃的な漫画でした。ハマりました。もっとコメントしたいんだけど、言葉にしちゃうと崩れちゃいそうなので、「読めば良さが解るからとにかく読んでみて!!」って感じです(笑)。

シンガー / 山野井 千佳

「おやすみプンプン」浅野いにお

- 去年も入れたけど、さらにこの1年で凄みを増してとんでもない次元に行ってしまった。

アンチパッティングセンター / 増山 寿史

- 「マンガ」のすごさを、浅野ワールドの素晴らしさを同時に堪能できる作品。

株式会社ネビュラプロジェクト プロモーション・ディヴィジョン / 小森 和博

- 去年、深夜のテンションもあいまって、ものすごく恥ずかしい文章で、紹介した作品なのですが…。やっぱり今年も投票しちゃいます!!なぜかという、来年は投票ノミネートできなさそうな気がするから。巻数の問題ではなくて、これ以上、人間の「汚」の部分をえぐりだす描き方でコミックでと、二次ノミネートでまとめ読みするのが辛いから。こんなにえぐる作品を描いている、いにおさんの精神状態がこのままだと持たなくなる気がするから。(このままだと連載終了か、路線変更するんじゃないかと)主人公プンプンが、小学生～中学～高校卒業と、成長しているいまの状況だからこそ、人間の「汚」の部分がより面白いのかなと思うので。(大人というのは、どこか情性しながら生きるもので、「汚」の部分がかすんで見えとか、いにおさんよりプンプンが年上になったら、こんなにリアルにかけなさそう)という3つの理由です。皆様、読むなら今が一番、脂のってます。きつと。今年こそ、是非に二次ノミネートを!!

鳥取県 米子高校 美術部&マンガ研究部顧問 / 佐川 由加理

「俺様ティーチャー」椿いづみ

- あまりこういう絵の漫画は好んで読まなかったのですが、これは面白い。ニヤニヤが止まりませんでした。良い意味で変なキャラが多い気がする。「とりあえず読んでみて!!」って感じです。何も考えずに気楽に読めるから、とりあえず読めば楽しめるかと。

シンガー / 山野井 千佳

「俺はまだ本気出してないだけ」青野春秋

- これぞキング・オブ・ダメ親父。ダメ男が主人公の作品がまた流行りだしていますが、そのなかでもこの作品の主人公・シズオのダメさ加減は圧倒的すぎます。40 過ぎてバイト先で「店長(あだな)」って…切なすぎる!現実から逃げ続ける男、シズオ。失敗から学ばない男、シズオ。娘からあきらめられている男、シズオ。そんなシズオには、いつまでもそのままでいて欲しいと願います。

フルハウス八戸ノ里店 店長 / 佐藤 誠

「海獣の子供」五十嵐大介

■ 絵の力、物語の力。マンガというもののワンダーに満ちている。

ダ・ヴィンチ編集部 / 関口 靖彦

■ トータルの芸術性の高さがハンパなくカッコイイ作品だと思います。

PENICILLIN(vo)/HAKUEI

「回転銀河」海野つなみ

■ 連載7年に及ぶ長期シリーズだが、最新6巻が昨年出たので、この賞の資格ありと気づいて一票を投じます。一見絵が素朴なので取っつきにくいですが、この連作で描かれる恋愛タペストリはきわめて複雑で奥深い。主役と脇役がくるくる入れ替わる構成も素晴らしいし、とくに双子の天野兄弟をめぐるエピソードの数々は秀逸。地味だけれど、折にふれ読み返したくなる不思議な作品。

中央公論新社 雑誌 書籍編集局次長 / 石田 汗太

「架カル空ノ音」吟鳥子

■ 滅びに向かう美しい種族・鳥人間たち。運命に立ち向かう彼らの姿は、じんと胸を打ちます。せつないけれど、かすかな希望を感じさせる読後感もいいんですよね。こういう作品と出会うと、「ああ、マンガっていいなあ…」と感じますね。

おたく史研究 腐男子 / 吉本 たいまつ

「影の子どもたち」西島大介

■ 世界の終わりの魔法使いシリーズ完結の第三巻です。サンフェアリーアンの物語もやっと完結します。膨大な時間軸を舞台としたとてもロマンチックでスケールの大きい話。絵本のようなかわいい絵柄に、ハードな描写、無機質なタッチ。この三つは同居できなさそうなのに、見事に調和しています。そうやって描かれた時間と、空間を越えたラブストーリーは永遠を感じさせます。このマンガは多くを説明するより、是非読んで、感じてみてほしいです。

IT系企業 / 廣瀬 公将

「K A T A N A」かまたきみこ

■ 面白いから。この手の作品は評価されにくいよね〜。

書店員 啓文堂書店吉祥寺店 / 山川 美香

「COPPERS」オノ ナツメ

■ オノ・ナツメの作品群の中では一番好きなシリーズです。

コミティア実行委員会代表 / 中村 公彦

「鞆図書館」芳崎せいむ

■ 素敵な鞆。物語と本の話が奥行きを持って、の部分に興奮しています。

ブックファースト / 林 香公子

「我間乱〜 GAMARAN 〜」中丸洋介

■ 今回の一押しは「弱虫ペダル」だと心に決めていたのに、12月に9巻を出すという秋田書店の暴挙(?)によって水泡に帰した。悔しいので、「少年マガジン」で目下「はじめの一步」よりアツい本作を推す。架空の藩で、跡目相続と「最強の流派」を決めるために繰り広げられる凄絶なるバトルロワイアル。「グラップラー刃牙」の時代劇版といえばそうなのだが、新人とは思えぬほどこなれた物語運びと次回へのヒキが素晴らしい。秘技の数々にも妙な説得力がある。未来の大器だと思います。

中央公論新社 雑誌・書籍編集局次長 / 石田 汗太

「かよちゃんの荷物」 雁須磨子

- 所謂アラサー女子であるかよちゃん (30) のゆる〜い日常をてれ〜んと描いた作品です。でも！他のアラサー漫画の主人公達と違って、かよちゃんは頑張らないし、焦らないし、恋愛なんてどこ吹く風。それってどうなの？って感じですが、そんなかよちゃんって実は一番実際のアラサー女子に近いんじゃないでしょうか。なんだか焦るお年頃的女子たちに読んでもらいたい一冊です。肩の力、抜けます。

元書店員 (三省堂書店経済産業省売店勤務) / 畑中 瀬路奈

「からん」 木村紺

- 古都、京都を舞台に繰り広げられる本格「女子」柔道物語。シリアスなはずの場面で、テンポよいギャグの挿入は必笑！ストーリーの裏に蠢く伏線の見え隠れも興味深い。おすすめです。

本と文具ツモリ / 津守 晋祐

「河内遙時代短編集 チルヒ」 河内遙

- おそらくは江戸の市井に生きる人々の、苛烈で哀切に溢れたたかで強靱な生き様が描かれた短編たちが寄せられた作品集。夏の遊郭に雨宿りに入った男が経験する不思議な出来事などもあり、科学だ何だといっってくっきりと現実と不可思議を分けてしまっている現代とは違い、限界と異界が背中合わせにあった時代の面白さを感じさせてくれたりもする。冒頭に収録の表題作「チルヒ」には、遊女といより夜鷹に近い身の女と、若い髪結いの男という、決して添い遂げられることのない2人の残酷な間柄や、弱い立場にありながらも、それを糧につなげなくては食べていけない女の悲哀が描かれ、格差社会と呼ばれる今と代わらない、むしろ命の重さでははるかに軽く見積もられていた、江戸の昔の弱者たちの生き様が浮かんで心を揺らす。

書評家 / タニグチリウイチ

「キーチVS」 新井秀樹

- 読むたびに後頭部を不意に殴られたような衝撃を覚える。新井英樹は誰のために何のためにマンガを描いているのか。終わりのない戦いに最後まで付き合いたいと心から思う。

サブカル研究 / 荒川 澄

「きのう何食べた？」 よしながふみ

- 性的な意味で全然ないところが受けてる理由だと思う。レシピが麵つゆつかったりサッポロ一番とか実用的なのも素晴らしい。

クリエイティブディレクター / NORISHIROCKS(hide2)

- 月一連載のせいか、3年前からやっぱりノミネート。食漫(食いもの系の漫画を勝手によんでおります)はやっぱり趣味としてひとつは入れておきたいのですが、最後の最後まで極道めしと迷った。しかし、マンタイを通してはじめてよしながふみをちゃんと読み始める機会をもらったその偉大なクリエイティブに敬意を払って、そして、やっぱり、この雰囲気好きなんだな。入れてしまいましたよ。一票。今年もあがってくるかな？なんか貴重な一票を過去ノミネート作品に振るのはもしかしたら、新しい作品の発見という趣旨からは大きく外れてしまう。とおもいながら、やっぱりこいつを読んでもらいたいのです。一家に一冊、あっても誰も困らない。そして時折読むといいですわい。

フリープロデューサー / 小林 智之

「ぎんぎつね」落合さより

- 田舎の集落は、集落の中心の高台に神社があって、その近くに学校。で、ちょっとはなれたところにお寺って形が多いのですが、この物語はそんな日本の田舎の神社のお稲荷さんと巫女さんのお話です。この設定だけ見るとなにやらどたばたコメディのような感じに思えますが、お稲荷さんと巫女さんが協力して困っている人を助けるという心温まるお話になっています。それだけだったら、ありふれた物語なのですが、この物語の最大の魅力は日本の田舎の書き方がとっても美しい！神社の境内から街を見下ろすシーンがよく出てくるのですが、見とれてしまうぐらい綺麗なのです。田舎を良くわかってらっしゃる感じです。写真に撮りたいですね。神社の境内も神が住む処といった雰囲気が良くできてますし、雰囲気が素晴らしいです。

IT系企業 / 廣瀬 公将

「CLOTH ROAD」OKAMA 倉田 英之

- 「服」を武器にしたトップモデルたちの闘いが美しくカッコいい！

ブロガー / サイトウ マサトク

「クロとマルコ」堀骨碎三

- 「あの」堀骨碎三先生の一般向け初単行本。もう、ほんとにSFかわいい。もっともっと活躍の場を広げてほしい！

ライター / 会田 洋

「ケーキを買いに」河内遥

- 実はこの数年間、河内先生の単行本の発売を大変楽しみにして生きてきたので、2009年4冊同時発売のニュースにこっそり小躍りしておりました。その中からこちらの一冊。馬鹿みたいに食欲な男子と女子のオンパレード。いやあ、いいよね、自分に正直になりたいよね的な欲望を叶えてくださいました。すてきです。洋菓子とエロスの一体感が楽しめる稀有な作品。2010年期待してます！

オリオン書房 ルミネ店 / 池本 美和

「月光条例」藤田和日郎

- 藤田和日郎の作品は全巻持ってるんです。そうなの、「うしとら」もそうだし「からくり」も長く続けば続くほど本紙サンデーでは後ろにされがちなんだけど、藤田和日郎の作品は連載ではなく、コミックで一気に読むから楽しいんだよ。それ以外の方法は、だめ。去年までは入れるか入れまいか、ファンとしてもぐらついていたのです。きっかけは3、4巻のシンデレラ篇から。ブワッと血が熱くなる。もうドストレートにみっともないまでに感情ぶつけてく藤田節がようやくエンジンあつたまってきた、そうか、なんだ、藤田はおとぎ話にケンカを売りにきたんだ。と納得したら、もう、その先が気になってしょうがない。だから自分は相変わらずコミック派で一気に読み。できれば他の人にもその読み方で読んでもらいたいのです。

フリープロデューサー / 小林 智之

「外天の夏」佐木先生

- 敗北。失敗。挫折。破綻。突然の打ち切り。なにが起きてもおかしくない。この真逆の世界。ただ、わかるのはそれが事実だということのみ。だけど胸の希望を絶やすことはない。物語は終わってなんかいない。「無力でも手が届くものはすべて守りたかった。何もしない自分は赦せなかった」なにひとつ間違っただけじゃない。たとえ甘すぎる夢想でも夢をみないよりはマシだ。失敗しろ！何回でも立ち上がれ！オレだけは期待することを決してやめない。

文筆業 / 海猫沢 めろん

「珈琲時間」豊田徹也

- 珈琲をモチーフにしたショートムービーを見ているような短編集。所々登場人物がリンクしているのも楽しい。珈琲を飲んだ後の余韻を楽しむように、結末は読んだ人に委ねる作品も幾つかあり味わい深い。

啓文堂書店府中店 / 山本 仁美

- 良質な映画を見たような読後感！！やはり良い！待ってたかいあります。

あゆみ books 小石川店 / 土屋 修一

- 前作「アンダーカレント」から実に4年ぶりの新作。日常の1場面を切り取ったかのようなショートストーリーの連作作品。1作のページ数は少ないのに、読んでみると、ゆったりとした時間を感じる。忙しい生活の中のちょっとした息抜きのゆったりとした時間。それがあふれている。そのままオムニバス映画にできそうな、完成度の高い作品です。

ジュンク堂書店新宿店 コミック担当 / 小磯 洋

「コーヒーもう一杯」山川直人

- コーヒーって飲むとなぜかほっと一息つける不思議な飲み物ですよね。この物語は、コーヒーを軸にした小さなお話の集まりです。街の片隅に転がっているような、普通の人の、普通の話がたくさん詰まっています。内容は様々。心温まるものから、ちょっと切ないもの。ちょっと怖いものまで様々。こういった話は心温まる話でまとめられることが多いのですが、この漫画は実際の人生のようにいい話や、そうでない話、何でもない話にあふれています。まるで楽しいことだけではない人生の縮図のよう。この話の中では必ずコーヒーを飲む場面が出てくるのですが、その場面は”人生いろいろあるけど、コーヒーでも飲んで頑張って歩いていこうよ”と語りかけているように感じます。寒い夜、ふと寂しくなったときに読みたくなる本です。内容とは関係ないですが、山川さんが書く星が好きです。星型してるんですよね。それがまたなんとも優しい感じで大好きです。

IT系企業 / 廣瀬 公将

「刻刻」堀尾省太

- 2巻水木しげる先生の帯コメントにひかれて読みはじめましたが、あっという間に引き込まれました。現実に現れる非現実がとても現実的に描かれています。久しぶりにマンガらしいマンガに出会えたと思わせる作品に出会えました。ありがとうございます水木先生。

音楽プロダクションマネージャー / 樋口 健

- 時間を止めたり時間の止まった世界「止界」で動き回ることのできる佐河家と、同じく止界で動き回り一家と時間を止めるための石(?)を付け狙う謎の宗教団体が繰り広げるSFなサスペンスなお話。とにかくこの「止界」の設定がスゴいし、止界で殺生をしようとする者達を抹殺する守護者的な化物の存在もビジュアルもめちゃくちゃ怖いし、絵柄のせいか出てくる登場人物達（主に謎の宗教団体）みんながなんか怖いんですよ、特に眼が。かといって鬱々とした感じではなく、主役(?)の佐河家の人たちのキャラクターのせいか暗すぎない内容になっていて一気に読めてしまう不思議な雰囲気を持つ漫画です。例えがおかしいかもですが、普段漫画をあまり読まない父親や職場の歳の離れた上司におすすめしたくなる漫画です。

ミュージシャン / TA-SHI

「極道めし」土山しげる

- ムショの中での食い物の思い出話がなぜこんなにそそられるのか？非日常で限定された場所での食い物漫画という新ジャンルか？自衛隊とかの話も書いて欲しいなあ。

クリエイティブディレクター / NORISHIROCKS(hide2)

「午前三時の無法地帯」ねむようこ

- 働きマンが剛の働く女性マンガとしたら、こちらは柔の働く女性マンガです。デザイン会社に勤める主人公の仕事と恋愛の話です。甘くない現実を実感しながら、恋に仕事に頑張る女性の成長物語をやわらかく女性らしく紡いでいます。働きながら恋愛するというのはとても大変なことです。どちらか一方だけでもまともにやるとはとっても難しいことなのに。でも、もがきながらも諦めずに頑張れば何らかの結果は出るんだとそういうことを思い出させてくれるマンガです。恋に、仕事に、女性であることに日々頑張っている働く女性に是非読んでもらいたいマンガです。

IT系企業 / 廣瀬 公将

- 忙しさや女性の時間のない職場での気持ちの変化に共感できた。そして絵が可愛い！！

フリーカメラマン / 平沼 久奈

- 個人的には、ずっと読んでいた作品に面白い物が多かった一年でしたが、初めて読んだ中から一冊選べば、こちらでした。

コミティア実行委員会代表 / 中村 公彦

「コッペリオン」井上智徳

- 湾岸の巨大原発がメルトダウンを起こし、無人の死の街となった未来の東京を舞台に展開するノンストップSF。ヤングマガジン連載ですが、今どき珍しいスケールの大きな世界観の中で、青年（むしろ少年？）漫画らしい荒唐無稽な大ぼら話が超スピードで駆け抜けて爽快。陸自の特殊部隊として人命救助のため東京に送り込まれたのが、遺伝子操作で放射能に対する抗体を持った女子高生たちで、なぜかミニスカ制服を着ていたり、男の子向けマンガらしいサービス満点（笑）ぶりも嫌味がない感じです。科学的な考証とか細部のつじつまとか野暮なことは言わず、ここは単行本既刊6巻のイッキ読みでぜひ。

日本経済新聞社 編集委員 / 天野 賢一

「この世界の片隅に」こうの史代

- 随所にひっそりと仕掛けられていた伏線の回収が見事すぎて、何度も息を飲みました。特に下巻の表紙の仕掛けに気付いた時には、言葉を失うほどの衝撃がありました。こうのさんの他の作品にも言えることですが、ユーモア部分とシリアス部分の配分が絶妙です。戦争という重いテーマを扱っているのに、出てくる人々の温かさで読み手を置いてけぼりにせず最後までしっかり読ませてくれます。

伊吉書院 類家店 / 中村 深雪

- これだけのものを背負ってこれだけのものを注ぎ込んで、いつもユーモアを絶やさずしなやかに描ききった胆力に感嘆するほかありません。

朝日新聞記者 / 小原 篤

- 戦時下の呉に生きた市井の人々の姿を描く。こうの史代の描く物語は一見穏やかでありながら、どうしてこんなにも凄絶なのか。漫画表現として大変な地点に到達している気がする。

書評系ブログ「yama-gat site」管理人 / yama-gat

- 何も特別な事ではないように感じる毎日の生活や家族を急に愛おしく思いました。「おしまい」ではなく「つづく」で締めくくられるような、昔そんな時があったようなお話を、たくさんの人に手にとって欲しいです。

教師 / 持丸 宏司

- 息詰まるような凄い作品でした。

コミティア実行委員会代表 / 中村 公彦

「坂道のアポロン」小玉ユキ

- 薫と千太郎。ホントに『不器用』なやつら！でも愛すべき存在です。当初は千太郎の圧倒的な強さが目立っていたが、徐々に薫のしたたかな強さが千太郎のそれをスポイルしていく展開はまさにJ A Z Z！人生はアドリブ。何が起こるか分からない。何がきっかけとなるか分からない。だから面白い！そんなことを感じさせる作品です。ちなみに彼らのメインテーマがアート・ブレイキー&ジャズメッセンジャーズの『モーニン』なのも好きな理由のひとつです。

芳進堂ラムラ店・コミック担当 / 川崎 一利

- 携帯電話ってのが無い時代。音楽ってものが変わり始めた頃。自分の子供たちにもこういう時代を経験させてあげたいと思っていましたが、それはなかなか難しい話。坂道のアポロンで経験させてあげたいなと思っています。

音楽プロダクションマネージャー / 樋口 健

- 甘く切なくてそして暖かい 時には苦しくて胸が張り裂けそうになる でも全てをやさしく包んでくれる「坂道のアポロン」「坂道のアポロン」を夢中で読んでいるとアート・ブレイキーにチェット・ベイカー、ジョン・コルトレーンが奏でるジャズが聴こえてくるようだ そしてあたかもこのストーリーが自分の目の前で展開されているような錯覚に落ち入る程のめり込んでしまう

HMV リバーウォーク北九州 チームリーダー / 阿部 大介

「サマヨイザクラ」郷田マモラ

- 今年ははじめっから最後の一冊は「裁判員制度モノ」と固く決めていて、迷った結果、これにしました。きっかけは「ジキルとハイドと裁判員」を読んだとき。あきらかに2009年を意識してこのタイミングで満を持して出てきたものにも関わらずとにかくすごい量の勉強というか資料をほかの裁判員モノの作家さんもしている。例えば、「裁判長！ここは懲役4年でどうすか？」のボリュームたるや壮絶なもので、9巻超えてなかったら、きっこっちを選んでいたと思います。さて、その中でジキルとサマヨイは本と最後まで迷ったのですが、ジキルは来年もある可能性が大なのと、やっぱりマモラ先生はさすがの大御所的な余裕？いやどちらかというとも2巻で完結させるために余計なものを一切そぎ落としたことで、より潔くざくっと届いたと感じたので一票。もう今年はサマヨイザクラをえらばせてもらいました。来年だったらジキルもサマヨイザクラを超える予感があります。

フリープロデューサー / 小林 智之

「さよなら群青」さそうあきら

- 15年前に起きた「事件」をきっかけにヨソ者を排し、独自の習俗を守って暮らしてきた漁民の島にある日、ひとりの男の死体とまっすぐな瞳の少年を乗せた小船が漂着する。民俗学っぽい意匠たっぷりの設定（冒頭、死体がしゃべるし）だが、そこはさそうあきら、絶妙な小エピソードを積み重ねることで、2010年の日本の「あそこらへんの地域」に今、展開している実話、といわれても納得の現代的リアリティーたっぷりの物語世界に仕立てている。少年グンを異物として遠巻きにする島の大人たちと、高校を卒業したばかりの海女の岬、小学生のみみなど先入観なくグンの秘められた力？に魅せられていく未成年との対比が際立ち、どこかに禍々しい空気をにおわせつつも奇妙に清々しい青春ものの趣。加えて年齢的には成人であっても子供の聖性を残す、島の濃厚なコミュニティからはみ出した者たちが存在感を発揮し、物語に奥行きを与えています。1巻ではまだ主要な登場人物の顔見せ的なエピソードに終始していますが、先々の大きな物語のうねりが予想されます。「神童」「コドモのコドモ」「俺たちに明日はないッス」に続き映画化必至では。

日本経済新聞社 編集委員 / 天野 賢一

「3月のライオン」羽海野チカ

- ほんわか人情話、渋いオヤジ連に加え、ドロドロ恋愛も？ 目が離せません。あとネコがかわいい。

朝日新聞記者 / 小原 篤

- このマンガは本当に胸が締め付けられたりキュンとしたりほっとしたり優しい気持ちになったりです。若き将棋のプロ零君の心の中のポッカリと空いた深い穴。深かったり浅かったりしる誰でも持っている心の穴に凄く響くマンガだと思う。あと、余談で申し訳ないのですが羽海野先生にネコマンガ描いてほしいです！

フリーカメラマン / 平沼 久奈

- 登場人物の心の中が回をます毎に複雑に絡み合ったり、変化したりと、その心理描写と話の展開が私を飽きさせないマンガ。そして、何より猫がとんでもなくかわいい。あの、フクフクとした猫たちは毎度、私の心をくすぐります。

DJ/DJ RANUMA

- いよいよ、零くんが、始動！とにかく、棋士たちが、揃いも揃って、かっっっこいい。子供から老人までこんなに素敵に描けるなんて、すばらしい。お話もいよいよ本格的に勝負の世界へ。将棋、ぜんぜん詳しくないんですが、関係ないね。ねこちゃんが教えてくれるの、にゃ。

料理研究家 / 福田 里香

- 少女マンガで、将棋マンガで、少年マンガで、川マンガ。登場人物ひとりひとりが、どこまでも丁寧に生きている。だから、彼ら彼女らの言葉には、大 きすぎない人生の真実ばかりがある。例えば「達成感には、もれなくめんどくささが着いてくる」などなど。2009 年は 1 冊しか単行本が出なかったのも、ものすごく骨太な物語が、静かにうねり始めたところ。どこまでも「もっと読みたい！」って気持ちでつきあえるのは、今、ですよ！

ニッポン放送アナウンサー / 吉田 尚記

- 相変わらず面白い。青臭さと、孤独、嫉妬、成長。きちんと丁寧に描いています。

Juvenile. 音楽家 / 児嶋 亮介

「四稲家の人々」志 画 伯

- まだ荒削りな部分もありますが、これからの学園ドタバタコメディを牽引する潜在能力もあるのではあいかと、期待も込めて推薦します。主君、忍者などなどありますが、キャラクターが分かり易く覚え易いのも良いですね。良い意味で大味だから面白いのかもしれない。

まんが王八王子店 / 日吉 雄

「屍鬼」小野不由美 藤崎 竜

- 『封神演義』だいきらいな自分がおもわず一番最初に候補にあげてしまった。藤崎氏の絵があるかぎり、そのデザインと素敵で世界観に魅せられた屍鬼のごとき濃いファンの方々が、今期、アニメ化するそうなので、さらに倍倍でどん！ってイキオイで増える前に、ぜひぜひ読んでもらいたいです。藤崎先生の好きなパンク・ファッション&ゴシック・ロリータはさらに和風ほらーに実に合う。ネタばれになってしまふといけなくて、(誰がいつ、この評を読むかわかったものではないので) 内容には触れないのですが、とにかく登場人物が軽く150を越す大所帯の作品のため、覚え切れない。原作の小説だと「頭わるいと読めないんじゃないのか？」とせっかくの面白さも、伝わらない可能性の高い超絶的作品だったのですが、それをさらに租借噛み砕いた上に、藤崎流の悪い癖、若い子のハートをがっちりなさない絵とストーリーテリング。「こっち側」「あっち側」のものすごい葛藤と追加でどん！中高生にありがちな若くて、「ああ、むかつく！」と思う青臭い部分の心情変化オブションが、こういうの個人的嫌いなのに、楽しい。ホラーなのにヒューマンドラマだよ！藤崎対小野！コラボではなく才能同士のぶつかり合い、油断しない、ひかない、そんな怖さをじわじわと感じれるところが2度3度読み返しても面白い作品だと自分個人はべた褒めしてしまうのです。

フリープロデューサー / 小林 智之

「シスタージェネレーター」 沙村 広明

- シュールギャグ・シリアス・冒険活劇…と沙村広明の集大成とも言える短編集です。中でも「制服は脱げない」という連作は、シュール系ギャグと世俗批判が入り混じって、何とも言えない「あー沙村これ楽しんで描いたんだろうな」感がある作品となっております。また、「ブリギットの晩餐」のラストシーンは近年稀に見る、美しいラストであろう、と断言します。

元書店員（三省堂書店経済産業省売店勤務）/ 畑中 瀬路奈

- 「無限の住人」で有名な沙村広明の短編集。谷崎潤一郎の「瘋癲老人日記」を彷彿とさせる「久誓院家最大のショウ」が一番だな。それにしても脚フェチか…。相変わらず倒錯してるなあ、ほんとに。その次が「ブリギットの晩餐」かな。拾われた少女がある屋敷に連れてこられて…、というような話。この人の描く女の人が見せる決意を含んだ挑むような目つきが大好き。

米子高校 司書 / 野間 勤

「失恋ショコラティエ」 水城 せとな

- 登場人物の誰にも共感できないのに面白い。

公務員 / 東くるみ

- 誰かに尽くすことがその人の一番になることと＝ではないという事を教えてくれる

(株)成田本店とわだ店 主査 / 安田 幸

- 1巻の出来がそのまま2巻につながった！人と人の距離感のもどかしい具合がリアルなのだ。女性向けだけど、男性が読んだ方が絶対面白い。

サブカル研究 / 荒川 澄

- 少女漫画の皮をものすごく完璧にかぶってて、いや実際中身も少女漫画ですが、この漫画、ちょっといじわるすぎるでしょうよ！！夢を与えるのとぶっこわすのとを同時にじゃんじゃんやってるみたいな少女漫画。著者はいじわるを描いてる、のじゃなくて、そういうものの見方になっちゃう人なんだと思う（ほめてます）。人の気持ちを描く精度がすごく高い。非常に厳密な漫画だと思う。

漫画ライター / 門倉 紫麻

- きっかけはチョコレート！！チョコ好きの彼女にふられた悔しさから単身バリへ行って、有名ショコラティエとなって戻ってくる主人公。ぶっとんだ思考と思い切った行動がおもしろすぎる。そして、恋愛がからむと人はこんなにも意地悪でいやらしくなるんだ！とリアルに感じさせる表現の上手さにやられた！！

三省堂書店 神保町本店 / 赤坂 真実

「シマシマ」 山崎 紗也夏

- 主人公・シオさんの優柔不断さって、30を超えるとなんかわかるし、許せる気がするんです。僕は男ですが。

Amazon.co.jp Books エディター / 原田 圭

「シュトヘル」 伊藤 悠

- 古代中国を舞台に、滅亡した文明と文化をモチーフとした重厚な大河口マンながらも、スピーディーなアクションも存分に楽しませくれる作品。壮大さと話のスケール感を見せつつ、ここまでしっかり娯楽アクションとしても成り立つ作品はそう無い。

ひょうたん書店 西田本店 / 筒口 征洋

- 13世紀初頭、現在の中国北西部にあった西夏国の女戦士・シュトヘルと、西夏国と敵対するモンゴル軍に与する、ツォグ族の王子・ユルールとの出会いで動き出す、壮大な戦いを描いた伝奇作品。物語はまだ序盤ですが、戦乱の時代を生きる戦士たちの生き死にの描写に、思わず息を飲むくらい惹き込まれます。

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 / 豊島 さやか

- 悪霊と呼ばれ恐れられる女戦士シュトヘルと、敵国である西夏の文字を守る為に一族を捨てたモンゴルの皇子ユルール。敵同士である二人が一緒に行動していく過程で明かされる過去。ユルールが守ろうとしている文字によって死に逝く存在を忘れずにいられる事を知った時のシュトヘルの感情に大きく心を揺さ振られた。

啓文堂書店 府中店 / 山本 仁美

- 決してわかりやすい話と絵ではないけど、「本」を愛する人ならば読まなければならない 1 冊だと思う。不本意な形で終わった「皇国の守護者」の答えを、作者は今作でだそうとしてるのではないだろうか。『殺すとか壊すとかじゃなくて、伝えるとかつなぐとかそういう生き方だってあるはずだ』これは、「皇国～」の主人公新城が「できなかったこと」。したくてもできなくて、できなくて苦しくて。この生き方を、力がすべての物差しである「戦乱の世」でおこなおうとする主人公。それは暴力とは異なる形の強さ。そしてそれが本の力であるということ。シュトヘルと王子の関係にも目が離せず、示唆の多い作品。

あゆみブックス五反田店 / 佐藤 歩

「将国のアルタイル」カトウコトノ

- 王道、って今回なんとなく自分のなかでキーワードなんですけど、そんな感じの架空戦記もの。アルスラーン戦記より展開が速く、皇国の守護者よりちゃんと続きそう、ということでその辺の渇きに耐えられない人にぜひすすめてみたいマンガです。ただ絵柄は少女マンガとして王道を行く感じなので好き嫌いはあるかも。スケール感のある美麗なタッチで個人的には好きですが。

ヴィレッジヴァンガード町田 店長 / 大山 敏樹

「少女少年学級団」藤村真理

- 小学生には小学生なりのいろいろがあったんだっといういえば、を思い出させてくれた作品。さいしょはみんなまっすぐなんだけど、どこかでまちがえちゃったりやんだりしっとしたりその他もろもろ、でもそれを乗り越えていかなきゃいけないんだっていうのを知ったのも、多分この時期だったなあと遠い目をしてみたり。「こども」を美化しすぎないところが、すごくいいと思います。今後に大期待！

オリオン書房 ルミネ店 / 池本 美和

「少女ファイト」日本橋 ヨヲコ

- 作中から伝わってくる熱いメッセージが多すぎて、そして素敵すぎて、もうどこをピックアップしてオススメしていいのかわかりません。ページの隅から隅まですべてが心に突き刺さり、そして自分が動くためのパワーになる、そういう作品だと思います。

伊吉書院 類家店 / 中村 深雪

- 日本橋ヨヲコの評価はこれまで不当に低かった気がするが、この作品でファンを増やせたのではないかな？この作品を機に過去の作品を最初から読み返したくなる。

サブカル研究 / 荒川 澄

- 胸に響く一言一言に、励まされ、熱くなり、力が湧いてきます。このにぎやかな世界の登場人物達がとっても素敵です。

教師 / 持丸 宏司

- ひとりひとりの人物造形をほんとうに細かく練り上げて、それを物語に結実させている。単純なスポ根ではない、稀有なバレーマンガ。

ブロガー / サイトウ マサトク

- 女子高バレーの決定版。登場人物それぞれの悩みとそれに立ち向かう姿を丁寧に描きます。「自分だけがつらいわけじゃない」「悩みは人それぞれ」「努力はいろんな形で報われる」そんなことをしっかり示してくれて、元気をもらえるいい漫画です。

眼鏡時空主宰 / 田中 海渡

- 驚異の「成長」マンガ！高校バレーを通して、1 ページごとにキャラクターの誰かが成長してゆく。どのページを見ても、「めきめき」って成長音が聞こえてきそうなぐらい。その成長も、バレーボール的なことはもちろん、人格が成長してゆかって、こういう事だよなー、ってことをリアルに見せてくれる。で、そういう成長を見ているのは、とてつもなく気持ちがいいです。あと、毎回単行本のおまけ企画がすばらしいです。twitter と来たとは……！

ニッポン放送アナウンサー / 吉田 尚記

「しろくまカフェ」ヒガアロハ

- 登場人物がデフォルメされてなく、リアルなのにかわいい。2巻では、しろくま君とグリズリー君の幼少時代が描かれていて、萌えました（笑）

SHIBUYA TSUTAYA / 実松 由夏

「真机上の九龍」青木 朋

- 「机上の九龍」から何年たっただろう。続きが出るとは思っていなかったのもとても嬉しい。

福家書店福岡店 販売係長 / 日高 礼子

「新ゲノム」古賀亮一

- イーッヒッヒ！このマンガをバカにするぼうやのおちんちんをカスタネットでゆるりとつまんでイーッヒッヒヒ！！

文筆業 / 海猫沢 めろん

「深夜食堂」安倍夜郎

- 食べ物の絵全然うまそうじゃないのに、読んでるとだんだんうまそうに見えるというのが凄いよ。

クリエイティブディレクター / NORISHIROCKS(hide2)

- 去年は、惜しくも4位。TVドラマの放送も好調だったみたいなので、新しい読者も増えたと思いますが、それでも今回も一年間楽しく読ませてもらった「深夜食堂」を推薦します。漫画の中に流れているやさしい空気に触れると心が満たされます。そんな深夜食堂に仕事の帰りに寄ってみたいものです。韓国では、若い女性に大人気です。韓国の若い女性も、世知辛い世の中、こんな空間を望んでいるのかもしれませんが。

COMICCOZZLE(韓国) 店長 / 野田 真人

- 巻を増すごとに深みを増し、噛めば噛むほど味が出る漫画の代表格になりつつあると思います。次はどんなメニューで、そのメニューにはどんな物語があるのだろうと毎回楽しみに読んでいます。

伊吉書院 類家店 / 中村 深雪

「数学ガール」結城 浩 日坂水柯

- 「数学」というあるとつぎにくい哲学をやわらかくその本質へ導く原作のコミカライズ。数学版「ソフィーの世界」といってもいいのかもしれない。ほのかな恋心も織り込みながら、若者の知的探究心をくすぐる（年寄りには思い出させる）良書。

眼鏡時空主宰 / 田中 海渡

「スコペロ」カサハラテツロー

- 近未来のスペースコロニーを舞台に、無重力スポーツ「カプセルボール」に青春をかける少女たち……でもって、物語構造は漱石の「坊っちゃん」という二重三重の怪作。しかしこれがまた、科学考証もがっちり行き届いて、ディテールがいちいちただ事ではない。真価を問うにはまだ早いかもしれないが、SFマンガ好きにはぜひ一度ご賞味いただきたい。

中央公論新社 雑誌・書籍編集局次長 / 石田 汗太

「鈴木先生」武富健治

- なんかすごい。

PENICILLIN(vo)/HAKUEI

「青春攻略本」あきづき空太

■ 青春です。爽やかです。青臭いです。こういう漫画、好きです。

シンガー / 山野井 千佳

「聖☆おにいさん」中村光

■ ゆるい空気、続行中。面白さ、キープ！イエスのお父さんの、鳩の姿でクールに言い放つ、『滅びよ』最高！

バイオリニスト / 佐藤 帆乃佳

■ 去年もエントリーしたけど、今年は巻数も増えて、周囲に勧める回数が増えました。できれば、ふたりのパカンスが永遠に続くことを切望しています。

株式会社ネビュラプロジェクト プロモーション・ディヴィジョン / 小森 和博

■ 仏教の祖ブッダとキリスト教の祖イエス・キリストが現代日本の立川で暮らしたら？ぬるま湯生活が上品なコメディとして描かれる。二人ともちっちゃな煩惱に苦悩し（ネットゲームにはまるイエス、秋葉原で炊飯器選びにこだわるブッダ…）、お笑いユニット「パンチとロン毛」でM-1を目指し、クリスマス、盆踊り、バレンタイン等のイベントにどっぷりつかったり。当初は、「下界で休暇中」だったはずだが、いまや普通に日常を暮らす仲良し二人組みだ。副読本は手塚治虫『ブッダ』。

国分寺市議会議員 / 三葛 敦志

「世界に羽ばたけ轟先生！」神原則夫

■ 2009 年は政権交代があったが、「轟先生みたいな政治家がいれば……！」としみじみ思った。こんな男に日本を託してみたい。

ライター / 芝田 隆広

「背伸びして情熱」仙石寛子

■ リリカルな創作同人の作風そのままに、ついに商業単行本デビューを果たした仙石寛子。既存の4コマを大胆に逸脱しながらも、4コマという形式を活かしたその演出技法。現在の4コマの豊かさを示す代表作のひとつだと思います。

ライター / 会田 洋

「戦国妖狐」水上悟志

■ 『惑星のさみだれ』よりももっとストレートに人間賛歌を謳った戦国冒険ファンタジーマンガ。必見。マッグガーデンさんはもっと重版するべき。そして芳文社さんは『お悩みエンジェル相談所』を絶版にしたのを取り消すべき！

信長書店四条河原町店 アルバイト / 中村 誠亨

「センセイの鞆」谷口ジロー

■ 谷口ジローは、おっさんだけが楽しめる漫画家じゃない！とくにアラサー（古い？）女子必読の作品。読んでみると、偏屈でこだわりやの『先生』になぜかひかれてしまう。時代は枯れ専なわけです。年をとると、かえって心はピュアになるのです。食いもんがおいしそうなのもまた魅力。おっさんとアラサー女子の心は、お酒とおいしい食べ物でつながっています。と、内容はもちろん装丁も素晴らしいので部屋に飾りたい1冊。

三省堂書店 神保町本店 / 赤坂 真実

「前夜祭」小田扉

■ 小田扉は何かの賞を受けるべきだと思うのだが、『団地ともお』はもうマンガ大賞の対象外だし……ということで。本作もすばらしかった。

ダ・ヴィンチ編集部 / 関口 靖彦

「俎上の鯉は二度跳ねる」水城せとな

- この作品の心理描写は凄いと思います。BLで一位を取りましたが、一般女子にも読んで欲しいです。

書店員 啓文堂書店吉祥寺店 / 山川 美香

- いわゆるBLコミックだが、単にBLと括るのはあまりにも惜しい。ゲイとノンケの男同士の恋慕を描きながら、そこにあらわされているのは他者と他者が想い合うという事について。「窮鼠はチーズの夢を見る」と2冊分の“愛するということ”への答え、展開の末にたどり着くラストの一言。一見バッドエンドとも取れるその一言は、人が一緒にいることの意味に対する「回答」のひとつだと断言できる。何度読み返しても新しい発見があり、恋愛のむずかしさ、そしてそれが日常に潜むことを知る1冊。そして大変エロい1冊。

あゆみブックス五反田店 / 佐藤 歩

「それでも町は廻っている」石黒正数

- 巻を重ねる毎に、各キャラクターの内面や可愛さが増していくような気がします。作品の持つ広がり徐徐に、1話ごとに大きくなっていく、次の話を読むのがとても楽しい作品です。

会社員 / 林 礼春

- 山本夏彦が、全盛期を作らないのが長く続ける秘訣だと言っていたが、それは簡単そうに見えてなかなか難しいことだと思う。6巻という長い間、テンションが上がり過ぎることもなく下がってしまうこともなく、面白さを一定のレベルで保っているのがすごい。あちらこちらで、クスクス笑える。

米子高校 司書 / 野間 勤

「孫子異伝」星野浩宇

- 顔一面の入れ墨、膝頭を抜かれ歩けない体。中国戦国時代の斉国軍師として活躍したと言われる孫臏をモチーフとして、随所に孫子の言葉を引きつつ鮮やかにその姿を描いている。「『孫子』とは乃ち”時を超ゆる書”にございます」という孫臏のセリフ通り、孫子は今もってビジネスの最前線で通用する。いや、さすがにそりゃねーだろ、という奇策も多々あるが、読者の想像を超える展開にわくわくさせられる。

国分寺市議会議員 / 三葛 敦志

「大東京トイボックス」うめ

- 毎月続きが気になる作品です。ゲームを作りたいと言う情熱と才能。色々考えさせられる作品です。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

- 何気に3回連続投票していたりするわけですが、今回が一番本気です。単なる隙間ジャンルマンガとして十分に面白かった前作からは予想もできない王道感！理想と現実の間で揺れ動く主人公の気持ちが現実の自分と妙にシンクロして肩入れしてしまっていたのは否めないのですが、4巻で語られる重い過去と現在の迷走でまた一段階評価があがりました。「何がおもしろいのか自分でわからなくなってんじゃねえのかな」と主人公が仲間に陰で言われているところが本当にドキッとしました。俺大丈夫かな、と。こういうのがおもしろいって言ってる自分が好きなだけじゃないの～なんて黒いしっぽはやした自分が(ベタなモチーフ…)言ってるような気がしたりなんかして。30才オーバー限定で一番人にすすめるマンガでもあります。たかだか30やそこらのくせにしたり顔で借り物のビジネス論をぶつ勘違いな大人気取りよりブレブレの迷いまくり悩みまくりの主人公に全力で共感してしまう34才でした。

ヴィレッジヴァンガード町田 店長 / 大山 敏樹

- 大作で挫折し大手メーカーをドロップアウトしたゲームクリエイター。天才と、その才能にたいする様々な思惑と、そして現実。その構図は古典的かもしれないけれども、人間の「ものをつくる」という根源的な欲求にダイレクトに働きかけます。そしてそれだけの説得力を持つ作品。必読です。

眼鏡時空主宰 / 田中 海渡

- テレビゲーム世代の自分にとって、このマンガは思いっきりツボでした！ゲーム好きなクリエイターなら一度は目指した「ゲーム業界」。読んだら、必ず心が揺さぶられる「魂」がこもったマンガです！天川太陽の言葉「仕様を一部変更する」「魂は合っている」。ファミコン世代は必見！

フリーデザイナー / 平沼 寛史

「ダニー・ボーイ」島田虎之介

■ 読めばわかる！

信長書店四条河原町店 アルバイト / 中村 誠亨

「チーズの時間」花形怜 山口よしのぶ

■ チーズ蘊蓄マンガ。王道のストーリー展開なんですが引き込まれちゃいます。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

「中央モノログ線」小坂俊史

■ 中央線沿線住人という思い入れもありますが、このセンチメントの描き方は本当にスゴイと思います。個人的 09 年 No.1 です。

コミティア実行委員会代表 / 中村 公彦

「中春こまわり君」山上たつひこ

■ ベテランならではのこなれにこなれたギャグと、人生の悲哀を感じさせるギャグのマッチングが素晴らしい。

ライター / 芝田 隆広

「ちょこらん」にしがきひろゆき

「ちょっと江戸まで」津田雅美

「罪と罰 A Falsified Romance」落合尚之

■ ロシアの名作を大胆に現代日本社会に再現。ある罪を軸に物語が進み、淡々と不条理さが積み重ねられていく中、主人公は精神的にも追い詰められていく。人はなぜ罪を犯してしまうのか、一般社会と紙一重の場に、一般人の思考のすぐ後ろに、限らない闇が広がっていることを意識させられてしまう。果たしてその罪は本当に罪なのか、正しいことが正義であるとしても一体何が正義なのか。正義とはただ漠然とそこにあるものではなく、勝ち取るものなのだろう。しかし、正義と救いは別物だった。後味はよくないが、困ったことに糸を引く。

国分寺市議会議員 / 三葛 敦志

「ディーふらぐ！」春野友矢

■ 何て清々しいツッコミ !! ……な学園ギャグ漫画、だと思います。脅されて無理矢理、ゲーム部 (仮) に入部させられたヤンキー君がクセだらけの女子部員にふりまわされたりします。主人公のヤンキー君の 5 連続ツッコミは必見。この先生の漫画がもっと見たくなりました。

ミュージシャン / TA-SHI

「ディエンビエンフー」西島大介

■ あの「絵」で、あの「動き」「スピード感」と、そして「殺伐」をきわめて高品位に表現している。物語のドライブ感もすごい。ベトナム戦争異譚。

ブロガー / サイトウ マサトク

「テガミバチ」浅田弘幸

■ 目の前に起きる出来事ひとつひとつに純粹に向かう少年の姿で心が洗われる。

会社経営者 / 小野 ゆうこ

「デカワンコ」森本梢子

■ ロリータファッションに身を包んだ刑事って大丈夫なの？とこちらに思わせつつ、やっぱり大丈夫じゃなかったり、一芸があるから何とかなるか、と思うとやっぱりダメだったり、そんな一子が好きなんです。

(株)成田本店とわだ店 主査 / 安田 幸

「デボネア・ドライブ」朝倉世界一

■ 「好きなマンガ何？」と聞いて「デボネア・ドライブ」と答えられたらきっと惚れてしまう。

音楽プロダクションマネージャー / 樋口 健

■ 本当にあったんですね ロード・ムービーならぬロード・コミック このストーリーにしてこの独自の時間の流れ、そして朝倉世界一の世界観 決してスピーディな展開ではございません でも「デボネア・ドライブ」のスピード感はクセになってしまう まるでやめる事が出来ないタバコやコーヒーのようである

HMV リバーウォーク北九州 チームリーダー / 阿部 大介

「東京都北区赤羽」清野とおる

■ 大ヒット作なので、正直、マンガ大賞向きではないかもしれませんが。僕も今、東京都北区在住なのですが、行く先々の近所のコンビニに置かれているんですから、単行本が。本屋さんに行っても、ほぼ全店、平積みされていますし。間違いなく大ヒットでしょう！北区の外の状況はしりませんが。とにかく、下町と都心の中間で独自の進化を遂げた北区の現状を、ここまで克明に切り取った作品が現れるとは。絶句です。でも、この作品の北区は、現実なんです！

医師 / 岸本 倫太郎

「童話迷宮」釣巻和

■ ジェットコースター

マンガ読みが選ぶ 2009 年の一推!!

ブックファースト / 林 香公子

「凍牌」志名坂高次

■ 読んでて痛みを感じる麻雀マンガ。ギャンブルマンガはそうではなくては！

信長書店四条河原町店 アルバイト / 中村 誠亨

「となりの怪物くん」ろびこ

■ 少女マンガではここところ、ゼロ年代的というかオルタナティブな感覚を体得した新しい世代の描き手が台頭しているように思いますが、「デザート」連載中のこの作品の作者、ろびこは中でもマスの読者を獲得できる実力を持った作家だと思います。初期の読み切りで顕著だったデザイン処理されたスタイリッシュで流麗な絵柄（単行本1冊めからスゴクうまい！）と、丁寧に繊細にじっくりと描き込むリアルな心理描写は今作ではやや（意図的？）薄まり、学園ものの連載作品らしく、設定のうまさやキャラクターの強さとギャグの要素で読ませるノウハウを確立している。ガリ勉の上に私服がすごくダサイ主人公女子って意外になかったような気がします。現在2巻、以下続刊のオムニバスでせつない感じの「ひみこい」と両輪で読みたい。

日本経済新聞社 編集委員 / 天野 賢一

■ ハルのストレートな気持ちに、戸惑う雫。徐々に人間関係など、気持ちの変化を見せる彼女に、ひかれます。
SHIBUYA TSUTAYA / 実松 由夏

■ 薦める相手を選ばないタイトルではありますが、実は「何がおもしろいの？」と言われると、なかなか説明が難しい作品でもあります。だけど好き。登場人物たちがひねくれつつもまっすぐなのが良いのかもしれない。

ジュンク堂書店 池袋本店 / 田中 香織

「とめはねっ！ー鈴里高校書道部ー」河合克敏

■ なんでしょう？この人にしか描けない、「日常のテンション」というか。青くて淡々としていて、ムズムズする感じ。恋愛中心ではないのにその空気を描けるのは凄い。

Juvenile. 音楽家 / 児嶋 亮介

■ よんだら書道やりたくなるし、書の見方もわかって楽しめるようになるし、高校生たちの部活青春モノとしてもよめるし、やっぱりすごく面白い！どの世代の方にもオススメできるし、もっともっとたくさんの方々によんでいただきたいです！

恵文社バンビオ店 文芸書・文庫担当 / 大瀧 彩子

■ シンプルにまっすぐに。主人公の望月さんの「負けたくない」思いがビシビシ伝わってきます。「書の甲子園」に向けてこれからますます熱く盛り上がって行きそうです。

アバンティブックスセンター京都店 コミック担当 / 中村 真依子

「友達 100 人できるかな」とよ田みのる

「トラウマイスタ」中山敦支

■ この作品に関しては、私の中にひとつの仮定がありまして。それは主人公・ピカソの顔がさまざまな場面で表情だけでなく、タッチも人格すらも変化しているように感じるということ。他のキャラはそんなことがなく、ピカソだけがそうなんです。もし作者の中山さんがこれを『敢えて』やっているというのなら、この作品はものすごいものなのだろうと思います。なぜならこの作品のテーマが『トラウマを乗り越えること』だから。中山さんご本人にぜひ聞いてみたいです！最後の最後までまったくダレることなく描き切った感じも大好きな理由！中山さんの次回作が早く読みたいです！

芳進堂ラムラ店 コミック担当 / 川崎 一利

「トリコ」島袋光年

■ 単純に面白い。少年の心をくすぐるような食べ物等、ワクワク感が尽きない。私の想像力を越えてくる表現は、毎回楽しみにさせられる。

DJ/DJ RANUMA

「とろける鉄工所」野村宗弘

■ 初めて、この作品を読んだ衝撃は、凄かったですね！すぐさま友達に連絡して、読んでみて！とオススメしてしまいました。鉄工所の漫画ですよ、一般的でないこの題材で誰が勝負しろと言うのですか！？それをこんなにも面白く描くなんて！と、思っていたら、瞬間にヒット！漫画読者もしっかり作品を見ていますね。読み終わった後、いろいろな所で溶接部分が気になりだしたのは言うまでもありません。

COMICCOZZLE(韓国) 店長 / 野田 真人

■ 3Kの職場で繰り広げられる（そこでは）日常の風景。中には、あまりのことに驚いて笑えない人もいますが、本人達にとってはいたって当たり前のことなのだ。さて、それを支える家族も重要。残業で遅くなるというメールを読む北さんの奥さんの表情が、実にいい。奥さんから、帰りが遅いと愚痴をこぼされるお父さん達は、さぞや羨ましいことでしょう。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店コミック担当 / 山本さとみ

「DROPS」阿仁谷ユイジ

- 五姉弟の家庭の事情と恋愛模様。これが本当にエロかわいいんです！エロくて変態、けどかわいらしくみんなが描かれていて、そこが、もう！本当にたまらんです。

恵文社バンビオ店 店長 / 宮川 元良

「70億の針」多田乃伸明

- 元ネタとなる作品も読んでないのでSFとしてどうなのか、っていうのはよくわかりませんが間違いなく面白い。「センス・オブ・ワンダー」感じました、僕は。いろいろやり尽くされた感のあるセカイ系への新たなアプローチとしても読める気もするし。二巻の終わりで正直このあとギャグマンガにしかならないんじゃないか、と余計な心配をしてしまったんですが、いい意味で予想を裏切り続ける展開。後は尻すぼみにならないことを祈るばかりです。正直期待値も込みです。

ヴィレッジヴァンガード町田 店長 / 大山 敏樹

「日常」あらゐけいいち

- 天才の書くギャグマンガ。言語感覚、テンポ、センス。いずれもすごすぎるのもっと注目されていい。何度読んでも面白い。すごい。

ブロガー / サイトウ マサトク

「猫絵十兵衛～御伽草紙」永尾まる

- 自他共に認める「猫好き」な私は基本的に同属性の方以外には「猫漫画」をオススメしない。「この漫画好き！」と主張はすれど、人に薦めるには「趣味」が入り過ぎていて「万人に」オススメして良いものではないから。でも、この「猫絵十兵衛～御伽草紙」は違います！鼠除けの猫絵を描きながら生計を立てる「猫絵師」十兵衛と元・猫仙人ニタの織り成す大江戸人情物語で、表紙から受ける印象とは違い、江戸の町を舞台に繰り広げられる猫と人間の心温まるお話の数々に思わずほろりとしてしまいます。読み始めて 5 分でこの作品の虜になる事間違いなし！1 話読みきり型で読みやすいので、猫好きな方はもちろん猫に興味のない方にも是非とも読んでいただきたい、今、最もオススメしたい作品です。

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 / 豊島 さやか

「ねこだらけ」横山キムチ

- 意味なんかない。そこにねこがいるから、組体操もするしダンスも踊るのです。ただそれだけ。

三省堂書店 神保町本店 / 赤坂 真実

「野田ともうします」柘植 文

- 同じ名字と言うこともあり、作品名にひかれて読みました！いや～あ、面白かったです。日本の書店に勤めてたら間違いなく、強烈にオススメしていますね！今は、虎視眈眈と韓国で発売されるのを願っているんですが、日本の名字が題名では発売は難しいか…うん！？「のだめ」も大丈夫だし、大丈夫か！って、問題じゃなかったですね。みんなにんだかんだ愛されている地味で世間的に大きくズレてる野田さんの愛すべきキャラクター性をたくさんの人に読んで、大いに笑ってほしいです！

COMICCOZZLE(韓国) 店長 / 野田 真人

「のらみみ」原一雄

- ちょうど 8 巻で完結。居候キャラが闊歩する世界を舞台に描かれるエピソードのひとつひとつが珠玉の輝きを放つ。万人におすすめしたい良作。

書評系ブログ「yama-gat site」管理人 / yama-gat

「ノラ猫の恋」長野香子

- 空気感・世界観・絵、どれも自分が好きな感じの漫画でした。父親という一つの共通点以外何も無いオカマと女子高生と同僚と称する男が何の因果か暮らし始めるホームドラマ！続きがとても気になります。マンガにでてくるオカマは、何故か、男よりもカッコいい！

フリーデザイナー / 平沼 寛史

「はじめてのあく」藤木俊

- 「ラブコメ」これに尽きます。ある意味一番少年サンデーらしい作品です。なによりキャラクターの「好き」という気持ち（意識する、しないは別として）がとても良くわかる作品です。ラブコメは素直な「好き」という気持ちが出ていることがやっぱり基本だと思わされます。

会社員 / 林 礼春

- 少年漫画もがんばってるんだぞ。というところをおしたい2009年でした。そりゃ、ワンピースやNARUTO は別格としても、これから来るだろう少年漫画もおさえておきたい。月光条例とはちがって、ほんとにサンデーっぽい、居候ドタバタマンガ。高橋留美子が確立したであろうこのサンデーの王道を意外な人物、「こわしや我聞」の藤木俊によって継承されております。まんが大賞に、ホッとしてみられる一本があってもいいじゃない。今はそうではなくなったけど、子供のころはこういう王道漫画が大好きだったなと思いだされます。どこまでも純粋なジローを楽しんでやってください。

フリープロデューサー / 小林 智之

「バチバチ」佐藤タカヒロ

- 野郎系作品では最も期待したい作品。チャンピオンの王道を行ってます。ドカベン、バキの次はバチバチ！？

漫画全巻ドットコム / 安藤 拓郎

「花と奥たん」高橋しん

- かわいい新婚さんが中心となる家庭料理のホームコメディかと思いきや、悲惨で重苦しいバックボーンのある酷薄なSFだという衝撃。しかし、絶望に満ちた荒廃した世界の中で、明るく振る舞いたただく夫の帰りを待ち続ける奥たんの気丈な姿が泣けるんです。

ひょうたん書店 西田本店 / 筒口 征洋

「ばらかもん」ヨシノサツキ

- 島でのほのぼののスローライフなお話かなと思ったらそれだけでなくとっても味わいのあるお話です豪快な島の住人の子供達やお年寄りとのやりとりは面白くてどこか懐かしくて、素直な気持ちになります人生にちょっと行き詰った時のヒントなどもさり気なく描かれています。今後も楽しい作品です

有隣堂 / 徳永 あけみ

「P.S. アイラブユー」谷川史子

- まっすぐ。2009年一番大ハマリした作家さんが谷川さんでした。きっかけは『手紙』で、それ以降著作をかき集めては読んで涙し、また買って読んで涙し、の繰り返しでした（笑）そして飲み友達に一番プレゼントしたのも谷川さんの著作でした。なぜ『涙し』、『プレゼントした』のか。その答えが最初の言葉、『まっすぐ』だから。登場人物たちのまっすぐさももちろんそうなのですが、その描き方もひたすらまっすぐなんです。しかも全然昔から変わっていないんですね。それが谷川さんご本人にお会いして、ご自身がまっすぐな方なんだとわかったらすべてに合点がいました。そんな中でも、まっすぐな少年の一瞬見せるオトナの表情がせつないこの作品を推します！

芳進堂ラムラ店 コミック担当 / 川崎 一利

「ヒーシート アクア」ウィスット・ボンニミット

- すいこまれた！素直な世界。素敵！おもしろい！こんな世界、こんなに素敵な世界は、僕は、描けない。実際に書けないし、心や頭で描く事も、できない。えんぴつ？みたいな、やわらかタッチの大胆漫画！すごい！すごい！！！！！！！！！！

ミドリ / 後藤 まりこ

「Piece」芦原妃名子

- いわゆる少女マンガのカテゴリーに含まれるのはもちろんなんだけど、前作「砂時計」と同じく、稀に見る堂々とした大河、であります。19歳で死んだ元クラスメートが残した謎を解明するべく、主人公・水帆が故人ゆかりの人びとを訪ね歩くのがストーリーの骨格。その過程で時間と記憶は自在に飛び、それぞれ読み応えのあるサブストーリーがフラッシュバックされる。そのひとつひとつの挿話が合流し溶け合い、骨太なドラマの奔流をなす、そんな予感に満ちています。水帆はじめ登場人物のほとんどは、それぞれなにがしかの欠落ないし欠落感を抱えている。そんな実社会に出るにはまだ少し猶予がある19歳の登場人物たちが、謎を解き明かすために関わる／関わらざるを得ない大人社会はほの暗く、ストーカー、不倫、シングルファーザーといった重いテーマがジェットコースタードラマのように展開していく。全体のトーンは重苦しい。それでも、前を向いた希望が感じられる。それが読み応えとなってくいぐい読み手を引っ張る。力のある漫画家の仕事ぶりを堪能できます。

日本経済新聞社 編集委員 / 天野 賢一

- 完全に引き込まれた。謎が新たな謎を呼び、私には展開が読めません！だからこそ面白い。今後の展開が気になる！早く続きが読みたい漫画のひとつ。

シンガー / 山野井 千佳

「ヒストリエ」岩明均

- ”知恵”の使い方がテーマの歴史漫画。ノンフィクションで紀元前の話なので、ストーリーがこの先どうなるかも、とても気になってしまいます。ある意味、「一休さん」にも似た漫画かもしれません。(真似できる人なんていないと思いますが・・・)

デザイナー / 佐藤 優

「瞳のフォトグラフ」GUNP

- 同人誌時代から好きな作家さんでしたので、チェックしていましたが、最初読んだ時はキャラ萌えコミックスだと思っていたのですが、しっかりとフォトを追っている部分もあり学園部活物としてまだまだ期待がもてる作品だと思います。作品中の「レンズの数だけ世界があるんですね」は良いセリフだと思います。GUNP作品ならではの言い回しですね。続刊では、主人公達のレベルに合せて技術的な解説も少しずつ入れて行って欲しいと思います。一眼レフカメラ買おうかな…

まんが王八王子店 / 日吉 雄

「秘密 トップ・シークレッター」清水玲子

- これまた巻が進むにつれ、物語がどんどん深くなっていきます。人間の業をまざまざと見せつけられます。8巻のどんでん返しは衝撃的。ミステリやSFとしても、非常に読み応えがあります。キャラの三角関係もひそかな楽しみ(笑)。

旭屋書店船橋店 / 安田 奈緒美

- プロットが練られており、ミステリーとして非常に良くできている。ミスディレクションもうまく、作中2転3転どんでん返しが続く、ラストまで息が抜けない。個人的には2巻の切ない余韻を残すラストが印象的な話が一番好きだが、他の巻も珠玉ぞろいで外れなし。そして絵が本当に美しい。白骨化した死体のシーンで、陰惨さよりも絵の美しさに感動するって普通はありえないと思います。

ジュンク堂書店新宿店 コミック担当 / 小磯 洋

「百姓貴族」荒川弘

- このマンガもすごいがこの作家もすごい。ストーリーマンガもエッセイもここまで面白いものを書けるなんて、素晴らしい作品。

福家書店福岡店 販売係長 / 日高 礼子

- ハガレンの著者による、自身の農家体験を描いたエッセイコミック。笑えます。そしてたまに考えさせられる。やっぱりうまいんだなあ。

ジュンク堂書店 池袋本店 / 田中 香織

「ビリーバット」浦沢直樹

- いわずと知れた大作家の最新作！こもりのイラスト（漫画）に始まり、どんどん広がる作品世界。まだまだ膨張中。注目度ナンバー１！

本と文具ツモリ / 津守 晋祐

- ハガレンの著者による、自身の農家体験を描いたエッセイコミック。笑えます。そしてたまに考えさせられる。やっぱりうまいんだなあ。

バイオリニスト / 佐藤 帆乃佳

- 謎、謎、謎。浦沢先生のいつもの大風呂敷が、きちんと畳まれることを祈っております。

アンチパッティングセンター / 増山 寿史

「ファイトじじいクラブ」山本健太郎

- ふらっと表紙買いをしたところ、表題作にノックアウト。何度よんでも良い話です。リュウ太のくやしさ、成長と一緒に、自分も勇気づけられます。リュウ太がいい子すぎて惚れます。

フリー WEB デザイナー / 河本 知香

「ファムファタル〜運命の女」シギサワ カヤ

- 一言で言えばヒドい話。体裁としてはよくある大学生同士の恋愛モノだけれども、えげつなさと天然の絶妙なバランスに引き込まれます。それこそあざといという言い方も言いえて妙かと思えるぐらいに。

眼鏡時空主宰 / 田中 海渡

「ファンタジウム」杉本亜未

- 主人公の少年がマジックをしてるシーンを見ると不思議なぐらい胸が熱くなってしまいます。

PENICILLIN(vo)/HAKUEI

「腐女子っす！」御徒町鳩

- この本が好き、このマンガが好き、このひとが好き、好きだからわかってもらいたい…。「すき」という感情にふりまわされてつらくなる時もあるけれど、でも自分の「すき」という気持ちにまっすぐで。タイトルで敬遠されてるのはもったいない！これは本当にまっとうで、ものすごくかわいい少女マンガだと思うのです。

恵文社バンビオ店 文芸書 文庫担当 / 大瀧 彩子

- うちの女子スタッフに言われるまでノーチェックでした。腐女子だって普通の女子！恋愛もすれば恥じらいだってあるんです！という部分がかわいくて仕方がない。悶えながら読んでます。恵文社バンビオ店 文芸書 文庫

恵文社バンビオ店 店長 / 宮川 元良

「フダンシズム」 もりしげ

- まだ間に合うと今年もエントリー。腐女子の姉が参加する同人誌即売会の売り子として動員されて女装を始めたアマネのそのビジュアルのかわいらしさは相変わらず。男の娘（こ）が新聞ネタにもなる昨今をまさに先取りした作品と言えよう。オタクともやおいとも無縁の少年が、姉やその友人に引っ張り込まれた挙げ句に“腐”を学んでいく姿が実に愛らしく、そんな彼の奮闘にならないながらその道を学んでいけるというガイド的な要素も持つ。最新刊で学祭でのクラス優勝を目指そうと呼び込みのために自ら扮したアマネではない女装姿の美しさに惚れ惚れ。

書評家 / タニグチリウイチ

「ブラステッド」 室井大資

- ヤクザの世界に馴染みきれない主人公が暴力の渦に否応無しに引きずり込まれるバイオレンス漫画。。。というありふれた説明で申し訳ないのですが、この先生の暴力描写はいつも生々しいです。読んでいるとまるで血の臭いや死臭が伝わってきそうで、そういった業界にいたのかってぐらいの生々しさを感じます。主人公と行動を共にする”顔”と呼ばれる（顔面にある傷のせいで常に笑っているような表情の）男が言う、「すぐにマヒしていく、なにも感じなくなる」の台詞にはゾクリとしました。1話目と1巻ラストに出てくる台詞というかコピーの様な「あんたは思い知るだろう〜」には読み手に対していつている気がしました。

ミュージシャン / TA-SHI

「f l a t」 青桐ナツ

- 男子高校生「平介」と幼児「秋」の織り成すストーリー。心のやわらかい部分を驚つかみする一作。女子に偏りがちな読者傾向だが、もちろん男の子のもおすすめです！

本と文具ツモリ / 津守 晋祐

- 登場人物が生きてる。なんなんだろう、あの秋くんの表情、たまらない。何度ときめいたことか！照れて笑った顔、我慢した顔、落ち込んだ顔…ばあって赤くなる頬っぺたにかみつきたくなるのは私だけじゃないはず！

バイオリニスト / 佐藤 帆乃佳

- 秋がラブリー♪

SHIBUYA TSUTAYA / 実松 由夏

- 無口な幼児、秋が何故人としてダメな方に入るのであろう平介を好いているのか理解できないが、読んでいてと幸せな気分になる。

(株)成田本店とわだ店 主査 / 安田 幸

「プリーズジーズ」 勝田文

- 原作があますとこなくマンガになって。パーティのバカ面はこれかーと想像以上にその通りだったのが大変嬉しく。

ブックファースト / 林 香公子

「プリティ・マニア」 スエカネクミコ

- 一言で言うと、おっぱい。それに尽きます。内容はお色気系のギャグなのですが、もー女子のお胸やらお尻やらがムッチムチでばわわ〜んと柔らかそうで…たまらん。下着の描写にも作者の拘りが光っておりますよ！…こう書くとお色気しか見所がないのか！って感じですが、もちろんギャグマンガとしても一級品なのは間違いありませんよ！人前で読むと危険レベルです。ギャル女子とオタク男子の王道 (?) ラブストーリーにおっぱいが加わった最高のギャグコミックです。

元書店員 (三省堂書店経済産業省売店勤務) / 畑中 瀬路奈

「PLUTO」浦沢直樹

- 「神様」手塚治虫と「天才」浦沢直樹という最高のコラボレーション。最初から最後まで完璧でした。この作品を表現するとき、横綱マンガという言葉が適切ではないかと思います。8巻という長さも調度良く、浦沢作品にありがちな情報過多による置いてけぼりを食らうこともないでしょう。たまに出てくる「手塚エッセンス」にニヤリとしながら、事件の行方をハラハラしながらイッキ読みして欲しい作品です。

フルハウス八戸ノ里店 店長 / 佐藤 誠

- 悔しいけど面白い。そしてズルい。誰だって、好きな漫画の見えない部分を（勝手に）思い描いたことはあるだろうが、それを自分の作品として発表する奴がいて、それが自分の想像より面白くて、なおかつ自分が読みたかった漫画であつたら、そう思うしかないでしょう。しかもそれが、自分の作品としてきちんと成立してるんだからなあ。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店コミック担当 / 山本さとみ

「ぷるるんワンダーランド」ながしま超助

- 天才だと思う。巨乳とギャグの相性の良さは異常。

ライター / 芝田 隆広

「FRONT MISSION DOG LIFE & DOG STYLE」太田垣康男 C.H.LINE

- 生と死のぎりぎりに立ったところで、人間がどう動くかを、真摯に考えた作品だと思う。「ゲームのコミカライズ」という次元を遥かに超えている。

ダ・ヴィンチ編集部 / 関口 靖彦

「ベリー ベリー」日高万里

- 双子の姉妹が女子のために悪と戦う！ってほど壮大ではないが、困った人を放って置けない。万里ワールド全開で、相変わらずキャラがかわいい。

SHIBUYA TSUTAYA / 実松 由夏

「変ゼミ」TAGRO

- とある大学のゆるーいゼミ生活を描く、とだけ言えば、ドラマになりにくい、そのゼミが「変態生理ゼミナール」とくればちょっと話が違う。最初から下着泥棒、スカ○口、盗撮等々、強烈に攻めてきて、タブーを感じさせない。が、一歩立ち止まってみると、「普通の人と称するモノこそが偏見を持ち得る」という作中のコメントには意外にどきっとさせられる。そもそもどこかに「普通の人」なる人間が存在するのかどうか、考えてみればちょっとわかる気がする。普通であろうとすること、KYと言われたくないよう振る舞うこと、中庸に甘んじること。でも、人には個性のスパイスが必ずある。作者が描きたいのは、「変態」というどぎつい表現の中にある人としてのプライドなのではないかと思わされた。

国分寺市議会議員 / 三葛 敦志

「ペンとチョコレート」ねむようこ

- 『午前三時の無法地帯』も好きですが、私的にはこちらを推したいです。働く女の子の日常的な視点を巧みに描いているのもさることながら、キャラの生々しさは圧巻ですね。みんな悩み、でもそれ以上にハッピーになろうとしている。働く女の子の応援歌としてプレゼントしたい1冊です！

芳進堂ラムラ店 コミック担当 / 川崎 一利

「ベントラーベントラー」野村亮馬

- 時代が変わると人もかわるもので、「宇宙からの謎の物体が飛来！！」「東京タワー宇宙人に乗っ取られる！！！！」70年代なら、大騒ぎになりそうなこんな事件。でもね…全然大した事件になんないんですっ！！近未来SFのこの作品。宇宙人に絡んで色々な事が起こるけど、おきらくごくらくなんだかんだで事件が解決のノンビリSF宇宙人のクタムさんがいい味だしてます。でも、価値観の違いとか、岡本太郎が好きとか、宇宙人っぽいなって感覚はしっかり押さえてあるんだよな〜。あと、宇宙人のデザインに注目してください。古代の出土品のような、未知のものなんだけど、どこか懐かしい感じのするよいデザインです。散々宇宙人と書いたけども、よく考えたら私たちも宇宙人ですね。ただしくは外星人と呼びますね。この漫画では。いつか外星人という言葉が定着するような時代がくるのでしょうか。この漫画みたいになるなら、大歓迎。楽しみだな〜。ではみなさんご一緒に。ベントラーベントラー♪

鳥取県 米子高校 美術部&マンガ研究部顧問 / 佐川 由加理

「放課後ウィンドオーケストラ」宇佐悠一郎

- 自分の中で部活学園物ブームなのですが、その火付け役？にもなったと言える作品です。ただ残念な事に連載が終わってしまったのが非常に悔やまれます。前回も推薦しましたが、読み易さ、キャラ達のブラバンに懸ける必死な雰囲気が伝わってきて良い作品だと思います。

まんが王八王子店 / 日吉 雄

「放課後のカリスマ」スエカネクミコ

- 世界の偉人のクローンがひとつの学園に……。スケール、バックボーンが自然と大きくなります。非常に読み応えある作品です。

本と文具ツモリ / 津守 晋祐

- 学園の生徒は全て偉人のクローン。その中でたった一人の人間、史良。クローンの存在する意義、クローンとして生まれても芽生える自我。クローンである登場人物のキャラクターが魅力的。ギャグも所々織り交ぜながらミステリー要素も含み、生命、倫理を考えさせられる作品。

啓文堂書店 府中店 / 山本 仁美

「坊主 DAYS」杜康潤

- 師匠・荒川弘の「百姓貴族」も素晴らしいのですが、好奇心をそそるという意味ではこちらの方が惹かれますね。へー、禅宗の修業ってこうなってたんだ！普段あんまり触れることのないお寺の内幕って、こうなってたんだ！という驚きに満ちた本。激しく続編希望！

おたく史研究 腐男子 / 吉本 たいまつ

「ぼくたちは知ってしまった」宮坂香帆

- 高校生ブ漫画の胸キュン。いいです。絵も好きです。登場人物もかわいい&かっこいい♪共学、通って見たかったなー！（ずっと女子高）

フジテレビアナウンサー / 松尾 翠

「僕の小規模な生活」福満しげゆき

- 3巻がすばらしかった！「若い女の編集者」が出てくるのもいいし、とにかく妻に子供が生まれた後の僕の「ファフーン」の描写は、これまで見てきた「子供生まれ系漫画」の中でナンバーワンだと思う。全然ぬるなくて、かつ素直に喜びがあふれる描写に（これまでがこれまでだけに）本当に心うたれた！絵もどんどん好きになる！

漫画ライター / 門倉 紫麻

- 本音マンガ。本音を正確に語ろうとすると、妙に文章が長くなりがち。福満しげゆきは、まったく逆！超リアルマンガ家生活エッセイのこの作品の中で、絶対に怒ってやろうと思っていた若手女性編集者を目の前にして怒れなかったときの心理描写が、一言、「すごい！若い女！」……！ 嘩然！ いやあ、確かにそうなんだけど！自分の中での本音なんてのはまだまだ本音じゃないな、と「本音」という言葉のレベルを変えてしまうほどの作品。

ニッポン放送アナウンサー / 吉田 尚記

「ボクラノキセキ」久米田夏緒

- 続きがとても気になる作品。主役の男子高校生が王女様の前世の記憶を持っている事から始まる。みんなが前世(?)を思い出して、現代で魔法が使える、これからどうなるかととても楽しみ。

福家書店福岡店 販売係長 / 日高 礼子

「星が原あおまんじゅうの森」岩岡ヒサエ

- 精霊と共に森で暮らす一人の青年。精霊を助けて感謝されると彼が下げているスタンプカードにスタンプが押される。そこにいること、そこにあること、必要とされていること届かないもの森に訪れる精霊や人間達と紡がれる物語はとても優しくてとても哀しくてとても愛しい。

啓文堂書店 府中店 / 山本 仁美

「星は歌う」高屋奈月

- 去年も投票したのですが、今年もお勧めしたい作品です。この作者の言葉が、私はとても好き。時には心に優しく響いて、時には闇の入り口に引きずり込まれそうになる。コメディ要素もちゃんとあるんだけど、あまり気楽に読みたくない漫画。勿論良い意味でね。なんだか物凄く心を揺さぶられる感じ。

シンガー / 山野井 千佳

「星守る犬」村上たかし

- この世知辛い世の中に生を受けた一人として、読んで「よかった!」と思える作品です。「絆」の大切さを改めて考えさせられました。

本と文具ツモリ / 津守 晋祐

「星守る犬」村上たかし

- この世知辛い世の中に生を受けた一人として、読んで「よかった!」と思える作品です。「絆」の大切さを改めて考えさせられました。

本と文具ツモリ / 津守 晋祐

- 犬と飼い主の交流を描いた作品は数多くあり、もはや1ジャンルと言っても過言ではありませんが、またひとつ、このジャンルに名作が生まれてしまいましたね。読むと無条件で泣けてしまう作品は困ります。読むと体力使うので。それでも読んでしまうんだなあ。

医師 / 岸本 倫太郎

- きれいな話です。ちょっと、心がしくしくしました。よかった。でも、ね、ちょっと、嫌やったんが、結構、嫌やったんが、オビ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!涙がでたって、書く事なんかー、うーん、僕は、あのオビやったから、買うん、だいぶ、ためらった。今年のためらった漫画ナンバーワン。

ミドリ / 後藤 まりこ

- この展開は卑怯だろ〜(いい意味で)。と泣きながら読んだ作品。いろんな感情が入り混じる本当の良品。

会社経営者 / 小野 ゆうこ

- 実は最初、出版社さんからゲラ頂いて読んだのですがその時の衝撃は結構凄かったです。久々にマンガが読んで泣いた作品となりました。特にペットとか飼ったことある人は、更に破壊力倍増だと思います。主人公である、お父さんと犬は一生記憶に残りそうですね。一度読んでもらいたい作品です。

まんが王八王子店 / 日吉 雄

- 大号泣です。ちょっと不器用で、根がいい普通のお父さんがなんでこんなことになっちゃうんだろう…。切なくて苦しい。でも大きな意味では、幸せって思って星になれたのでしょうか。今の社会の事、大事な事は何か、いろいろと思いを巡らせるきっかけになりました。

フジテレビアナウンサー / 松尾 翠

「ポテン生活」木下晋也

- 王道4コマ。日々の何気ない出来事にも隙間を見つける感性、そこにねじこむ空想力の豊かさに感服。

往来堂書店 / 三木 雄太

「マイガール」佐原ミズ

- とても純粋で、あらゆる愛情と思いやりにあふれた物語。男女だけでなく、親子や、友達など、近くにいる親しい人たちとの絆の物語でもあります。読むと必ず、ごうごう泣いてしまいます。

旭屋書店船橋店 / 安田 奈緒美

「舞姫（テレプシコーラ）第2部」山岸凉子

- 今、ダントツに続きが気になる作品。

公務員 / 東くるみ

「マギ」大高忍

- これぞ正統派、って感じの少年マンガですね。キャラクターに魅力がありまくりです。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

- 週刊サンデーで好評連載中の作品。1・2巻発売したばかりですが、連載中からずっと気になっていた作品なのでおすすめさせていただきます。王道の冒険もので、アラビアンナイトのアラジンが登場する設定のコミックです。笑わしてくれる所もあるし、シリアスな部分もあり、泣かせる部分もありで、読者を引き込んでくれる作品です。まだ序盤なのでどういう展開になるか楽しみな部分が多いですがおすすめです！

三省堂書店海老名店 / 近西 良昌

「マコちゃん絵日記」うさくん

- 「あんこをつけたまま生きてゆく、その意味と価値。」水沢悦子、ねり山ポコ太、徳川モロ助、みんなだいすきうさくんせんせい！

ライター / 会田 洋

「町で噂の天狗の子」岩本ナオ

- 主人公は天狗の娘で、人外の力を持っていて、とても普通の女の子ではないのに、繰り広げられる学校生活と人間関係は普通過ぎるほど普通。このギャップが面白い。天狗のお父さんですら、娘大事の過保護な親でしかないんだからしょうがない。癒されもしなければ憧れもしないが、自分の学生時代も、こんな感じで友達と喋っていたなあと思わせてくれる、実に日常的な少女漫画（でも登場人物は非日常的）。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店コミック担当 / 山本さとみ

- このマンガを一気に読めたことが09年の収穫かも。何がどう面白いのか説明できないところがつらい(笑)。

サブカル研究 / 荒川 澄

「魔法なんて信じない。でも君は信じる。」西島大介

- マンガ原稿をなくされてしまった体験をマンガとした珍しいタイプのマンガです。なくした経緯、補償額とその金額決定の経緯、出版社側の対応までかなり赤裸々に書かれているのですが、これがとってもおもしろいです。一連の出来事が、この作者が書いている作品リンクしていたり、ちょっとした魔法がかかったかのような出会いが起きたりするのですが、まさに原稿がなくなった作品である、世界の終わりの魔法使いシリーズの一部のように思えてなりません。何でもマンガになるんだなーって作者は書いているのですが、自身に起こった重大事件をこんなにコミカルに、やさしくかける人はあまりいないのではないかと思います。

IT系企業 / 廣瀬 公将

「ママはテンパリスト」東村アキコ

- 今年いちばん笑わせてもらって、仕事の疲れも吹き飛ばしてもらいました。読み込んで、ごっちゃんのおまねする位。青山の青い鬼のところ、特に大好き。ごっちゃんLOVE！

フジテレビアナウンサー / 松尾 翠

- 育児マンガではなく、ギャグマンガとして秀逸。何か懐かしい感じすらする、THE マンガ的なテンポが心地良く、楽しい。

Juvenile. 音楽家 / 児嶋 亮介

「万福児」下吉田本郷

- お寺の息子、福志もお母さん文子さんも自由奔放で、まじめな仏教オタクの住職のお父さんが日常の生活の中で悩まされ時には福志に教えられのお話。幼稚園児の福志と文子さん手作りの『びっくりん子』←粘土をうちの形に作って茶色に塗ったもの。是非ガチャガチャで販売してほしい！読んでいて笑いもあるのけど時にとっても和やかだったり優しい気持ちになれるところが好き。

フリーカメラマン / 平沼 久奈

「みどりのまきば」御徒町鳩

- 小学5年生って大変だ。友達とか幼馴染みとかからちょっと進んだ恋心が芽生えて異性との関係にドキドキし始めるお年頃。男の子と女の子の双子はお互いに違うものになっていくんだと気づいて寂しさと焦りに思い悩む。勉強で競争が始まりいじめとかも行われたりして、自分と世の中との関係を否応なしに意識させられてしまう。このままでいたいと思ってもどうにもならないとも分かって焦りがちになる変化の時期を、それでも落ち込まず逃げ出さず見捨てもしないで毎日を明るく過ごそうとする小学5年生たちを描いたストーリー。

書評家 / タニグチリウイチ

- 小学5・6年生ごろって、今まで一緒に遊んでいた男子と大人びていく女子の間でぼんやりした境界線ができてきたり、急に身長やら体重やらが気になりだしたり、ませてる子と子供っぽい子の差が激しくなってきたりする、微妙なお年頃。そんな思春期手前の小学生、仲良し5人組（男子3、女子2）の「ごく普通な」日常を描いたお話。彼らに訪れる変化の波が、本人たちも気付かないうちにちょっとずつ毎日を変えていく様子は、思春期を過ぎた大人にとってはたまらなく可愛らしく、そしてその新鮮さを羨ましく思ってしまう。ああこんなことあったな、なんかいいなって気持ちにさせてくれるお話です。

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 / 豊島 さやか

- メジャーな作品は皆さん選ぶでしょうで、「あまり知られていないだろうけれどいい作品」を選んでみました。ココロも、カラダも成長していく小学生の姿を、リアルに描き出した作品。オトナでもコドモでもない、微妙な気持ちや、この年齢ならではの意地っ張りぶりを描き出して、ドキドキします。

おたく史研究 腐男子 / 吉本 たいまつ

「未満れんあい」高嶋ひろみ

- 28歳恋愛経験なし、トラウマありの黒瀬さんと、14歳のともえちゃんのういういしい恋愛。ジェネレーションギャップに悩みながらも、なんとかともえちゃんとの細い関係を切らさないように頑張る黒瀬さんを、心から応援したくなります。

おたく史研究 腐男子 / 吉本 たいまつ

「無修正学級 カラレヤ ～狩られ屋～」佐藤マコト

- こんな先生がいたら、鬱陶しくて、面倒だと思う。だが、こんな先生にいて欲しかったと思う！現代の社会で、真っ向に生徒にぶつかって行けなくなってしまった「学校」。こんなに「芯」の通った先生なら、面白くて、逆に学校に行きたくなくなるはず！

フリーデザイナー / 平沼 寛史

「もうかえってくれないかっ」ふじまつ

- 小太りで3頭身、うつろな目にいらっとくる言動、全てにおいて癪に障るこの緑色の宇宙人のことが気になって仕方ありません。

恵文社バンビオ店 店長 / 宮川 元良

「魍魎の匣」志水アキ

- 画力は高し！構成力も高し！ストーリーは原作が京極夏彦という時点で間違いなく面白し！小説が原作のコミックはとかくファンの期待を裏切りがちですがこの作品は京極ファンの私も文句なしどころかよくぞ描いてくれたと大感謝の作品です！

信長書店四条河原町店 アルバイト / 中村 誠亨

「MO' SOME STING」ヤマシタトモコ

- 所謂 BL 作品です。でも！そんなこたあどうでもよくなるくらいハードボイルドな作品です。ていうか全然 BL 好きじゃなくても読める！寧ろ読まないのは勿体ない！それぐらい格好良くて、ぐっと来るストーリーなんです。あと、メンズがカッコいいのは勿論ですが、出てくる女子が可愛くて格好いいのも見どころ。芯の強い女子高校生最高ッス！

元書店員（三省堂書店経済産業省売店勤務）/ 畑中 瀬路奈

「百舌谷さん逆上する」篠房六郎

- このような狭い趣味（？）の作品は挙げるべきではないと自らを戒めていたが、3巻が出るに及んで、もうダメ。これ以上自分を偽れません。小音さん、愛しています。もっとひどい目にあわせてください。

中央公論新社 雑誌・書籍編集局次長 / 石田 汗太

「ももんち」冬目景

「ゆうやみ特攻隊」押切蓮介

- ホラーギャグ作品『でろでろ』の作者として知られ、近年では『ミスミソウ』など人間の心の闇を描いた作品でも評価されている押切蓮介氏だが、『ゆうやみ特攻隊』はその中間的といった作風。初期こそ『でろでろ』と似たようなギャグ要素も見られるが、主人公の過去のトラウマへと物語のスポットが当たるにつれ、ホラー要素の濃いアクションものへとになっていく。物語には孤島・生贄・土着信仰・旧家に怨霊といった伝奇的要素がふんだんに盛り込まれており、そこに格闘アクションや主人公の成長といった少年漫画的なストーリー展開によって、怖いながらもワクワクできる作品へと仕上がっている。

Web サイト「最後通牒」管理人 / 高嶺 おろし

「ゆゆ式」三上小又

- まさにクラスメイトショック！「あずまんが大王」から10年、萌え4コマはついに「ゆゆ式」に到達した。

ライター / 会田 洋

「世にも奇妙な漫☆画太郎」漫 画太郎

- 絵が頭オカシイ。

公務員 / 東くるみ

「嫁姑の拳」函岬誉

- 嫁・姑のキャラクターがたちまくり あらすじを読むだけで惹きこまれる！

COMIC ZIN コミックバイヤー / 塚本 浩司

「ヨルムンガンド」高橋慶太郎

- 若い女性の武器商人と、彼女が従える私兵部隊を中心としたミリタリー・ガンアクション。初めのうちはどちらかというミリタリー・オタク的な要素が強い作品かと思っていたが、ストーリーを追うごとに徐々に明らかになっていく登場人物の過去や物語の背景にどんどん引き込まれた。特にキャラクターの心理描写が秀逸で、最新刊になるほど面白く感じられる。

Web サイト「最後通牒」管理人 / 高嶺 おろし

「ラキア」boichi

- ベテランシナリオライターの原作をもとに、驚異の人力マシンガンハイスピードカメラ撮影絵で描かれるキリスト教的世界観がベースの伝奇アクション。懐かしさと新しさ。

文筆業 / 海猫沢 めろん

「LOVE SO LIFE」こうち楓

- 「子供は天使」といいますが、保育士を目指す高校生・詩春は、ある日バイト先の保育所での働きぶりを買われ、双子のベビーシッターをすることに。保護者の松永さん（爽やか男性アナウンサー）には猛獣に見えていた双子が、詩春によってラブリーな天使に変身する様は見事です！家族の絆や暖かさに人一倍憧れているからこそ出てくる詩春の笑顔は、双子だけじゃなくいつの間にか松永さんまでノックアウトしていて、ふたりの今後が気になるところ。とにかくカワイイ双子ちゃんと温かく優しい空気に癒されます。

カルチュア コンビニエンス クラブ株式会社 / 豊島 さやか

「Love Hate Love.」ヤマシタトモコ

- 大好きな作家さんです。この人の描く女の人はいい。もちろん男の人もいいです。この教授の言葉使いとかたまらんです。「理屈抜きに好き」に真っ正面から向き合うワクワク感、閉塞感、他人の視線や思惑に左右される情けなさ、でもどうしても無視できないカンジ。そういうヒリヒリしてて綺麗な空気が漂っているマンガです。好きなものを好き！と言えるってほんとに幸せなことだと思う。

フリー WEB デザイナー / 河本 知香

- ナニコレ！！2009 年一番のトキメキ。自分の鼓動が、実際に恋をした時と同じような状態になっていて驚いた…年上（かなり上、そして枯れ気味）が好きな女性は必見。

バイオリニスト / 佐藤 帆乃佳

「乱と灰色の世界」入江亜季

- 読むとドキドキする。幼き日に児童書を読んだときに感じた感覚に近いドキドキ。主人公、乱の純真さと行動に、兄、陣のかっこよさに、世界を見守る母の強さとナイスバディに、彼らを取り巻く物語にドキドキしながら読み返す。

恵文社バンビオ店 店長 / 宮川 元良

「Real Clothes」槇村さとり

- いつも「YOU」のクオリティの高さに敬服しています。その中で一番を選ぶのは難しいですが、あえて選べばこれでしょうか。

コミティア実行委員会代表 / 中村 公彦

「RED」山本直樹

「恋愛ラボ」宮原るり

- ストーリー四コマ。学生達の和気あいあいとした掛け合いが読んでて心地よいです。四コマならではのテンポの良さも注目すべき点です。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

「蠟燭姫」鈴木健也

「ロツテのおもちゃ」葉賀ユイ

- 元タイラストレーター出身の漫画家さんですので、絵の可愛さは折り紙付きですが、そのイラストにマッチしたドタバタ主従？ラブコメは読んでいてほのぼのします。やはりコミックスもバランスは大切です。可愛く楽しくが好きな人にはお薦めできると思います。

まんが王八王子店 / 日吉 雄

「ロボット残党兵」横尾公敏

- ロボット兵器が実用化された太平洋戦争を描いたまさしく妄想戦記。作画・作劇とも荒削りだがそこが魅力。書評系ブログ「yama-gat site」管理人 / yama-gat

「わ！」小島あきら

「惑星のさみだれ」水上悟志

- 巻を重ねるごとに高まっていく緊張感と疾走感は秀逸！さらに、掲載誌など一見するとファンタジーもの？SFもの？という感じですがそうでなく、『人生』を不器用に描いているんです。特に7巻以降の展開は鳥肌もの！主人公・夕日の成長が、彼ひとりのものでなく、彼ひとりのためでなく、彼ひとりのおかげでなく。そういう根源的なつながりというか、人として忘れてはいけないかたちに表せないものを描いていると思います。今、舞台は最終局面。破滅的な終末を迎えるのか…それとも大団円なのか…最後まで彼らの『人生』に付き合っていこうと思いたくなる作品です。

芳進堂ラムラ店・コミック担当 / 川崎 一利

- この作者は『さみだれ』が初の長期連載でそれまではデビュー作の『散人左道』全2巻が最長です。それが功を奏して言えば良いのか読切作品の密度を持って『さみだれ』や『戦国妖狐』の連載が続いています。締切に追われる連載という周期の中でこの密度の濃さは只事ではありません。登場人物の名前・劇中に出てくるマンガやテレビドラマ・初見では素通りしてしまうほどの些細な言動の全てが伏線と言っても過言ではありません。1巻から読み返してみるとなんと発見の多いことか。構成力の高さに脱帽です。水上作品は穿った見方をすると説教くさいと受け取られかねない。しかしそんな説教くささを持っているのに読後の感想は爽やかです。それは大人たちは子供たちの見本・目標となり、子供たちはそのまた子供たちの見本・目標となるという至極真っ当なテーマを回りとどくなく直球で語っているからです。『さみだれ』において主人公は最初いかにも厨二的なひねくれた性格をしていましたが、敵との闘いにおける大人たちとの交流の中で精神的に成長し続けて年少者たちへの影響を考えた立ち居振る舞いをし始めます。まあひねくれているのは相変わらずですが。そして主人公に影響を与えた大人、これがカッコいいんです！特筆すべきは『さみだれ』におけるヒーロー的存在です。彼は物語序盤で退場してしまいます。しかし主人公に対しての影響力は終盤に入った現在も薄れることはありません。彼の言うヒーローとは自分を肯定し続け、それを確定し続けること。100回に1回打てるようなラッキーパンチを1000回続けて打てると信じ、実際1000回打てる者のこと。それができたらまさしく「ヒーロー」です。流石に主人公はその域にまでは達しませんが、確定し続けは出来ませんが、自分を肯定し続けます。そして限りなく確定し続けるための能力を開発します。年少者のピンチに駆けつけた時に主人公は言います「ヒーロー見参！」これは主人公に「彼」の遺したものが明らかに伝わっているという証明だと思います。ぜひ読んでみてください。めちゃくちゃ面白く、燃え、泣けるマンガを描く作家です！

信長書店四条河原町店 アルバイト / 中村 誠亨

- この作品に限らず水上先生の漫画には心を打たれたり、台詞にも目からウロコになったり、「必殺技や戦う前の口上は声を上げる」な心意気に燃えまくりです!! 丁寧に一人一人の人物描写をされているので、わかったかいたけどなキャラクターの死の場面に涙が止まらないんです。ネガティブな思考やどん詰まりな状況の袋小路に陥った時、爽快にぶち壊すキャラクター達の閃きや決意や台詞にシビれる、懂れるううっ!!

ミュージシャン / TA-SHI

- 掲載誌は青年誌のカテゴリかもしれないけれども、今、イチオシの少年漫画! 地球を守る戦いに巻き込まれた運命の騎士たちの物語。そんなファンタジーにも関わらず、日常も非情も希望も絶望も現実的に描かれていく、それでいて気持ちのいいお話です。

眼鏡時空主宰 / 田中 海渡

「ワシズ 閻魔の闘牌」原恵一郎

- ワシズさんの大活躍ぶりに惚れなおす。すごいぶっとびぶり。

ライター / 芝田 隆広

「ワンダフルライフ？」ケイケイ

- 主人公の下ぶくれの顔に癒されます。点点だけの目に癒されます。ボテ腹にも癒されます。毒づかれてみたいです。

朝日新聞記者 / 小原 篤

マンガ大賞
Cartoon grand prize
2010 マンガ読みが選ぶ 2009 年の一推!!